

時間割コード	KB8201	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	荒木 雅也				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

知的財産と著作権法

授業の概要/Course Overview

知的財産権の全体像を概観した上で、著作権法の基礎を学習する。
第2回から第7回において、授業終了時に、受講者の理解を確認するために、簡単なクイズを出題する。

キーワード/Keyword(s)

知的財産権、不正競争、著作権、引用、パロディ、コンテンツ

到達目標/Learning Objectives

- 知的財産法の全体像を理解し、説明できる。
- 著作権法の概要を理解し、説明できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 【授業内容】シラバスを用いたガイダンス。知的財産法の全体像。
- 【授業外学修】指定教科書の目次を読んでおくこと。
- 【授業内容】不正競争
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。各回の授業外学修に要する時間は60分程度目安とする。
- 【授業内容】著作権法の歴史と基礎
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】著作権の概要
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】著作権の侵害
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】引用とパロディ
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】コンテンツビジネス
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】まとめ（45分）と小テスト（小テスト）
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【アクティブラーニング】第2回から第7回に、クイズを出題する。

履修上の注意/Notes

必要経費は、教科書購入費用のみ。

情報端末の活用

オンライン授業であり、資料はTeams上で配信するので、毎回の授業時にPCを用意すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

クイズ：30点（各5点×6回）／期末試験：70点

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	知財語り
著者名	荒木雅也
出版社	朝陽会
出版年	2020
ISBN	9784903059600
教材費	1000

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8202	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	石垣 建志				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

経済学入門（合理的な意思決定）

授業の概要/Course Overview

経済学は現代社会を生きるための常識です。経済学の正しい考え方を身につけましょう。
 経済学の基礎をわかりやすく教えます。
 基礎といっても、現実とかけはなれた議論ではなく、実際の世の中の仕組みを理解することができる、実用的な経済学です。

キーワード/Keyword(s)

ミクロ経済学, サंकコスト, 割引現在価値, リスク, 比較優位, パレート効率, 需要と供給

到達目標/Learning Objectives

サंकコスト, 割引現在価値, リスク, 比較優位, パレート効率, 需要と供給などミクロ経済学の基礎的概念を理解する。
 このことを通じて合理的な意思決定を理解する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス
2. サंकコストの呪
3. 割引現在価値で比較する
4. 交換のメリット
5. パレート効率とは何か
6. 需要と供給
7. 税金と負担
8. 市場は何をしているのか

【授業外学修】

講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

履修上の注意/Notes

オフィス・アワーは金曜2時限です。
 試験は、授業内容から出題します。

情報端末の活用

・講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信するので、毎回の授業時にはP Cを持参すること。

・課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：本授業の範囲内のミクロ経済学の基礎的概念を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：本授業の範囲内のミクロ経済学の基礎的概念を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：本授業の範囲内のミクロ経済学の基礎的概念を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：本授業の範囲内のミクロ経済学の基礎的概念について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：本授業の範囲内のミクロ経済学の基礎的概念が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

中間レポートの提出（25%）と期末レポート（75%）による。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は指定しない。
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	この世で一番おもしろいミクロ経済学：誰もが「合理的な人間」になれるかもしれない16講
著者名	ヨラム・パウマン 著
出版社	ダイヤモンド社
出版年	2011
ISBN	4478013241
教材費	1500

参考書2

書名	ヤバい経済学：悪ガキ教授が世の裏側を探検する
著者名	スティーヴン・D.レヴィット, スティーヴン・J.ダブナー [著]
出版社	東洋経済新報社
出版年	2007
ISBN	4492313788
教材費	2000

参考書3

書名	ミクロ経済学Expressway
著者名	八田達夫 著
出版社	東洋経済新報社
出版年	2013
ISBN	4492813020
教材費	2800

参考書4

書名	ヤバい経済学 [DVD]
著者名	スティーヴン・D.レヴィット, スティーヴン・J.ダブナー [著]
出版社	角川書店
出版年	2011
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8203	ナンバリング	KB-GHS-131-ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	大沼 沙樹				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

経営管理論入門（経営管理の基礎を学ぶ）

授業の概要/Course Overview

本授業では、社会・経済活動の基盤である企業を舞台にして、企業を運営・管理する仕組みについて理解し、現実の経営現象を分析できるようになることを目的とする。特に本授業では、経営学を初めて学ぶ人でも理解が進むように、基本的な用語の解説を加えながら、経営管理の基礎的な視点を理解できるようにする。伝統的な管理論の視点をそのまま覚えるのではなく、現実に行っている課題を通して、どのように企業は活動しているのか、また自身が企業の中でどのように働くのかをイメージしながら理解することで、経営管理の考え方を身につける。

キーワード/Keyword(s)

企業、組織、管理、企業規模、業界、海外進出、生産性向上、人間関係、協働

到達目標/Learning Objectives

- (1) 経営管理に関する理論・概念を理解し、基本的な考え方を身につけられる。
- (2) 現実の経営問題について、学んだ知識を基に自分で考え、自分の言葉で表現し、分析できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 インTRODクシヨン

- ・授業の進め方の説明、扱うトピックの紹介

第2回 管理とは

- ・企業を管理するとはどういうことか、基本的な考え方や用語について解説する。

第3回 企業とは：規模や業界、法律の視点から

- ・企業に対して持つイメージは様々あるが、企業の大きさ、業界、法律といった視点から企業をどのように捉えられるかを解説する。

第4回 企業とは：活動範囲の視点から

- ・企業の海外市場への進出について取り組み事例を見ながら、現状や経営管理の難しさを考える。

第5回 作業能率をいかに向上させるか？：科学的管理法の視点から

- ・限られた時間や労力の中で、効率的に企業の生産性を上げるための具体的な管理方法について考える。

第6回 人は効率性だけで動くのか？：人間関係論の視点から

- ・人は機械のように作業を淡々とこなせるのか？という視点から、精神面や感情の役割を考える。

第7回 個人の管理から組織の管理へ：近代的な管理論の視点から

- ・複数の人々が協働し、成果を上げるために必要なことは何かを考える。

第8回 内容の総括とまとめの確認テスト

- ・内容の総括（45分）とまとめの確認テストを行う。

【授業外学修】

(1) ポータルシステムにアップされたPowerPointの資料を事前に読み、その中で気になった用語について書籍やインターネットを用いて調べて授業に臨むとより一層理解が深まると思われるので、実施することが望ましい。

(2) 日ごろからニュースや新聞、雑誌、参考文献など様々な媒体から情報を収集し、得た知識を現実問題にどのように応用できるか、自分で考え、積極的に深い知識を得られるように努めること。各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

小レポートを実施する（2回の予定。教務情報ポータルを通じて提出。）。新聞、ビジネス雑誌、映像資料等を用いた事例の紹介も交えつつ、その日学んだテーマに関して自分の主張や考えをまとめて書き、相手に伝える練習をする。また、Formsを用いて全体に質問を投げかけ共有するので、自分の考えを伝えたり、他者の考えを聞いたりすることで相互に理解を深める。

履修上の注意/Notes

(1) 本授業は、経済・経営学メジャー以外の学生で、経営学を専門としていない学生を主に対象とした授業構成となっている。そのため、経営管理論をより専門的に学びたい人は、本授業ではなく、担当教員の専門科目「経営管理論 I」の履修を勧める。

(2) 遅刻を30分以上すると内容の理解が難しくなるので避けること。

(3) 事前に授業資料をポータルシステム上にアップするので、自分自身でダウンロードすること。

(4) 授業内で全体へ度々問いかけをするので、自分だったらどのように考えるかを常に念頭に置いて、授業に参加すること。

(5) 受講生の理解度や進捗に応じて授業計画を変更することもある。

(6) 教科書は指定しないが、参考文献や資料を適宜授業中に紹介する。

情報端末の活用

Teamsおよび教務情報ポータルを使用します。授業及び授業外の学修や履修上の注意欄を参照してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の2点について極めて高いレベルで達成されている。

A：到達目標の2点について高いレベル以上で達成されている。

B：到達目標の2点についておおむね以上のレベルで達成されている。

C：到達目標の2点について最低限のレベル以上において達成されている。

D：経営管理の基本的な知識や考え方を理解できておらず、到達目標が全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト60%、小レポート40%

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	経営管理論
著者名	上野泰裕・馬場大治編著
出版社	中央経済社
出版年	2016
ISBN	
教材費	2400

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8204	ナンバリング	KB-GHS-113-GEP,JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	胡 安琪				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

Communication in Global Context A

授業の概要/Course Overview

This class would include intercultural adaptation lectures. Students learn about basics of communication studies. Lecture will cover a wide range of areas from “interpersonal communication” between individuals to “mass communication” for people in society as a whole. Also, it acquires cross-cultural understanding and communication skills through conducting international comparison and cultural comparison.

キーワード/Keyword(s)

Communication, intercultural comparison, cross-culture, interpersonal communication, mass communication

到達目標/Learning Objectives

The first goal is to develop the ability to interact with diverse people, and the second goal is to gain an overall picture of communication and to acquire ideas about oneself, others, and society. The final goal is to improve the skills of interpersonal relationships that are needed as an individual living in modern society.

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction (Explaining the course schedule, the contents of this course, and evaluation methods)
2. Verbal communication
3. Non-verbal communication
4. Interpersonal communication
5. Environment where people live
6. Within group communication
7. Between group communication
8. Mechanism of mind and society, individual and society (1Q summary session)

[Homework]

Review the lecture materials after each class. Submit small quiz after each class.

履修上の注意/Notes

This course will be mainly lecture. Basically, this course will be conducted in English but students are welcome to ask questions via email at anytime.

情報端末の活用

PC等活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : Students have fully mastered and applied the outline of each specialized field of communication.
A : Students have mastered and applied the outline of each specialized field of communication.
B : Students have generally mastered and applied the outline of each specialized field of communication.
C : Students have minimal acquisition of each specialized field of communication.
D : Students have not mastered or applied the outline of each specialized field of communication.

成績の評価方法/Grading

Students will be evaluated comprehensively from the following viewpoints: Quiz 40 %, Final Exam 60 %.

教科書/Textbook(s)

備考	特になし。授業内で関連資料を配付する
----	--------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	○
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日英併用

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8205	ナンバリング	KB-GHS-131-JEP,COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 雅一				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

都市と地域の社会学

授業の概要/Course Overview

現代の都市や地域の課題に関する歴史をふまえつつ、都市や地域という単位で問題化される諸課題の成立・展開を学ぶ。その上で、近年の社会的変遷との関連を検討し、都市や地域の課題に共通して見出される社会構造へ考え至ることができるよう取り組む。具体と抽象を往復しつつ、自身の地域との関係をふりかえり、整理することで、様々な社会的課題の分析や解決策の検討を進められることを目指す。

キーワード/Keyword(s)

都市、地域、地域集団、グローバリゼーション、コミュニティ

到達目標/Learning Objectives

- (1) 都市と地域の問題について、エビデンスに基づいた思考ができる。
- (2) 社会的変遷と都市や地域の問題を対応させて、社会構造の観点から考えることができる。
- (3) 社会的課題に対応する分析や解決策の検討を進めていくことができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 ガイダンス（シラバス使用）及び、都市や地域という単位で考えること
- 第2回 都市の変遷からみる都市化にともなう課題
- 第3回 産業の変遷からみる都市と地域の問題～Society 5.0による区分ごとの課題
- 第4回 日本における都市と地域の問題の変遷
- 第5回 都市と地域の問題に抗う担い手～地域集団の役割
- 第6回 グローバリゼーションと都市と地域の問題～物と人の移動による変化
- 第7回 都市と地域の問題は自身とどのように関わっている／いないとしてきたのか
- 第8回 グローカル社会における都市と地域の問題の分析と解決策（総括）

【授業外学修】

- (1) 予習：授業内容の確認、都市や地域に関する情報（ニュースや記事など）の収集に取り組む。
- (2) 復習：授業内容のふりかえり、不足分や新たに考えた内容を授業の記録に追記する。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 毎回の授業終了時にミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。
- (2) ミニツツペーパーに対してフィードバックを行い、更なる議論へとつなげる。

履修上の注意/Notes

遅刻や提出物の遅れは2回で欠席1回とする。

情報端末の活用

講義資料はmanabaを通じて配信する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。

A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。

B : 到達目標の3点（主に（1）（2））についておおむね以上のレベルで達成されている。

C : 到達目標の3点（主に（1））について最低限のレベル以上において達成されている。

D : 到達目標の3点のうち1点以上（特に（1））について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

小課題など授業への取り組み状況（50%）、最終レポート（50%）

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	都市と地域の社会学
著者名	森岡清志, 北川由紀彦編著
出版社	放送大学教育振興会
出版年	2018
ISBN	9784595318856
教材費	

参考書2

書名	新版キーワード地域社会学
著者名	地域社会学会編
出版社	ハーベスト社
出版年	2011
ISBN	9784863390287
教材費	

参考書3

書名	都市のリアル
著者名	吉原直樹, 近森高明編
出版社	有斐閣
出版年	2013

ISBN	9784641173927
教材費	

参考書4

書名	郊外の社会学：現代を生きる形
著者名	若林幹夫著
出版社	筑摩書房
出版年	2007
ISBN	9784480063502
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8206	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	荒木 雅也				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

知的財産と特許法・商標法

授業の概要/Course Overview

知的財産権の全体像を概観した上で、特許法・商標法の基礎を学習する。
第2回から第7回において、授業終了時に、受講者の理解を確認するために、簡単なクイズを出題する。

キーワード/Keyword(s)

知的財産権、特許法、商標法、侵害、類否、ライセンス

到達目標/Learning Objectives

- 特許法の概要を理解し、説明できる。
- 商標法の概要を理解し、説明できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 【授業内容】シラバスを用いたガイダンス。特許、商標の全体像。
- 【授業外学修】指定教科書の目次を読んでおくこと。
- 【授業内容】特許の基礎
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。各回の授業外学修に要する時間は60分程度目安とする。
- 【授業内容】特許登録の要件とライセンス
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】特許権の侵害
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】商標の基礎
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】商標の類否
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】商標登録の要件
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】まとめ（45分）と小テスト（小テスト）
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【アクティブラーニング】第2回から第7回に、クイズを出題する。

履修上の注意/Notes

必要経費は、教科書購入費用のみ。

情報端末の活用

オンライン授業であり、資料はTeams上で配信するので、毎回の授業時にPCを用意すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

クイズ：30点（各5点×6回）／小テスト：70点

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	知財語り
著者名	荒木雅也
出版社	朝陽会
出版年	2020
ISBN	9784903059600
教材費	1000

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8207	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	石垣 建志				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

経済学入門（ゲーム理論）

授業の概要/Course Overview

経済学は現代社会を生きるための常識です。
 経済学の大きな土台となるのが、ゲーム理論です。
 ゲーム理論は、「駆け引き」をあつかう応用数学の一分野です。
 あまり数理的にならない範囲で、しかし標準的な内容の入門レベルのゲーム理論の授業を行います。
 またゲーム理論の先に、これからの社会のあり方についてどのような展望が見えるのか、触れることができると思います。

キーワード/Keyword(s)

ゲーム理論, 標準形ゲーム, 展開型ゲーム 囚人のジレンマ, 進化ゲーム, Nash均衡解, 繰り返しゲーム, メカニズムデザイン

到達目標/Learning Objectives

ゲーム理論の基礎的概念を理解し、社会の現象などをゲーム理論を用いて考察できること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス
2. 標準形ゲーム（囚人のジレンマ）
3. Nash均衡解（混合戦略）
4. 展開型ゲーム
5. 部分ゲーム完全
6. 繰り返しゲーム（割引率, トリガー戦略）
7. 進化ゲーム
8. ゲーム理論からメカニズムデザインへ

【授業外学修】

講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

履修上の注意/Notes

オフィス・アワーは金曜2時限です。

情報端末の活用

1. 講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信するので、毎回の授業時にはP Cを持参すること。

2.課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 本授業の範囲内のゲーム理論の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 本授業の範囲内のゲーム理論の考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 本授業の範囲内のゲーム理論の考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 本授業の範囲内のゲーム理論の知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 本授業の範囲内のゲーム理論の知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

中間レポートの提出（20%）と試験レポート（75%）による。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は指定しない。
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	戦略的思考の技術：ゲーム理論を実践する
著者名	梶井厚志 著
出版社	中央公論新社
出版年	2002
ISBN	4121016580
教材費	760

参考書2

書名	ゼミナールゲーム理論入門
著者名	渡辺隆裕著
出版社	日本経済新聞出版社
出版年	2008
ISBN	4532133467
教材費	3500

参考書3

書名	メカニズムデザインで勝つ：マイクロ経済学のビジネス活用
著者名	坂井豊貴, オークション・ラボ著
出版社	日経BP日本経済新聞出版本部
出版年	2020
ISBN	4532358604
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8208	ナンバリング	KB-GHS-131-ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	大沼 沙樹				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

経営管理論入門（日本的経営を学ぶ）

授業の概要/Course Overview

本授業では、社会・経済活動の基盤である企業を舞台にして、企業を運営・管理する仕組みについて理解し、現実の経営現象を分析できるようになることを目的とする。特に本授業では、初学者でも理解が進むように、日本企業で近年課題となっているトピックを取り上げて、経営管理の視点から考えていく。伝統的な管理論の視点をそのまま覚えるのではなく、現実に行っている課題を通して、どのように企業は活動しているのか、また自身が企業の中でどのように働くのかをイメージしながら理解することで、経営管理の考え方を身につける。

キーワード/Keyword(s)

企業、組織、働き方の変化、ICT、チームワーク、人の処遇、不祥事

到達目標/Learning Objectives

- (1) 経営管理に関する理論・概念を理解し、基本的な考え方を身につけられる。
- (2) 現実の経営問題について、学んだ知識を基に自分で考え、自分の言葉で表現し、分析できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 インTRODクション

- ・授業の進め方の説明、扱うトピックの紹介

第2回 働き方の変化：場所

- ・在宅勤務や職場以外の場所を活用した働き方の現状や意義について解説する。

第3回 働き方の変化：時間や方法

- ・労働時間の有効な活用の取り組み、ICTの活用による新たな働き方の現状について解説する。

第4回 働き方の変化：人の多様化

- ・多様な人材の活用が企業にもたらす効果や企業の取り組みについて解説する。

第5回 チームワーク

- ・日本企業はチームワークを得意とするのか？という視点から、多様な人々の管理について解説する。

第6回 人の処遇

- ・日本企業における人事の仕組みと働き方に伴う変化について解説する。

第7回 組織文化と企業倫理

- ・なぜ不祥事はなくならないのか？という問いに、企業の雰囲気やカラーが及ぼす影響について解説する。

第8回 内容の総括とまとめの確認テスト

- ・内容の総括（45分）とまとめの確認テストを行う。

【授業外学修】

- (1) ポータルシステムにアップされたPowerPointの資料を事前に読み、その中で気になった用語について書籍やインターネットを用いて調べ

て授業に臨むとより一層理解が深まると思われるので、実施することが望ましい。

(2) 日ごろからニュースや新聞、雑誌、参考文献など様々な媒体から情報を収集し、得た知識を現実問題にどのように応用できるか、自分で考え、積極的に深い知識を得られるように努めること。各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

小レポートを実施する（2回の予定。教務情報ポータルを通じて提出。）。新聞、ビジネス雑誌、映像資料等を用いた事例の紹介も交えつつ、その日学んだテーマに関して自分の主張や考えをまとめて書き、相手に伝える練習をする。また、Formsを用いて全体に質問を投げかけ共有するので、自分の考えを伝えたり、他者の考えを聞いたりすることで相互に理解を深める。

履修上の注意/Notes

(1) 本授業は、経済・経営学メジャー以外の学生で、経営学を専門としていない学生を主に対象とした授業構成となっている。そのため、経営管理論をより専門的に学びたい人は、本授業ではなく、担当教員の専門科目「経営管理論Ⅰ」の履修を勧める。

(2) 遅刻を30分以上すると内容の理解が難しくなるので避けること。

(3) 事前に授業資料をポータルシステム上にアップするので、自分自身でダウンロードすること。

(4) 授業内で全体へ度々問いかけをするので、自分だったらどのように考えるかを常に念頭に置いて、授業に参加すること。

(5) 受講生の理解度や進捗に応じて授業計画を変更することもある。

(6) 教科書は指定しないが、参考文献や資料を適宜授業中に紹介する。

情報端末の活用

Teamsおよび教務情報ポータルを使用します。授業及び授業外の学修や履修上の注意欄を参照してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の2点について極めて高いレベルで達成されている。

A：到達目標の2点について高いレベル以上で達成されている。

B：到達目標の2点についておおむね以上のレベルで達成されている。

C：到達目標の2点について最低限のレベル以上において達成されている。

D：経営管理の基本的な知識や考え方を理解できておらず、到達目標が全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト60%、小レポート40%

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	経営管理論
著者名	上野泰裕・馬場大治編著
出版社	中央経済社
出版年	2016
ISBN	
教材費	2400

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8209	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

仕事を考える

授業の概要/Course Overview

社会や職業について視野を広め自分の将来と大学時代の在り方について考える。業界研究や企業研究を通じて雇用社会を知り、自分のやりたい仕事を見つけ、今後の職業選択や大学での勉学の在り方、さらに地方創生について考えていくことをねらいとする。

キーワード/Keyword(s)

職業観, インターンシップ, キャリア形成, 社会人基礎力, 地域協創人材

到達目標/Learning Objectives

授業で取り上げた職業や業界の理解をとおして社会の動向に興味関心を持つとともに、働くイメージを持ってそれに向かって必要なことを理解し、専門科目の学修につなぐことができる。また、地域の課題を知り、働くことの社会的役割を自覚することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入
 授業の概要、進め方、スケジュールの説明、大学生がキャリアを考えることの意味
- 第2回：「働くルール」を知る、雇用の多様化、働く意義、正社員/非正社員
 茨城県で働くことの意義を考える、グローバルに活躍する意義を考える
- 第3回：キャリア理論、自己分析、こだわる労働条件を考える
 大学生活での目標や行動計画、学びの動機づけ、キャリアプランニング
- 第4回：多様な職業について知る①（勤務地限定のない仕事）
 業界研究や企業研究を通じて多様な職業について知る
- 第5回：多様な職業について知る②（地元就職を考える）
 業界研究や企業研究を通じて多様な職業について知る
- 第6回：社会の現状とこれからの就職を考える
 自らのキャリア形成を計画する。進学、就職活動を考える
- 第7回：大学での学びを考える
 将来の仕事と大学での学びを考える
- 第8回：まとめ、総合レポート

【授業外学修】

- 事前に職業や地域社会について調べておくことが求められます
- 多様な職業について業界や企業を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。
- キャリアを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブラーニング】

- (1) 他学生の価値観に触れ、自己分析に役立てます。
- (2) 各回レポートを通じて自分の考えを整理します。

履修上の注意/Notes

※重要：教務情報ポータルシステム「講義資料」から、Web授業Teamsを接続するための「コード」を確認してください。また、授業開始の直前に当日資料を追加します。

※パワーポイント資料及びWeb授業Teamsを利用して双方向の授業を実施します。授業内アンケートやレポートの提示を支持します。

情報端末の活用

「履修上の注意点」を参照してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 仕事と社会の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 仕事と社会の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

成績評価は平常評価（授業への積極的参加及び各回レポート等）70%、期末総合レポート30%を合算して総合評価します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。 適宜資料を配布する。
----	--------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する担当教員が業界研究や企業研究を通じて講義を行います。

実践的教育から構成される授業科目

実践的教育としてキャリアを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB8210	ナンバリング	KB-GHS-113-GEP,JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	胡 安琪				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

Communication in Global Context B

授業の概要/Course Overview

This class would include intercultural adaptation lectures. Students learn about basics of communication studies. Lecture will cover a wide range of areas from “interpersonal communication” between individuals to “mass communication” for people in society as a whole. Also, it acquire cross-cultural understanding and communication skills through conducting international comparison and cultural comparison.

キーワード/Keyword(s)

Communication, intercultural comparison, cross-culture, interpersonal communication, mass communication

到達目標/Learning Objectives

The first goal is to develop the ability to interact with diverse people, and the second goal is to gain an overall picture of communication and to acquire ideas about oneself, others, and society. The final goal is to improve the skills of interpersonal relationships that are needed as an individual living in modern society.

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction (Explaining the course schedule, the contents of this course, and evaluation methods)
2. Mechanism of mind and society, individual and group (2Q review session)
3. What is Cross-culture? Culture and identity
4. Cultural characteristics and values
5. Cross-cultural communication
6. Media communication
7. Social network
8. Summary

[Homework]

Review the lecture materials after each class. Small quiz after each class.

履修上の注意/Notes

This course will be mainly lecture. Basically, this course will be conducted in English but student are welcome to ask questions via email at anytime.

情報端末の活用

PC等活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : Students have fully mastered and applied the outline of each specialized field of communication.
- A : Students have mastered and applied the outline of each specialized field of communication.
- B : Students have generally mastered and applied the outline of each specialized field of communication.
- C : Students have minimal acquisition of each specialized field of communication.
- D : Students have not mastered or applied the outline of each specialized field of communication.

成績の評価方法/Grading

Students will be evaluated comprehensively from the following viewpoints: Quiz 40 %, Final Exam 60 %.

教科書/Textbook(s)

備考	特になし。授業内で関連資料を配付する
----	--------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	○
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日英併用

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8211	ナンバリング	KB-GHS-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 雅一				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

生涯学習社会における思考

授業の概要/Course Overview

生涯学習社会における教育や学習について考えるという立場から、様々な教育機会や多文化共生について認識をもち、生涯学習社会の理解を深めていく。学校教育、社会教育、家庭教育どうしの関連や、それらと地域社会との関係に注目しつつ、自分の学習歴との関係を改めて考えていくことで、生涯学習社会における教育や学習のあり方を把握し、構想していく力量を高めることを目標とする。

キーワード/Keyword(s)

生涯学習、教育機会、多文化、学習歴

到達目標/Learning Objectives

- (1) 生涯学習の観点から、自身の学習歴を説明できる。
- (2) 生涯学習の観点から、自他の学習歴を整理し、説明することができる。
- (3) 生涯学習社会における教育や学習について具体例を示しつつ、説明できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 ガイダンス（シラバス使用）及び、生涯学習社会という前提を考えること
- 第2回 教育の変遷からみる生涯学習
- 第3回 産業の変遷からみる教育と学習～Society 5.0による区分ごとの課題
- 第4回 日本における生涯学習の変遷
- 第5回 学校教育、社会教育、家庭教育の連携～地域社会で考えること
- 第6回 多文化とグローバリゼーション～文化の多様性と理解
- 第7回 生涯学習社会の視点から自身の学習歴を整理する
- 第8回 生涯学習社会における教育や学習のあり方の検討と展開（総括）

【授業外学修】

- (1) 予習：授業内容の確認、生涯学習に関する情報（ニュースや記事など）の収集に取り組む。
- (2) 復習：授業内容のふりかえり、不足分や新たに考えた内容を授業の記録に追記する。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 毎回の授業終了時にミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。
- (2) ミニツツペーパーに対してフィードバックを行い、更なる議論へとつなげる。

履修上の注意/Notes

遅刻や提出物の遅れは2回で欠席1回とする。

情報端末の活用

講義資料はmanabaを通じて配信する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。

A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。

B：到達目標の3点（主に（1）（2））についておおむね以上のレベルで達成されている。

C：到達目標の3点（主に（1））について最低限のレベル以上において達成されている。

D：到達目標の3点のうち1点以上（特に（1））について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

小課題など授業への取り組み状況（50%）、最終レポート（50%）

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	現代の生涯学習
著者名	岩永雅也著
出版社	放送大学教育振興会
出版年	2012
ISBN	9784595313318
教材費	

参考書2

書名	多文化社会の社会教育：公民館・図書館・博物館がつくる「安心の居場所」
著者名	渡辺幸倫編著；川村千鶴子 [ほか] 著
出版社	明石書店
出版年	2019
ISBN	9784750348094
教材費	

参考書3

書名	社会教育・生涯学習辞典
著者名	社会教育・生涯学習辞典編集委員会編集
出版社	朝倉書店
出版年	2012

ISBN	9784254510331
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8221	ナンバリング	KB-GHS-131-ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	高井 美智明				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

会社とは何か

授業の概要/Course Overview

意識するにせよ無意識にせよ、会社にかかわりを持たない人は、いない。
経済社会の中核をなす会社とは何かを多面的に、すなわち法的、経済学的、経営学的に考察する。

キーワード/Keyword(s)

企業、会社、法人格、衡平、会社法、市場、株式、株主、有限責任、投資家、所有、取引、利益、資本、利害保持者

到達目標/Learning Objectives

- ・会社とはいかなる社会的存在か、について多面的に、すなわち法的、経済学的、経営学的、会計学的に理解できる。
- ・株式会社の基本的メカニズム（法人格、株式、衡平、所有権）を理解できる。
- ・社会に於いて会社はどのような我々と関わり、影響力を有しているのか（有する可能性があるのか）を自分なりのイメージを形成できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス及び、受講生がこれまでに有していた会社に対するイメージの確認。
2. 会社の3要件と会社の種類（会社の法的側面）
前回講義の「振り返り」小テスト あり
3. 会社の両義性（ヒトかモノか、法人格）
前回講義の「振り返り」小テスト あり
4. 会社から株式会社へ（（R.H.コース学説と所有権--equity--学説））（会社の経済学的側面）
前回講義の「振り返り」小テスト あり
5. 株式会社の発生史・発展史（株式の発明--株式とは何か）（会社の経営学的側面）
前回講義の「振り返り」小テスト あり
6. 株式会社と利害関係者（株主の有限責任と債権者、従業員、消費者等）（会社と社会）
前回講義の「振り返り」小テスト あり
7. 株式会社と環境問題
前回講義の「振り返り」小テスト あり

8. (まとめ) あらためて会社とはなにか (45分間) + 【試験】

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

(1) 講義資料はmanaba, teamの「ファイル」にアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

(2) 各授業回(2~7回)で、原則冒頭時間帯に、前回講義内容についての「振り返り」のための小テストをおこなう。

次回の講義までに、前回の内容を復習しておくこと。

履修上の注意/Notes

各授業回(2~7回)に前回講義の「振り返り」小テストをおこなう。

自作プリント等の教材は、原則、事前にmanaba, teamの「ファイル」にアップする。

オフィスアワー：木曜昼休みとするが、これ以外でもメール、Teamsのチャット機能による相談も随時受け付ける。

情報端末の活用

・MS-Teamsを用いたオンラインの同時双方向授業のため、毎回、オンライン授業で使用可能なPCを準備しておくこと。

・授業で使用する資料、ファイル等はteamの「ファイル」にアップロードしておくので、適宜ダウンロードして使用すること。

・受講生には、授業中に質問することがあり、音声による会話が可能な場合は音声で、それが難しい場合は会議チャットにより回答を求めるともある。

・授業中に質問等がある場合は、Teamsの挙手機能を使用して挙手すること。教員から指名されたら、音声または、会議チャットにより発言すること。

・オンライン授業の特性上、音声・画像の遅延・欠落・大きなノイズなどが生じた場合には、遠慮無く音声か会議チャットで教えていただきたい。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の3点を高いレベルで達成している。

A：到達目標の3点を達成している。

B：到達目標の3点をおおむね達成している。

C：到達目標の3点を最低限のレベルで達成している。

D：C評価の基準に達していない。

成績の評価方法/Grading

「振り返り」小テスト：30点(各5点×6回) / クォーター末試験：70点。合計100点

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：指定しない(自作プリントなどを配布する)。 参考書： (絶版・中古あり) 友岡 賛「株式会社とは何か」講談社現代新書No.1388 ¥640+税 加藤 裕則 「会社は誰のものか;経済事件から考えるコーポレート・ガバナンス」ISBN-10：4779171067, - 2020/2/12 ¥1870
-----------	--

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	会社は誰のものか：経済事件から考えるコーポレート・ガバナンス
著者名	加藤裕則著
出版社	彩流社
出版年	2020
ISBN	4779171067
教材費	1870

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8222	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	高井 美智明				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

コーポレートガバナンス入門

授業の概要/Course Overview

株式会社の不祥事に際して株式会社の社会的責任、ガバナンスという言葉を目にするだろう。それでは、株式会社は誰がコントロールしているのだろうか。いくら規制を強化しても不祥事はなくなるのはなぜだろうか。そこで、株式会社の統治（ガバナンス）について考察する。さらに我が国の株式会社のコーポレート・ガバナンスの今後についても展望しよう。

キーワード/Keyword(s)

株式会社、会社統治、コーポレート・ガバナンス、会社は誰のものか、会社法、金融商品取引法、経営者、株主、債権者、投資家、株主総会、取締役会、社外取締役、監査役設置会社、監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社

到達目標/Learning Objectives

- ・株式会社の株主、経営者それぞれの役割・機能について理解できる。
- ・日本に影響を与えたドイツ・米国の会社統治について理解できる。
- ・我が国の会社統治の仕組み、コーポレート・ガバナンスに関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、経済社会と株式会社との共存を自分なりにイメージできる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. (ガイダンス) + 会社の社会的責任とはなにか (会社に「社会的、責任はあるのか')
2. 株式会社は誰のものか---会社法の観点から---
前回講義の「振り返り」小テスト あり
3. 株式会社は誰のものか---経営者の観点から---
前回講義の「振り返り」小テスト あり
4. 株式会社の財産・利益は誰のものか---会計の観点から---
前回講義の「振り返り」小テスト あり
5. ドイツ・米国の株式会社統治---我が国の原点---
前回講義の「振り返り」小テスト あり
6. 我が国の株式会社統治---株主総会、取締役会、監査役会---
前回講義の「振り返り」小テスト あり

7. 我が国の株式会社統治---監査役設置会社、監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社---
前回講義の「振り返り」小テスト あり

8. (まとめ) これからの我が国の株式会社統治の展望 (45分間) + 【試験】

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

(1) 講義資料はmanaba, teamの「ファイル」にアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

(2) 各授業回 (2~7回) で、原則冒頭時間帯に、前回講義内容についての「振り返り」のための小テストをおこなう。

次回の講義までに、前回の内容を復習しておくこと。

履修上の注意/Notes

各授業回 (2~7回) に前回講義の「振り返り」小テストをおこなう。

自作プリント等の教材は、原則、事前にmanaba, teamの「ファイル」にアップする。

オフィスアワー：木曜昼休みとするが、これ以外でもメール、Teamsのチャット機能による相談も随時受け付ける。

情報端末の活用

・MS-Teamsを用いたオンラインの同時双方向授業のため、毎回、オンライン授業で使用可能なPCを準備しておくこと。

・授業で使用する資料、ファイル等はteamの「ファイル」にアップロードしておくので、適宜ダウンロードして使用すること。

・受講生には、授業中に質問することがあり、音声による会話が可能な場合は音声で、それが難しい場合は会議チャットにより回答を求めることもある。

・授業中に質問等がある場合は、Teamsの挙手機能を使用して挙手すること。教員から指名されたら、音声または、会議チャットにより発言すること。

・オンライン授業の特性上、音声・画像の遅延・欠落・大きなノイズなどが生じた場合には、遠慮無く音声か会議チャットで教えていただきたい。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 到達目標の3点を高いレベルで達成している。

A : 到達目標の3点を達成している。

B : 到達目標の3点をおおむね達成している。

C : 到達目標の3点を最低限のレベルで達成している。

D : C評価の基準に達していない。

成績の評価方法/Grading

「振り返り」小テスト：30点 (各5点×6回) /クォーター末試験：70点。合計100点

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：指定しない (自作プリントなどを配布する)。 参考書： (絶版・中古あり) 岩井 克人「会社はだれのものか」平凡社 ¥1400+税 加藤 裕則 「会社は誰のものか;経済事件から考えるコーポレート・ガバナンス」ISBN-10 : 4779171067, ? 2020/2/12, ¥1,870
----	---

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	会社は誰のものか：経済事件から考えるコーポレート・ガバナンス
著者名	加藤裕則著
出版社	彩流社
出版年	2020
ISBN	4779171067
教材費	1870

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8241	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	内田 晋				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

エネルギー経済論

授業の概要/Course Overview

エネルギーは全ての人間活動や経済活動の源であるとともに、国際政治や地球環境といったグローバルな問題とも深く関わっており、エネルギーやそれを取り巻く現状について学んだ知識はあらゆる分野に応用することができる。この授業ではエネルギーそのものへの理解を深めるとともに、主に経済的な側面からエネルギーに関連した世界の現状や問題を扱う。

キーワード/Keyword(s)

エネルギー 持続可能社会 資源 再生可能エネルギー 化石燃料 地球温暖化

到達目標/Learning Objectives

エネルギーの種類やそれぞれの性質が理解できる。
環境問題、世界経済、政治などさまざまな問題とエネルギーとの関係について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス及びエネルギーの種類と性質【オンライン授業（Teams）】
【授業外学修】（復習）身近な例を用いた練習問題を出すので、各自で解いておくこと。

第2回：【授業内容】エネルギーの歴史【オンライン授業（Teams）】
【授業外学修】（予習）人類がこれまでエネルギーをどのように利用してきたか、各自で考えておくこと。

第3回：【授業内容】エネルギーと政治【オンライン授業（Teams）】
【授業外学修】（予習）オイルショックについて各自で調べておくこと。

第4回：【授業内容】エネルギーと環境問題【オンライン授業（Teams）】
【授業外学修】（復習）エネルギーと環境問題の複雑な関係性について理解すること。

第5回：【授業内容】資源の経済学【オンライン授業（Teams）】
【授業外学修】（予習）「経済学」を履修した人はミクロ経済学の部分を確認しておくこと。

第6回：【授業内容】デカップリング【オンライン授業（Teams）】
【授業外学修】（復習）2段階のデカップリングについて理解すること。

第7回：【授業内容】再生可能エネルギー【オンライン授業（Teams）】
【授業外学修】（復習）それぞれの技術の長所と短所について理解すること。

第8回：【授業内容】未来のエネルギー技術（45分）、期末試験【対面】

【授業外学修】（予習）これまでの内容について資料などでよく確認しておくこと。

授業資料は同時配信する他、manabaにアップロードする。授業外学修は60分程度を想定しているが、その他、各回の復習をすること（30分程度）。

履修上の注意/Notes

情報端末の活用

授業では情報端末を使用しない。ただし、関連した内容について授業中に情報端末で調べることは許可する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：エネルギーの基本的な知識を十分に修得し、さらにその経済や社会との関係について詳細に説明できている。
A：エネルギーの基本的な知識を修得し、さらにその経済や社会との関係について説明できている。
B：エネルギーの基本的な知識を概ね修得し、さらにその経済や社会との関係について概略を説明できている。
C：エネルギーの基本的な知識の修得と、その経済や社会との関係についての説明が最低限のレベルできている。
D：エネルギーの基本的な知識が修得できておらず、さらにその経済や社会との関係についての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験：100%

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	エネルギーと社会
著者名	迫田章義, 堤敦司 編著
出版社	放送大学教育振興会
出版年	2019
ISBN	9784595319549
教材費	3600

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	

実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8242	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小松崎 将一				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

アグロエコロジー

授業の概要/Course Overview

食料生産の持続可能なシステムへの変換を考えるうえで基本となる概念「アグロエコロジー」。その実践的理論の確立と普及に、地域住民がアイデアを出し、住民が参加して社会環境問題を解決する動きが芽生え始めています。さまざまな事例を通してそのような動きを知ること、アグロエコロジーに根ざした「自然共生」や「地域づくり」について考えます。

キーワード/Keyword(s)

自然共生、地域づくり、生物多様性、気候変動、農福連携、SDGs、食品ロス、アグロエコロジー、食農教育

到達目標/Learning Objectives

「地域の発展と環境保全」という日本や世界の動きを知り、社会問題解決の方策としての役割、意義や可能性を理解できるようになるとともに、そのような動きに関心をもち、自ら提案や考察ができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス／自然共生の経緯－アグロエコロジーの展開を踏まえて－
2. 生物多様性と地域づくり
(リーディング&ライティング・ディスカッション) 生物多様性を保全する事例紹介を通して社会的活動を知るとともに、関心・意見等を述べる。
3. 気候変動の緩和と農業・農村
(リーディング&ライティング・ディスカッション) 一人一人が気候変動緩和の取り組みや事例等を調べ、発表資料を作成して紹介し、意見を述べる。
4. 地域を元気にする農福連携の取り組み
(リーディング&ライティング・ディスカッション) 一人一人が農福連携の取り組みや事例等を調べ、発表資料を作成して紹介し、意見を述べる。
5. 男女共同参画社会と地域づくり
(リーディング&ライティング・ディスカッション) 男女共同参画の取り組みや事例等を調べ、発表資料を作成して紹介し、意見を述べる。
6. SDGsの達成に向けた地域の取り組み
紹介された事例等を対象に、SDGs達成に向けた取り組みとしての意義・課題などについて取りまとめる。
7. 食と農の教育を見直そう
SDGに向けた地域の取り組みを発表して、地域を活性化させる食と農の教育について提案する。
8. 総括
(レポート) 自然共生と地域づくりについて個別に意見を述べ、レポートを作成する。

【授業外学修】

(1) 講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

履修上の注意/Notes

極端な遅刻は欠席とする。授業で使用する記事等の配布は、事前にDream CampusからDLできるようにしておくので、(印刷/自分のデバイスで見れるようにしてくなど) 授業において必ず読める状態にしておくこと。

情報端末の活用

講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業における小レポートと最終レポートにより判定する。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	地域と響き合う農学教育の新展開：農学系現代GPの取り組みから
著者名	中島紀一編
出版社	筑波書房
出版年	2008
ISBN	4811903234
教材費	

参考書2

書名	有機農業大全：持続可能な農の技術と思想
著者名	澤登 早苗 著・文・その他
出版社	コモンズ
出版年	
ISBN	9784861871641
教材費	3200

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

行政政策や地域づくりに携わっている者が、オムニバス形式により、その経験を活かして、具体的な地域課題解決の視点を講義する。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8251	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	川島 佑介				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

政治と行政の視座

授業の概要/Course Overview

本講義では、大学で社会科学を学ぶ基本的な視座について講義します。高校までの授業や世間一般で語られている政治や行政の議論は、一面的であったり、場合によっては事実ではないこともあります。本講義では、こうした議論を取り上げ、学問的な批判を論じることで、政治学・行政学の分野に案内します。

キーワード/Keyword(s)

社会科学、政治学、行政学

到達目標/Learning Objectives

第一に、様々な社会現象について、社会科学の観点から理解することができること。第二に、自らの意見を練り上げ、他人に説得的なかたちで論じることができるようになること。第三に、以上を踏まえ、高度教育を修めた人間として、世の中に貢献できる人材になること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. 「今の政治は汚い。良い政治であるべきだ」、「政治家には高い倫理が必要である」、「政治はAIに委ねるべきだ」：政治（学）・行政（学）とは何か
2. 「日本は三権分立である」、「首相より大統領の方がリーダーシップを発揮できる」、「議会で寝ている議員はダメであり、議員立法を増やすべきだ」：統治構造論
3. 「労働組合は無責任だ」、「政党は利権をむさぼるだけの存在だ」、「自民党は昔から変わっていない」：政治行動論
4. 「投票率は高い方がいい」、「遊んでばかりの若者はおろかだ」：投票行動論
5. 「政治家は国民の意見に従うべきだ」、「日本は官僚主導であり、改められるべきだ」：行政統制論
6. 「公務員には柔軟さが求められる」、「天下りは害悪でしかない」、「日本の公務員は多すぎる」：官僚制論・公務員論
7. 「自治体の財政赤字は自治体の責任である」、「地方分権で福祉が充実する」：地方自治論・公共政策論
8. 授業のまとめ（45分）、テスト

【授業外学修】

- (1) 日々のニュースに注意を払い、社会科学的な知識と考察の力を深めてください。
 - (2) 授業でレジュメを配布しますので、事項について復習してください。
 - (3) 事実関係で不明点がある場合には、インターネットなどを用いて、自分で調べ、調査力も上げてください。ただし、それでも分からない場合には、後述する質問意見用紙で聞いてください。
- 各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第1～7回目には、質問意見用紙の回収を行い、それぞれ第2～8回目の授業冒頭で回答・講評を行いますので、質問や意見がある人は、授業中あるいは授業後に記入・提出してください。

履修上の注意/Notes

他の受講生の迷惑となる私語、香りが強い飲食物の喫食、香水の着用は控えてください。また、本講義では質問意見用紙を通じたアクティブラーニングを実施しますが、減点方式ではないので、率直な内容を書いてください（なお、質問意見がなければ、提出しなくても結構です。第1回目の授業で説明します）。

情報端末の活用

必須

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：政治学・行政学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：政治学・行政学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

テスト(85%)、質問意見用紙(15%)

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いません。参考書は随時紹介します。
----	------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ（ただし、個別の質問意見については英語も可）

実務経験のある教員による授業科目

自治体委員、大学附属研究所研究員、専門学校講師経験のある教員が、その経験を活かして、行政のこんにち的課題と動態のあり方を具体的に指導し、公務員として活躍するための資質も育成する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8252	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	松井 良和				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

労働法 I

授業の概要/Course Overview

将来、皆さんが就職をして社会に出たとき、働くことに関する様々な問題に直面することがあります。また、アルバイトをしている人は実際、労働法をめぐる問題に遭遇し、疑問を感じることに直面しているかもしれません。

このように労働法は皆さんにとって非常に身近な法律です。しかし、非常に多くの法律が関係することから初めて勉強するときには戸惑うこともあります。

この授業ではまず、労働法の全体像を把握したうえで、労働関係の出発点に当たる労働契約の意味と採用内定の法的問題について学習します。また、憲法の授業で学んだ内容を踏まえ、職場における労働者の基本権保障の意味についても学びます。その上で、労働条件を決定する上で日本では極めて決定的な意味を持つ就業規則について学習します。

授業では、皆さんの周りにある身近な問題を取り上げて、基本的な用語や労働法の基本的な考え方を学習します。これらと同時に、授業の中では新しい判決も取り上げますので、今、企業の現場で何が起きているのかということも学んでいきます。

近年では特に、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、人々の働き方が大きく変容しています。こうした新しい働き方に対応した労働法政策についても学習して行きます。

キーワード/Keyword(s)

労働基準法、労働契約法、雇用類似の働き方、採用内定、試用期間、労働条件、就業規則、賃金、労働時間

到達目標/Learning Objectives

労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を学び、今、現実に行っている問題を法的に把握する力を身に付けることができます。

具体的には、労働法の適用範囲を決める労働者及び使用者の概念、会社が作成した就業規則による労働条件決定・変更法理など、労働法の基礎であり最重要問題について考える力を身に付けることができます。

これらの問題を考えることを通じて、最新の判例を検討する際に必要となる応用的思考の前提となる、基本的な法的思考力を養うことができます。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. イントロダクション-ガイダンス・労働法上の労働者と使用者の概念
2. 労働契約の意義-労働契約の成立、労働契約上の様々な義務
3. 採用内定・試用期間-労働関係の始期
4. 憲法と労働法①-労働者の人格権、パワハラ、プライバシーの問題
5. 憲法と労働法②-職場における男女の平等
6. 憲法と労働法③-公務員の労働基本権に対する制約
7. 就業規則による労働条件決定と変更
8. これまでの復習(45分)、試験

【授業外学修】

各授業の資料は授業前にポータルシステムにアップロードするので、事前に目を通して予習をしてください。

労働法が関係する様々な問題について、ニュースや新聞記事等をチェックしてアンテナを張っておいてください。

各回の授業内容については、「今日のまとめ」としてレジュメの最後に要点をまとめています。授業後に穴埋めをすることで授業内容を復習してください。

授業では基本的に配布するレジュメに沿って内容を説明していきますが、教科書や参考文献に挙げた基本書の該当箇所を読むことで内容の理解を深めてください。

各回の授業前学習に要する時間は予習60分、復習30分程度を目安とします。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業でリアクションペーパーを配布します。初回の授業「1.イントロダクション」では、受講者の関心のあるテーマについて記述してもらい提出してもらいます。その内容によって授業内容を調整します。

リアクションペーパーには授業の疑問点やその他、皆さんが目にした労働法の問題について自由に記入してください。授業の冒頭に、リアクションペーパーに書いてもらった内容を振り返ります。

履修上の注意/Notes

労働法の領域では常に新しい問題が日々登場しているので、日頃から新聞やニュース等に接しておくことが望ましいです。

情報端末の活用

授業で用いるレジュメや資料はTeamsにアップするので、そちらから各自でダウンロードしてください。

リアクションペーパーについては、manabaを通じて提出してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を十分に習得し、さらに、自分の意見や見解について根拠を示して説明することが出来ている。

A 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を習得し、さらに、自分の意見や見解を説明することが出来ている。

B 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を概ね習得し、さらに、自分の意見や見解を述べている。

C 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を最低限習得し、自分の意見や見解を述べている。

D 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を習得することができておらず、自分の意見や見解を述べられていない。

成績の評価方法/Grading

リアクションペーパーの内容（20%）、授業中に行う小テスト（20%）と試験（60%）で評価を行います。

毎回の授業の際、レジュメと併せて「練習問題」とリアクションペーパーを配布します。授業後にこれらを回収して出席確認をします。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	トピック労働法
著者名	山田省三・石井保雄
出版社	信山社
出版年	2020
ISBN	978-4797287516
教材費	3520

教科書2

書名	労働判例百選第9版
著者名	村中考史・荒木尚志
出版社	有斐閣
出版年	2016
ISBN	978-4641115316
教材費	2640

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	労働法第12版
著者名	菅野和夫
出版社	弘文堂
出版年	2019
ISBN	978-4335315473
教材費	7150

参考書2

書名	労働法第3版
著者名	西谷敏
出版社	日本評論社
出版年	
ISBN	978-4535524217
教材費	5280

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8255	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	掛貝 祐太				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

財政と社会問題入門

授業の概要/Course Overview

社会は常に多くの問題を抱えている。もちろん、人によって興味関心は違うので、意識する問題は異なるだろう。格差問題に関心を寄せる人もいれば、ジェンダーにまつわる問題を強く意識している人もいるだろうし、環境問題に関心がある人もいるだろう。あるいは、コロナの問題で頭がいっぱいで他の事を考えられない…という人も当然いるだろう。（もしくは、現代社会に「問題」なんてあるの？という人もいるかもしれない。）

いずれせよ、こうした社会問題の解決手段の一つが、政策である。しかし、政策をうつものにもお金がかかるし、お金をかけずに実効性のある政策をうつのは、非常に難しい。だからこそ、国や自治体のお金の使われ方、すなわち財政が重要なのである。

本講義では、比較的身近な話題や題材についての、様々な社会問題・社会現象(コロナ・教育・少子高齢化・ジェンダー・地域社会・グローバル化・情報化社会etc.)を取りあげる。そして、主に財政の視点から、なぜその解決が難しいのか、あるいは、なぜそうした問題が起こってしまったのか、について考える。

キーワード/Keyword(s)

コロナ対策・少子高齢化・大学教育・グローバル化・ジェンダー・地域社会・環境問題・情報化社会

到達目標/Learning Objectives

財政や社会科学における初歩的な知識をもとに、政治・社会・経済をめぐる社会問題について、一見“常識”に思える意見を相対化する視点で考察することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 イントロダクションとガイダンス（計数感覚をもって社会問題をながめる：結局、その「問題」はどれくらいお金が使われているんでしょう？／意外と日本は小さな政府？）
- 第2回 COVID-19問題と財政（医療のひっ迫はなぜ？／コロナ対策にはどうお金が使われた？／「自己責任」を重んじる社会のままで良いのか？）
- 第3回 少子高齢化問題、教育における問題と財政（授業料が高く、給付型の奨学金が少ないのは日本くらい？／日本は子どもに税を使わない社会？）
- 第4回 ジェンダーにまつわる問題（なぜ女性が働きにくい社会になった？／逆に、なぜ男性が働きすぎないといけない社会になった？／家族にまつわる価値観にも、財政が影響？）
- 第5回 格差・貧困問題と財政（自己責任」が強い日本／6人に1人の子どもが相対的貧困）
- 第6回 地域社会における問題と財政（どのように地域にあり方に口を出せる？／自治体のお金の使われ方は？）
- 第7回 グローバル化・環境問題と財政（GAFAのような企業による課税逃れをどうする？／地球規模の環境問題にどうアプローチするか？）
- 第8回 これまでの総まとめと振り返り

※履修者の人数、反応、意見、興味関心によって、内容や構成、順番は変更となることがあります。

※アクティブ・ラーニング：いずれの回においても最後の10分程度を用いてオンラインでのリアクションペーパーの記入を課し、次の回で紹介・リブライ(20分程度)を行います。

※授業外学習について：授業内で取り扱った文献、概念、資料、映画、サイト、論文、ニュースなどの中で、自分の関心があるものについて、ぜひ積極的かつ自主的に触れてみてください。こまごました知識の暗記よりは、自分自身の意見や考えを深めるような学習を強く推奨いたします。そのように自主的に調べたことが、次の週のリアクションペーパーに反映されているなどすれば、なお好ましいです。最低限記憶してほしいポイントは最終回にまとめます。

履修上の注意/Notes

とりたてて事前知識は要しないような構成を心掛けます。ただし、毎回、オンラインで意見・質問を集め、次の回でそれについてのリブライをすることから講義を始めますので、積極的な参加を期待します。

情報端末の活用

事前に共有するフォームズのリンクから、スマートフォンやPCでリアクションペーパーを記入する形式にします。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：授業で扱った内容に関して、社会問題と財政の基本的な知識を十分に修得し、それらを元に、財政・政治をめぐる時事的な社会課題などに対して、自分の意見を説得力をもって明示的に論述することができる。

A：授業で扱った内容に関して、社会問題と財政の基本的な知識を修得し、それらを元に、財政・政治をめぐる時事的な課題などに対して自分の意見を論述することができる。

B：授業で扱った内容に関して、基本的な財政と社会問題の知識を概ね修得している。

C：授業で扱った内容に関して、基本的な財政と社会問題の知識について最低限の修得をしている。

D：授業で扱った内容に関して、財政と社会問題の基本的な知識が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

リアクションペーパー(100%)による評価を基本とする。

教科書/Textbook(s)

備考	特に指定せず、配布するプリントに沿ってすすめる。
----	--------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	租税抵抗の財政学：信頼と合意に基づく社会へ
著者名	佐藤滋, 古市将人著
出版社	岩波書店
出版年	2014
ISBN	978-4000287364
教材費	2530

参考書2

書名	財政学の扉をひらく
----	-----------

著者名	高端正幸・佐藤滋 著
出版社	有斐閣
出版年	2021
ISBN	978-4-641-15082
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8256	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	岩佐 淳一				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

「社会」とは何か I

授業の概要/Course Overview

「自然」と並んで「社会」は日常ありふれた言葉である。また私たちは初等教育段階から中等教育修了まで「社会科」の学習を蓄積しており、「社会」の意味について良く知っているはずであるが、改めて「社会」とは何かと言われると説明するのが困難であることに気づかされる。さらに我々が何か問題を起こした時、「世間に迷惑をかけてすみません」とか「世間を騒がせて申し訳ございません」とは言うが、「社会に迷惑をかけて…」 「社会を騒がせて…」とは言わない。なぜなのだろうか？
本講義ではこの分かったようで分からない「社会」について主として社会学の知見を利用しつつ理解を深めることを目的とする。

キーワード/Keyword(s)

「社会」とは何か、外来語としての「社会」、「社会」に生まれる、「社会」が生まれる、社会的行為

到達目標/Learning Objectives

「社会」とは何かについて理解しており、かつ説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】 シラバスを用いたガイダンス、「社会」という言葉のわかりにくさについて
【授業外学修】 高等学校時代までに学習した知識をもとに「社会」とは何か説明できるようにしておくこと。
- 第2回：【授業内容】 「世間」と外来語としての「社会」
【授業外学修】 講義資料はmanabaにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。
- 第3回：【授業内容】 「社会」に生まれる、「社会」が生まれる
【授業外学修】 講義資料はmanabaにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。
- 第4回：【授業内容】 「社会」がない状態について考える
【授業外学修】 講義資料はmanabaにアップするので、必ず授業前に読んでおくこと。参考文献を挙げるので可能であればアクセスすること。
- 第5回：【授業内容】 コムニス～了解・わかり合い～
【授業外学修】 講義資料はmanabaにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。
- 第6回：【授業内容】 社会的行為とは何か
【授業外学修】 講義資料はmanabaにアップするので、必ず授業前に読んでおくこと。参考文献を挙げるので可能であればアクセスす

ること。

第7回：【授業内容】 日常生活のなかの社会的相互行為

【授業外学修】 講義資料はmanabaにアップするので、必ず授業前に読んでおくこと。参考文献を挙げるので可能であればアクセスすること。

第8回：【授業内容】 まとめ、これまでの授業を振り返り、「社会」とは何かについての確認作業を行う

【授業外学修】 配布した講義資料全体をもう一度読み直すこと。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業終了時は、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

「社会」とは何かⅠと「社会」とは何かⅡは連続性があるので、極力2つの授業を続けて履修すること。

情報端末の活用

- ・講義資料はmanabaで事前配信する。
- ・課題レポートについては、manabaを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：「社会」とは何かについての基本的な知識と考え方を十分に修得し、説明できている。

A：「社会」とは何かについての基本的な知識と考え方を修得し、説明できている。

B：「社会」とは何かについての基本的な知識と考え方を概ね修得し、説明できている。

、

C：「社会」とは何かについての基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、説明できている。

D：「社会」とは何かについての基本的な知識と考え方が修得できておらず、説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

レポート：100%（各50点×2回）

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。授業内で資料を配付する。
----	------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	本当にわかる社会学：フシギなくらい見えてくる!
----	-------------------------

著者名	現代位相研究所 編
出版社	日本実業出版社
出版年	2010
ISBN	978-4-534-047052
教材費	1400

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8257	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	原口 弥生				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

環境と社会 1

授業の概要/Course Overview

環境問題とは、環境を基盤とした人間社会の問題であることを理解し、身近な環境問題の事例を扱うなかで、地域社会が実践してきた自然環境との共生の仕組み、地域における環境再生の動きなどについて理解することができる。農と食や廃棄物という身の回りの領域とグローバルなつながり、社会的格差など、現代社会のグローバルそしてローカルな経済・社会の課題について考察します。

キーワード/Keyword(s)

人間社会と環境、自然保護、コモンズ、食と農、ゴミ問題、社会格差/社会的公平

到達目標/Learning Objectives

環境問題とは、環境を基盤とした人間社会の問題であることを理解し、身近な環境問題の事例を扱うなかで、地域社会が実践してきた自然環境との共生の仕組み、地域における環境再生の動きなどについて理解することができる。農と食や廃棄物という身の回りの領域とグローバルなつながり、社会的格差など、現代社会のグローバルそしてローカルな経済・社会の関係性について考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 シラバスを用いたガイダンス
- 2 人間社会と環境を考えるー環境の保全と利用
- 3 自然保護を考えるー世界遺産・エコツーリズム・環境ガバナンス
- 4 身近な自然を考えるーコモンズ・生活環境主義・森林の保全と再生
- 5 生活と水を考えるー水利用・琵琶湖水質問題・河川の近代化
- 6 農と食を考えるー有機農業・グリーンツーリズム・食の安全安心
- 7 ゴミ問題を考えるー産廃問題・環境アセス・社会的ジレンマ
- 8 総括（45分）、学期末試験

【授業外学習】

（1）授業で使用する講義資料は、事前にmanabaにアップしますので、必ず授業前に読んで、分からない用語などについては、あらかじめ調べておくこと。

（2）事前学習として公開映像を指定するので、事前に鑑賞し、感想と疑問点を教務情報ポータルに提出すること（第3回、第5回、第7回）。

（3）復習として、小テストや課題を出すので、各テーマや課題に沿って事前に準備すること。

（4）各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

（1）第3、5、7回については、グループ・ディスカッションと発表を行う。

(2) 毎回の授業終了時には、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

- ・良くシラバスを読んで受講すること。
- ・日々、報道される環境問題に目を通しておくこと。

情報端末の活用

- ・講義資料はmanabaで事前配信します。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 環境と人間社会との関係性について基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその関係性について説明できている。
- A : 環境と人間社会の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその関係性について説明できている。
- B : 環境と人間社会の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその関係性について説明できている。
- C : 環境と人間社会の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその関係性について説明できている。
- D : 環境と人間社会の基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

小テスト : 30点 (各10点×3回) / 期末試験 : 70点

教科書/Textbook(s)

備考	教科書 : 特になし。
----	-------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8258	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	富江 直子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

社会学の視点A

授業の概要/Course Overview

社会学のまなざしで社会を見つめてみましょう。社会学の基礎理論を学び、「自己」の成り立ちや、人と人とのつながり方や、世界との関わり方などを捉えることを学びます。「自己」と「社会」との関係性を見つめ、「自己」と「社会」とが互いに形成し、形成されていくダイナミックな過程を知ることによって、ふだん当たり前にあるものと思っていたことが、驚くべきことに見えてきたり、疑うべきことに思えてきたりします。

キーワード/Keyword(s)

社会、行為、自己、権力、秩序

到達目標/Learning Objectives

- ・社会学の基本的な概念を学ぶ。
- ・社会学の視点からさまざまな社会事象を分析、解釈する方法を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 シラバスを用いたガイダンス
- 2 「社会」とは
- 3 行為の理論
- 4 社会現象としての「自己」
- 5 ドラマトゥルギー
- 6 逸脱の社会学
- 7 権力の社会学
- 8 まとめ

【授業外学修】

- (1)生活のなかで、面白いと思うこと、疑問に思うことなどをいろいろ見つけておくことが予習につながります。
- (2)授業の復習は、授業で配付する資料と、各自が作ったノートなどで行って下さい。復習には社会学の事典や入門書なども活用してください。
- (3)各自の関心のあるテーマについては、図書館などで文献を探して学習を深めてください。授業のなかで紹介する参考文献などを使っていたくのもよいと思います。
- (4)授業で学んだ社会学の枠組みを用いて、日常生活のなかの身近な事象を見直してみることも大事な学びになります。
- (5)授業外学修の時間としてはおよそ90分をめやすに取り組んでください。

【アクティブ・ラーニング】

授業の中で、各テーマごとに振り返りの確認テストやミニレポートを実施します。

履修上の注意/Notes

この授業はTeamsと教務情報ポータルを使います。

情報端末の活用

授業内でPC等を使用します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

授業内に教務情報ポータルの「小テスト」で行う確認テストおよびミニレポートの合計点（100%）で評価します。

教科書/Textbook(s)

備考	授業のなかでレジュメを配付します。
----	-------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8259	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	佐藤 環, 太田 寛行, 久留主 泰朗, 佐川 泰弘				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

みんなの“イバダイ学”

授業の概要/Course Overview

茨城大学の創立70周年記念事業「みんなの“イバダイ学”プロジェクト」（<https://www.ibaraki.ac.jp/ibadaigaku/>）の一環で2019年度に開講した授業。教育の歴史や社会の動き、高等教育に関する現状を踏まえ、将来的な予測を行うなかで、茨城大学のこれからについて議論をし、具体的なアクションを構想・提案することを目指す。

キーワード/Keyword(s)

茨城大学、国立大学、高等教育、教育史、大学と社会、知と社会、地域、雇用、グローバル

到達目標/Learning Objectives

- ・教育の歴史や社会の動きを概観することができ、それらと大学の役割とを結びつけて考えることができる。
- ・大学が置かれている課題を理解し、当事者として解決のためのアイデアを協働して考えることができる。
- ・茨城大学に所属する自己や将来の職業についての理解を深め、その立場を通じて社会に貢献する姿勢を身につける。
- ・大学の活動を通じた地域活性化の可能性を追究し、具体的なアイデアにまとめ、行動できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：イバダイ学への招待（講義・議論）：太田

【授業内容】学長による茨城大学がめざすものやイバダイ学プロジェクトの概観を理解し、受講者それぞれがもつ大学のイメージなどについて意見交換を行う。

【授業外学修】茨城大学の現状と将来像について、茨城大学ホームページなどで確認しておく。なお、各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

第2回：茨城における教育の歴史と大学の役割（講義）：佐藤

【授業内容】国の文教施策と地域の教育需要を概観しながら、茨城大学の成り立ちを理解する。

【授業外学修】茨城大学における各学部の成り立ちについて確認し、社会と大学との関係を説明できる。

第3回：イバダイ学を考える①（講義・議論）：佐川

【授業内容】世界的な強みとなる研究成果や知の創出へ向けた茨城大学の役割について考える。

【授業外学修】グローバル化について概観し、茨城大学の役割について自らの視座を持つことができる。

第4回：イバダイ学を考える②（講義・議論）：久留主

【授業内容】持続可能な地域づくりにつながる高等教育の在り方と茨城大学の役割について考える。

【授業外学修】持続可能な地域づくりの事例を調査・考察し、茨城大学の役割について考える。

第5回～第7回：グループワーク：佐藤ほか

【授業内容】第3・4回で示したテーマに対応したグループを組み、大学の将来に対する提言とそれに向けたアクションプランを考える。

【授業外学修】グループ間のコミュニケーションを図りながら担当を決め、アクションプランのプレゼンテーション（パワーポイント使用）に向けて協働する。

第8回：茨城大学のビジョンを考える（プレゼンテーション+討論）：佐川・久留主・佐藤

【授業内容】 各グループが、茨城大学の将来に対する提言を行う（プレゼンテーション）。

【授業外学修】 自グループの発表に対して自己評価を行うとともに、改善できることをまとめる。

履修上の注意/Notes

主担当教員の教育学部・佐藤環のオフィスアワー：月曜日 昼休み（11:50～12:40）

情報端末の活用

インターネット検索や、Formでの回答を授業にて反映させるので、PC携行を必須とする。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：茨城大学の将来ビジョンを提言するための基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：茨城大学の将来ビジョンを提言するための基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：茨城大学の将来ビジョンを提言するための基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：茨城大学の将来ビジョンを提言するための基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：茨城大学の将来ビジョンを提言するための基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

講義中の議論への積極的な参加を求め、下記の基準により成績評価を行う。

- ・テーマ講義毎に行うリアクション・ペーパーの内容（30%）5回×6点
- ・グループワークのプレゼンテーション（第7講）における内容（50%）
- ・最終レポート（20%）紙媒体で提出

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	オックスフォードからの警鐘 - グローバル化時代の大学論
著者名	荻谷剛彦
出版社	中公新書クラレ
出版年	2017
ISBN	978-4121505873
教材費	864

参考書2

書名	世界のエリートが今一番入りたい大学ミネルバ
著者名	山本秀樹
出版社	ダイヤモンド社

出版年	2018
ISBN	978-4478105344
教材費	1944

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8261	ナンバリング	KB-GHS-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 雅一				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

社会学の考え方

授業の概要/Course Overview

社会の変遷をふまえて、社会という単位で取り上げられる認識や諸課題の成立・展開を学ぶ。その上で、社会学の変遷と社会学が明らかにした考え方を検討し、社会構造から物事を捉えようとする視点をもつことができるよう取り組む。具体と抽象を往復しつつ、自身の社会との関係を改めてふりかえることで、社会的課題の様々な見方や分析の検討を進められることを目指す。

キーワード/Keyword(s)

社会、社会学、社会構造、社会調査

到達目標/Learning Objectives

- (1) 社会について、エビデンスに基づいた思考ができる。
- (2) 社会的変遷と社会学の考え方を対応させて、社会構造の観点から考えることができる。
- (3) 社会的課題に対する複数の見方や分析の検討を進めていくことができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 ガイダンス（シラバス使用）及び、社会という単位で考えること
- 第2回 社会学成立に至る背景～Society 5.0による区分ごとの考え方
- 第3回 社会の変化と社会学の変遷
- 第4回 社会調査という方法～量的調査と質的調査
- 第5回 社会調査委の事例1～グローバル化と地域社会
- 第6回 社会調査委の事例2～社会と連動する教育や学習
- 第7回 ある特定の社会における自身のあり方を考える
- 第8回 社会的課題の様々な見方や分析の検討（総括）

【授業外学修】

- (1) 予習：授業内容の確認、自身が考える社会の情報（ニュースや記事など）の収集に取り組む。
- (2) 復習：授業内容のふりかえり、不足分や新たに考えた内容を授業の記録に追記する。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 毎回の授業終了時にミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。
- (2) ミニツツペーパーに対してフィードバックを行い、更なる議論へとつなげる。

履修上の注意/Notes

遅刻や提出物の遅れは2回で欠席1回とする。

情報端末の活用

講義資料はmanabaを通じて配信する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。

A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。

B：到達目標の3点（主に（1）（2））についておおむね以上のレベルで達成されている。

C：到達目標の3点（主に（1））について最低限のレベル以上において達成されている。

D：到達目標の3点のうち1点以上（特に（1））について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

小課題など授業への取り組み状況（50%）、最終レポート（50%）

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	ブリッジブック社会学（第2版）
著者名	玉野和志編
出版社	信山社出版
出版年	2016
ISBN	9784797223521
教材費	

参考書2

書名	実践 自分で調べる技術
著者名	宮内泰介, 上田昌文著
出版社	岩波書店
出版年	2020
ISBN	9784004318538
教材費	

参考書3

書名	「あたりまえ」を疑う社会学：質的調査のセンス
著者名	好井裕明 著
出版社	光文社
出版年	2006

ISBN	9784334033439
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8262	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	井上 拓也, 井坂 寛				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

大学生と消費生活

授業の概要/Course Overview

大学生活とその後の社会生活において、安全で安心した消費生活を送るための基本的な知識について、ゲストスピーカーをお招きしながら概観します。「自立」した消費者になるために、消費者トラブルと関連する法律、ライフプランと保険、食育と栄養を中心に学習していきます。親元を離れて1人暮らしを始めた学生さんはもちろん、すべての学生さんに必要な消費生活のノウハウを伝授し、「消費者力」を養成していきます。

キーワード/Keyword(s)

消費生活、消費者力、消費者トラブルへ、契約、ライフプラン、お金との付き合い方、セーフティネット、地産地消、食育、消費者の権利と義務

到達目標/Learning Objectives

- (1) 消費者トラブルを回避し解決するための契約についての基礎知識を身につける。
- (2) ライフプランを貯蓄や保険の点から設計するための基礎知識を身につける。
- (3) 安全で安心な食生活のための栄養などの基礎知識を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】消費生活と消費者力、ガイダンス
【授業外学修】授業の内容に基づき、自分の消費生活の課題について考えておく。
- 第2回：【授業内容】消費者トラブルと法律（1）消費者トラブルと対処法（消費生活センター相談員）
【授業外学修】授業内容に基づき、自分が関連した消費者トラブルにつき考えておく。
- 第3回：【授業内容】消費者トラブルと法律（2）契約の基本（消費生活センター相談員）
【授業外学修】小レポートをまとめて提出する。
- 第4回：【授業内容】ライフプランと保険（1）ライフプランと三大資金（ファイナンシャルプランナー）
【授業外学修】授業内容に基づき、自分の金銭面でのライフプランを立ててみる。。
- 第5回：【授業内容】ライフプランと保険（2）貯蓄・保険・セーフティネット（ファイナンシャルプランナー）
【授業外学修】小レポートをまとめて提出する。
- 第6回：【授業内容】食育（1）若者の食生活（管理栄養士）
【授業外学修】授業内容に基づき、自分の食生活診断をしてみる。
- 第7回：【授業内容】食育（2）和食と地産地消（農業協同組合・生活協同組合職員）
【授業外学修】小レポートをまとめて提出する。
- 第8回：【授業内容】消費者の権利と義務、まとめ
【授業外学修】最終レポートをまとめて提出する。

【アクティブ・ラーニング】

第2回～第7回では、グループなどによるディスカッションを行う。

履修上の注意/Notes

- (1) 自分の消費生活を改善するという実践的な目標意識をもって講義に臨んでください。トラブル、金銭管理、食事の問題は他人事ではありません。
- (2) ディスカッションでは積極的に発言してください（オンラインの場合はありません）。他者の考えもきちんと受け止めるようにしてください。
- (3) 遅刻すると、その回の授業全体を理解するのが難しくなります。開始時間は守るようにしてください

情報端末の活用

対面授業・オンライン授業いずれの場合も、オンラインで小レポートなどを提出してもらいます。したがってPCが必要となります。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 小レポートと最終レポートをきわめてすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも積極的に参加している。
- A : 小レポートと最終レポートをすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも積極的に参加している。
- B : 小レポートと最終レポートをすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも参加している。
- C : 小レポートと最終レポートを提出し、授業中のディスカッションなどにも参加している。
- D : 小レポートや最終レポートを提出していない。

成績の評価方法/Grading

最終レポート：60点/小レポート：20点/ディスカッションなどへの参加：20点
ただしオンラインの場合、ディスカッションの配点はなくなるかもしれません。

教科書/Textbook(s)

備考 とくにありません。資料をプリントして配布します。講義期間中はきちんと保管しておいてください。

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

法律、保険、食育など、消費生活に関する専門的知識を有する者が、オムニバス形式により、その経験を活かして、「消費者力」を養成する。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8263	ナンバリング	KB-GHS-132-JEP,GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

Diversity and Social Issues in Japan A

授業の概要/Course Overview

This course aims to introduce various issues on diversity and social issues in Japan. It particularly focuses on issues concerning minority groups and nationality system in Japan. Students are encouraged to think critically on those topics. It welcomes both international and Japanese students who are willing to actively participate in discussions about these issues.

キーワード/Keyword(s)

Multicultural society, diversity in Japan, minority groups in Japan, nationality in Japan

到達目標/Learning Objectives

1. To familiarize yourself with various social issues in Japan
2. To critically analyze these issues from different perspectives
3. To present your opinions about these issues
4. To give a presentation on a given topic related to these issues

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

[Class Contents]

1. Introduction to the Course: Who are "Japanese"?
2. Japan as Multicultural Society 1: Ainu, Burakumin, and Okinawans
3. Japan as Multicultural Society 2: Zainichi Koreans
4. Japan as Multicultural Society 3: "Newcomers"
5. Education for Minority Students in Japan
6. Nationality in Japan
7. People with Multiracial/Multiethnic Background in Japan
8. Presentation, Summery

[Active Learning]

In this class, students are expected to join the group discussion in every class except the last class (week 8).

On the 8th week, students will make group presentation.

In this class, students are required to write the reflective journal at the end of each class.

[Out-of-the-class learning]

1. Read assigned reading materials for each week before class and take notes of something that you may come up with for group discussions when reading these reading materials

2. After each class, you are required to turn in reflection (comments and/or questions) and review questions.
3. In addition to the assigned reading materials, read other academic papers, newspapers, and books which relate to topics taken up in class
4. Average time of "out-of-class learning" is 90 minutes per week including writing the final paper.

履修上の注意/Notes

1. This class will be conducted in English.
2. Students are required to actively participate in every class discussion.
3. Students are required to write a reflection sheet on every class.
4. If one is late for the class three times, it will be counted as being absent once.
5. If one is absent more than one thirds of the classes, s/he cannot pass the course.

情報端末の活用

The instructor will not distribute copies of class materials. Please bring your PC if you need to look up the digital files.
Students are required to submit reflection paper, final paper and reading log on manaba.

成績評価基準/Evaluation criteria

A+: Outstanding performance indicating an excellent understanding of the concepts and principles for diversity and social issues in Japan.
A: Fairly good performance indicating a good understanding of the concepts and principles of diversity and social issues in Japan.
B: Performance indicates that concepts and principles of diversity and social issues in Japan are understood and steady improvement is being made.
C: Performance is the minimum required to achieve improvement. Demonstrates some understanding of the concepts and principles of diversity and social issues in Japan.
D: Performance is below the standards and failing. Performance indicates that concepts and principles of diversity and social issues in Japan are not understood.

成績の評価方法/Grading

Active Class Participation 10%
Weekly Reflection and Review 10%
Reflection Paper 20%
Presentation 20%
Final paper 40%
There will be no final exam in Week 8.

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	An introduction to Japanese society
著者名	Yoshio Sugimoto
出版社	Cambridge University Press
出版年	2014

ISBN	978-1107626676
教材費	4500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8264	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	川島 佑介				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

政治と行政の仕組み

授業の概要/Course Overview

本講義では、高校までの現代社会系科目を復習しつつ、大学教養科目として政治学・行政学の基礎的な視角を論じます。高校までの授業が正解を教えるものであるのに対し、大学で行われるこの授業では、理念や実態について、その歴史や背景、正負の効果などの解説に重点を置きます。

キーワード/Keyword(s)

社会科学、政治、行政、集合行為問題、権力、自由主義、民主主義、官僚制、政策

到達目標/Learning Objectives

第一に、様々な社会現象について、社会科学の観点から理解することができること。第二に、自らの意見を練り上げ、他人に説得的なかたちで論じることができるようになること。第三に、以上を踏まえ、高度教育を修めた人間として、世の中に貢献できる人材になること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス：なぜ教養として社会科学、そして政治学・行政学を学ぶのか
2. 集合行為問題
3. 権力とは何か
4. 自由主義と民主主義の相克
5. 代理人としての政治家・官僚
6. 近代官僚制の仕組み
7. 政策の捉え方
8. 授業のまとめ（45分）、テスト

【授業外学修】

- (1) 日々のニュースに注意を払い、社会科学的な知識と考察の力を深めてください。
 - (2) 授業でレジュメを配布しますので、事項について復習してください。
 - (3) 事実関係で不明点がある場合には、インターネットなどを用いて、自分で調べ、調査力も上げてください。ただし、それでも分からない場合には、後述する質問意見用紙で聞いてください。
- 各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第1～7回目には、質問意見用紙の回収を行い、それぞれ第2～8回目の授業冒頭で回答・講評を行いますので、質問や意見がある人は、授業中あるいは授業後に記入・提出してください。

履修上の注意/Notes

他の受講生の迷惑となる私語、香りが強い飲食物の喫食、香水の着用は控えてください。また、本講義では質問意見用紙を通じたアクティブラーニングを実施しますが、減点方式ではないので、率直な内容を書いてください（なお、質問意見がなければ、提出しなくても結構です。第1回目の授業で説明します）。

情報端末の活用

必須

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：政治学・行政学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：政治学・行政学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

テスト(85%)、質問意見用紙(15%)

教科書/Textbook(s)

備考 教科書は用いません。参考書は随時紹介します。

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ（ただし、個別の質問意見については英語も可）

実務経験のある教員による授業科目

自治体委員、大学付属研究所研究員、専門学校講師経験のある教員が、その経験を活かして、行政のこんにち的課題と動態のあり方を具体的に指導し、公務員として活躍するための資質も育成する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8265	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	松井 良和				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

労働法Ⅱ

授業の概要/Course Overview

この授業では、皆さんが将来、会社に勤め始めてから直面する様々な法的な問題について学習していきます。

大学を卒業し会社に就職してから、結婚や育児、家族の介護などのライフイベントに遭遇することがあると思います。こうしたライフイベントに遭遇したとき、退職をするのか、退職をせずに休みを取るのか、それとも正社員ではなく他の働き方にするのか、様々な選択肢から自分に合った選択をすることになります。こうした選択をする際、何が自分にとってベストなのかを考える上でも、労働法の知識は必須になります。

授業では退職に至るまでに生じる、年休や育児休業、休職制度、会社の人事や配転、出向などの法的問題について学んでいきます。これらの内容を理解することで、将来のライフプランやキャリアプランを設計することができるようにします。

これらのことと併せて、ドイツの「労働4.0」に代表されるような、先進諸国で展開されている立法政策についても授業の中で言及し、日本の雇用、立法、社会政策について幅広く学習します。特に、有期契約労働、パートタイム労働、労働者派遣は海外諸国においても重要な立法課題の1つであり、同一（価値）労働同一賃金の問題にあるように政策的にも重要課題の1つになっていますので、海外との比較の観点からも日本の雇用政策の特徴を学びます。

キーワード/Keyword(s)

労働基準法、労働契約法、労働災害、ワーク・ライフ・バランス、人事、解雇、同一労働同一賃金、有期契約、パート、派遣

到達目標/Learning Objectives

労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を学び、今、現実に行っている問題を法的に把握する力を身に付けることができます。こうした力を身に付けることによって、自分のライフプランやキャリアプランを設計できるようになります。

具体的には、年次有給休暇や会社の休職制度、昇格や降格、配転や出向、懲戒処分、解雇などの問題について考える力を身に付けることができます。

これらの問題を考えることを通じて、最新の判例を検討する際に必要となる応用的思考の前提となる、基本的な法的思考力を養うことができます。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. イントロダクション-労働関係の始期と展開、終了について
2. 労働災害-労災保険の概要、使用者の安全配慮義務
3. 様々な休暇・休業制度-年次有給休暇、産前・産後休業、育児休業、休職制度
4. 昇格・降格の法的問題、配転・出向
5. 懲戒処分
6. 労働関係の終了-定年制、退職勧奨、解雇など
7. 非正規労働-有期労働契約・パートタイム労働・労働者派遣
8. これまでの復習(45分)、試験

【授業外学修】

各授業の資料は授業前にポータルシステムにアップロードするので、事前に目を通して予習をしてください。

労働法が関係する様々な問題について、ニュースや新聞記事等をチェックしてアンテナを張っておいてください。

各回の授業内容については、「今日のまとめ」としてレジュメの最後に要点をまとめています。授業後に穴埋めをすることで授業内容を復習してください。

授業では基本的に配布するレジュメに沿って内容を説明していきますが、教科書や参考文献に挙げた基本書の該当箇所を読むことで内容の理解を深めてください。

各回の授業前学習に要する時間は予習60分、復習30分程度を目安とします。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業でリアクションペーパーを配布します。リアクションペーパーには授業の疑問点やその他、皆さんが目にした労働法の問題について自由に記入してください。授業の冒頭に、リアクションペーパーに書いてもらった内容を振り返ります。

履修上の注意/Notes

労働法の領域では常に新しい問題が日々登場しているので、日頃から新聞やニュース等に接しておくことが望ましいです。

情報端末の活用

授業で用いるレジュメや資料はTeamsにアップするので、そちらから各自でダウンロードしてください。

リアクションペーパーについては、manabaを通じて提出してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を十分に習得し、さらに、自分の意見や見解について根拠を示して説明することが出来ている。

A 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を習得し、さらに、自分の意見や見解を説明することが出来ている。

B 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を概ね習得し、さらに、自分の意見や見解を述べている。

C 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を最低限習得し、自分の意見や見解を述べている。

D 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を習得することができておらず、自分の意見や見解を述べられていない。

成績の評価方法/Grading

リアクションペーパーの内容（20%）、授業中に行う小テスト（20%）と試験（60%）で評価を行います。

毎回の授業の際、レジュメと併せて「練習問題」とリアクションペーパーを配布します。授業後にこれらを回収して出席確認をします。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	トピック労働法
著者名	山田省三・石井保雄
出版社	信山社
出版年	2020
ISBN	978-4797287516
教材費	3520

教科書2

書名	労働判例百選第9版
著者名	村中考史・荒木尚志
出版社	有斐閣
出版年	2016
ISBN	978-4641115316
教材費	2640

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	労働法第12版
著者名	菅野和夫
出版社	弘文堂
出版年	2019
ISBN	978-4335315473
教材費	7150

参考書2

書名	労働法第3版
著者名	西谷敏
出版社	日本評論社
出版年	2020
ISBN	978-4535524217
教材費	5280

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8268	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	田中 泉				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

身近な経済学入門II

授業の概要/Course Overview

日々の生活の中で感じる消費者の非合理的行動をトピックとして取り上げ、経済学的な思考方法を説明する。

キーワード/Keyword(s)

機会費用、サunkコスト、合理性と非合理性、限定合理性、消費者心理、行動経済学

到達目標/Learning Objectives

合理的経済人の仮定の意味を説明できる。
 経済学の費用の概念を理解し、それを日常生活に応用できる。
 人間の非合理的な感情や行動を経済学的な視点で理解し、説明できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス、合理的経済人の仮定の説明
2. 一日中寝ていれば費用かかからないのか（機会費用）
3. 食べ放題だとなぜ、食べ過ぎてしまうのか（サunkコスト、心理的勘定）
4. 最終レースの大穴狙いの心理的要因は何か（プロスペクト理論）
5. なぜ日米は北欧諸国に比べ臓器移植の同意者の割合が低いのか（フレーミング効果）
6. 2年目のジnxスとは（ヒューリスティクス）
7. 情けは人の為ならず or 合理的な愚か者？（互酬性）
8. 合理的経済人と限定合理性、まとめ

【授業外学修】

（1）第2回以降は毎回、授業前に「授業前資料」をmanaba あるいはポータルシステムにアップしておくので事前に読んで、自分の考えを整理しておくこと（45分）。

（2）毎回、授業の画面用資料を授業後にmanaba あるいはポータルシステムにアップにアップするので、その資料を復習してコメント（小テスト）課題、あるいは少レポート課題を提出すること（45分）。

【アクティブ・ラーニング】

毎回、授業中に授業内容に関する質問、アンケートを実施し、その結果を授業の参考資料として使用する。第2回以降は、授業終了後に提出されたコメント、小レポートの内容を振り返り、授業内に教員のコメントを加え、受講生の理解度・到達度を確認して新たな内容に入る。

履修上の注意/Notes

- (1) 毎回、manabaあるいはポータルシステムを通じて授業前資料を配布し、授業後には画面用資料をを配布する。授業時には資料配布を行わないので注意すること。
- (2) 毎回、コメントあるいは小レポート（300字程度）を提出する。
- (3) 期末試験は実施しない。

情報端末の活用

資料はすべてポータルシステムあるいはmanabaを用いて配信し、コメントあるいは小レポートを提出してもらうので、毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C：到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
- D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

毎回の講義の最後に実施する小レポートで評価（100%）をする。期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	競争政策論 第2版 独占禁止法事例とともに学ぶ産業組織論
著者名	小田切宏之
出版社	日本評論社
出版年	2017
ISBN	9784535558823
教材費	2400

参考書2

書名	行動経済学入門
著者名	筒井義郎 [ほか] 著
出版社	東洋経済新報社
出版年	2017
ISBN	9784492314975
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8269	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	岩佐 淳一				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

「社会」とは何かⅡ

授業の概要/Course Overview

「社会」とは何かⅠのシラバスで示したように「社会」は日常ありふれた言葉であるものの、改めて「社会」とは何かと問われると説明するのが困難な概念である。本講義ではこの分かったようで分からない「社会」について社会学の知見を利用しつつ理解を深めることを目的とする。「社会」とは何かⅠでは文字通り「社会」とは何かについて解説したが、本講義では主として「社会」の仕組みについての側面に焦点を当ててその理解を目指したい。

キーワード/Keyword(s)

社会構造,地位と役割,社会統制,権力,社会階層,ハビトゥス

到達目標/Learning Objectives

「社会」の仕組みについて理解できており,かつ説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】 シラバスを用いたガイダンス, 「社会」とは何かⅠの復習
【授業外学修】 「社会」とは何かⅠの既履修者は授業プリントをもう一度読んでおくこと。
- 第2回：【授業内容】 地位と役割
【授業外学修】 講義資料はmanabaにアップするので, 必ず授業前に読んで, 分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。
- 第3回：【授業内容】 社会のなかで働く「力」社会統制
【授業外学修】 講義資料はmanabaにアップするので, 必ず授業前に読んで, 分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。
- 第4回：【授業内容】 社会のなかで働く「力」権力
【授業外学修】 講義資料はmanabaにアップするので, 必ず授業前に読んで, 分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。
- 第5回：【授業内容】 成層化した「社会」=社会階層
【授業外学修】 講義資料はmanabaにアップするので, 必ず授業前に読んで, 分からない用語などは, あらかじめ調べておくこと。
- 第6回：【授業内容】 文化資本と社会階層
【授業外学修】 講義資料はmanabaにアップするので, 必ず授業前に読んで, 分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。
- 第7回：【授業内容】 ハビトゥスと教育
【授業外学修】 講義資料はmanabaにアップするので, 必ず授業前に読んで, 分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。

第8回：【授業内容】 まとめ、これまでの授業を振り返り、「社会」のしくみについての確認作業を行う。

【授業外学修】 配布した講義資料全体をもう一度読み直すこと。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業終了時にはミニッツペーパーによる理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

「社会」とは何かⅠと「社会」とは何かⅡは連続性があるので、極力2つの授業を続けて履修することが望ましい。

情報端末の活用

講義資料はmanabaで事前配信する。

課題レポートについては、manabaを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：「社会」の仕組みについて基本的な知識と考え方を十分に修得し、説明できている。

A：「社会」の仕組みについて基本的な知識と考え方を修得し、説明できている。

B：「社会」の仕組みについて基本的な知識と考え方を概ね修得し、説明できている。

C：「社会」の仕組みについて基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、説明できている

D：「社会」の仕組みについて基本的な知識と考え方が修得できておらず、説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

レポート：100%（各50点×2回）

教科書/Textbook(s)

備考	使用しない。各回とも講義資料をアップする。
----	-----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	本当にわかる 社会学
著者名	現代位相研究所編
出版社	日本実業出版社
出版年	2010
ISBN	978-4-534-04705
教材費	1400

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	◎
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8270	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	原口 弥生				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

環境と社会2

授業の概要/Course Overview

公害を含む環境問題は、「汚染」という自然環境だけではなく、地域社会に深く広く影響を及ぼすことがあります。公害や原子力事故による複合的で多面的な被害について理解し、公害や原子力事故が地域社会に及ぼす影響について考察します。また原子力開発について、日本国内外の歴史的経緯や地域社会の関係性にもたらず影響について考察します。

キーワード/Keyword(s)

公害、地域社会の分断、原子力と地域社会、地球温暖化、地域格差、社会格差/社会的公平

到達目標/Learning Objectives

公害を含む環境問題が地域社会にどのような影響を及ぼしているのか、どのような複合的な被害を受けているのかという点について、考察することができる。原子力と地域社会との関係の変化、福島原発事故による複合的な被害とその克服過程について説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 シラバスを用いたガイダンス/まちづくりと環境を考えるー大規模災害
- 2 公害・差別・リスクと地域社会①ー水俣病から考える（グループディスカッション・対面）
- 3 公害・差別・リスクを考える②ー杉並病
- 4 原子力と地域社会①ー日本の原子力開発と東海村（グループディスカッション・対面）
- 5 原子力と地域社会②ー青森県六ヶ所村の地域開発
- 6 原子力と地域社会③ー福島原発事故による被害（グループディスカッション・オンライン）
- 7 地球環境問題を考えるー温暖化と環境正義
- 8 総括（45分） 学期末試験（対面）

【授業外学習】

- （1）授業で使用する講義資料は、事前にmanabaにアップしますので、必ず授業前に読んで、分からない用語などについては、あらかじめ調べておくこと。
- （2）事前学習として公開映像を指定するので、事前に鑑賞し、感想と疑問点を教務情報ポータルに提出すること（第2回、第4回、第6回）。
- （3）復習として、小テストや課題を出すので、各テーマや課題に沿って事前に準備すること。
- （4）各回の授業外学習に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- （1）第2、4、6回については、グループ・ディスカッションと発表を行う。

(2) 毎回の授業終了時には、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

- ・シラバスをよく読んでうえで受講すること。
- ・日々報道される多様な環境問題に関するニュース・新聞などに目を通しておくこと。

情報端末の活用

- ・講義資料はmanabaで事前配信します。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : エネルギー・環境問題と地域社会の関係性について基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその関係性について説明できている。
- A : エネルギー・環境問題と地域社会の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその関係性について説明できている。
- B : エネルギー・環境問題と地域社会の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその関係性について説明できている。
- C : エネルギー・環境問題と地域社会の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその関係性について説明できている。
- D : エネルギー・環境問題と地域社会の基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

小テスト : 30点 (各10点×3回) / 期末試験 : 70点

教科書/Textbook(s)

備考	特に無し
----	------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB8271	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	富江 直子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

社会学の視点B

授業の概要/Course Overview

私たちが取り巻くさまざまな事象を、人々のかかわりのなかで社会的に形成されていくものとして見てみましょう。今あるものは自明でも絶対でなく、人々の相互作用によって作られたものと捉え、相対化していくことで、多様な世界の可能性が想像できるようになってきます。社会によって作られたものなら、社会によって変えていけると考えられるようになってくるでしょう。

キーワード/Keyword(s)

社会、集団、組織、地域、国家、家族、ジェンダー、階級・階層

到達目標/Learning Objectives

- ・社会学各分野の基礎的な知識を身につける。
- ・社会学の視点から身近な社会事象を多面的に分析、考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 シラバスを用いたガイダンス、社会学の視点
- 2 集団と組織の理論
- 3 国家と社会の社会学
- 4 家族の社会学
- 5 ジェンダーの社会学
- 6 階級・階層の社会学
- 7 空間の社会学
- 8 まとめ

【授業外学修】

- (1)生活のなかで、面白いと思うこと、疑問に思うことなどをいろいろ見つけておくことが予習につながります。
- (2)授業の復習は、授業で配付する資料と、各自が作ったノートなどで行って下さい。復習には社会学の事典や入門書なども活用してください。
- (3)各自の関心のあるテーマについては、図書館などで文献を探して学習を深めてください。授業のなかで紹介する参考文献などを使っていたくのもよいと思います。
- (4)授業で学んだ社会学の枠組みを用いて、日常生活のなかの身近な事象を見直してみることも大事な学びになります。
- (5)授業外学修の時間としてはおよそ90分をめやすに取り組んでください。

【アクティブ・ラーニング】

授業の中で、各テーマごとにふり返りの確認テストおよびミニレポートを実施します。

履修上の注意/Notes

この授業はTeamsと教務情報ポータルを使います。

情報端末の活用

授業内でPC等を使用します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

授業内に教務情報ポータルの「小テスト」で行う確認テストおよびミニレポートの合計点（100%）で評価します。

教科書/Textbook(s)

備考	授業のなかでレジユメを配付します。
----	-------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8272	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	篠嶋 妥				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

生命保険を考える（生命保険協会提供講座）

授業の概要/Course Overview

この授業では、まずは、日本の公的保障（社会保障制度）について概観する。
その理解の上に立ち、少子・高齢化社会の一層の進展等により表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性・有効性等について理解し、考察を深めて行く。
また、生活の様々な局面に潜むリスクについて理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組・役割等について学ぶことを通じて、持続可能な社会を営む一員として、また、消費者として、役に立つ知識・考え方の習得を目指す。
以上の内容について、実務家（後述）が講師となり、経験談や最新情報も随所に織り込み、理論と実践とのバランスに配慮して講義を行う。
この授業を通じて、それぞれの人生について考え、成長する契機として頂きたい。

キーワード/Keyword(s)

社会保障と生命保険、公的保障と私的保障、共助と自助、生活設計とリスク管理

到達目標/Learning Objectives

1. 社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することができる。
2. 現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組等を理解し、説明することができる。
3. 大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿等について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回	オリエンテーション・総論（私達を取り巻く環境、公私の生活保障、生命保険の歴史等） （担当：（一社）生命保険協会 茨城県事務局長 小島浩治）	
第2回	生活設計とリスク管理（ライフサイクルの変化、生活設計・リスクとは？等） （担当：同協会 調査部シニアアドバイザー 瀬戸信之）	
第3回	生命保険の種類（死亡・医療・老後・介護それぞれのリスクへの備え） （担当：小島）	
第4回	生命保険契約の仕組（消費者保護の視点も考慮したサービス設計を含む） （担当：同協会 調査部長 鈴木孝昌）	
第5回	生命保険会社の組織と業務・生命保険と税金（生保会社の組織形態・主な業務、生命保険に関する税金の基） （担当：小島）	礎知識）
第6回	生命保険商品の動向（生保の主力商品が、時代・社会構造の変化に応じてどのように対応し、多様化してき） （担当：小島）	たかの確認）
第7回	震災への対応・生命保険に関する調査（東日本震災時等の生命保険協会の対応、加入状況・保険に対する意識等生命保険文化センターの調査内容を解説） （担当：小島、同協会調査部GL天野明治）	識等生命保険文

第8回 総括(担当:小島) 45分
期末試験(担当:小島) 45分

【授業外学修】

- (1)毎回事前に配信する資料により次時の授業内容の予習と本時の復習を行っておくこと。
- (2)少子・高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況等について、メディア等を通じて情報収集し、自分なりの課題意識・意見を持って授業に臨むこと。
- (3)各回の授業外学修に要する時間は60分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- (1)毎回の授業終了時に、レスポンスシート(A4サイズ1枚程度)を配布し、提出してもらう。
(例:授業内容の理解度確認として的小テスト、設定したテーマに関する意見の論述など)

履修上の注意/Notes

- (1)前述のポータルシステムを通じて、毎回事前に授業資料を配信する。
- (2)前述のレスポンスシートの中で、その回の授業についての感想・気づきも書いてもらうことを予定しているが、直接質問等は、講義後に時間を取り対応する。

情報端末の活用

活用予定なし

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている
- A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている
- B : 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている
- C : 到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている
- D : 到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない

成績の評価方法/Grading

到達目標の3点について、レスポンスシートの内容30%、期末試験の得点70%で成績を評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	

実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

一般社団法人 生命保険協会の提供講座として、同協会役職員（※）によるオムニバス形式である。
 （※）生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業について豊富な知識・経験等を有する
 ただし、授業内容の一貫性を保つため、同協会・茨城県事務局長がメインスピーカーとして、全ての回を担当する。その立会のもとで、第2・4・7回は、同協会・本部（東京）の役職員がゲストスピーカーとして担当予定である。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	×	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8274	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 雅一				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

教育と学習

授業の概要/Course Overview

教育や学習について考えるという立場から、教育の歴史の変遷や学習のあり方について学び、教育や学習についての多様な理解を深めていく。教育の歴史の変遷や学習のあり方と、自分の学習歴との関係を改めて考えていくことで、教育や学習のあり方を捉えなおし、自身に関わる教育や学習を構想していく力量を高めることを目標とする。

キーワード/Keyword(s)

教育、学習、学習歴

到達目標/Learning Objectives

<ul style="list-style-type: none"> (1) 教育や学習について、歴史や思想に基づいた思考ができる。 (2) 自身の学習歴を参照し、教育や学習を再考することができる。 (3) 自身に関わる教育や学習を構想することができる。
--

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<p>第1回 ガイダンス（シラバス使用）及び、教育と学習を分けて考えること</p> <p>第2回 ライフコースにおける教育～生涯学習社会</p> <p>第3回 制度としての学校の成立過程～子ども概念と教育</p> <p>第4回 学校教育の課題</p> <p>第5回 地域での学び～社会教育・生涯学習の観点</p> <p>第6回 多文化共生と合意形成</p> <p>第7回 教育と学習を分ける視点から自身の学習歴を整理する</p> <p>第8回 自身に関わる教育や学習のあり方の検討と展開（総括）</p> <p>【授業外学修】</p> <p>(1) 予習：授業内容の確認、教育や学習に関する情報（ニュースや記事など）の収集に取り組む。</p> <p>(2) 復習：授業内容のふりかえり、不足分や新たに考えた内容を授業の記録に追記する。</p> <p>【アクティブ・ラーニング】</p> <p>(1) 毎回の授業終了時にミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。</p> <p>(2) ミニツツペーパーに対してフィードバックを行い、更なる議論へとつなげる。</p>
--

履修上の注意/Notes

遅刻や提出物の遅れは2回で欠席1回とする。

情報端末の活用

講義資料はmanabaを通じて配信する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。

A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。

B：到達目標の3点（主に（1）（2））についておおむね以上のレベルで達成されている。

C：到達目標の3点（主に（1））について最低限のレベル以上において達成されている。

D：到達目標の3点のうち1点以上（特に（1））について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

小課題など授業への取り組み状況（50%）、最終レポート（50%）

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	教育学をつかむ 改訂版
著者名	木村元, 小玉重夫, 船橋一男著
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641177260
教材費	

参考書2

書名	ワークショップと学び まなびを学ぶ
著者名	苅宿俊文, 佐伯胖, 高木光太郎 編
出版社	東京大学出版会
出版年	2012
ISBN	9784130530811
教材費	2800

参考書3

書名	「学び」の構造
著者名	佐伯 胖/著
出版社	東洋館出版社
出版年	1985

ISBN	9784491002774
教材費	1100

参考書4

書名	わかったつもり：読解力が見つからない本当の原因
著者名	西林克彦 著
出版社	光文社
出版年	2005
ISBN	9784334033224
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8275	ナンバリング	KB-GHS-132-JEP,GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

Diversity and Social Issues in Japan B

授業の概要/Course Overview

This course aims to introduce various issues on diversity and social issues in Japan. It particularly focuses on issues concerning foreign workers, women and gender, heterosexism, poverty, education system, etc. It will provide an opportunity to consider through concepts of oppression, privilege, and Japaneseness. It welcomes both international and Japanese students who are willing to actively participate in discussions about these issues.

キーワード/Keyword(s)

Multicultural society, diversity in Japan, education system in Japan, social issues in Japan, Japaneseness, women and gender in Japan, privilege and oppression

到達目標/Learning Objectives

1. To familiarize yourself with various social issues in Japan
2. To critically analyze these issues from different perspectives
3. To present your opinions about these issues
4. To give a presentation on a given topic related to these issues

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

[Class Contents]

1. Introduction to the Course: What are social issues in Japan?
2. Concepts of Privilege, Oppression, and Japaneseness
3. Foreign Workers and Immigration Policies in Japan
4. Women and Gender in Japan
5. Poverty in Japan
6. Education in Japan/Cultural Sharing
7. Heterosexism and Oppression against Transgender People in Japan
8. Presentation, Summery

[Active Learning]

In this class, students are expected to join the group discussion in every class except the last class (week 8).

On the 8th week, students will make group presentation.

In this class, students are required to write the reflective journal at the end of each class.

[Out-of-the-class learning]

1. Read assigned reading materials for each week before class and take notes of something that you may come up with for group discussions when reading these reading materials
2. After each class, you are required to turn in reflection (comments and/or questions) and review questions.
3. In addition to the assigned reading materials, read other academic papers, newspapers, and books which relate to topics taken up in class
4. Average time of "out-of-class learning" is 90 minutes per week including writing the final paper.

履修上の注意/Notes

1. This class will be conducted in English.
2. Students are required to actively participate in every class discussion.
3. Students are required to write a reflection sheet on every class.
4. If one is late for the class three times, it will be counted as being absent once.
5. If one is absent more than one thirds of the classes, s/he cannot pass the course.

情報端末の活用

The instructor will not distribute copies of class materials. Please bring your PC if you need to look up the digital files.
Students are required to submit reflection paper, final paper and reading log on manaba.

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+: Outstanding performance indicating an excellent understanding of the concepts and principles for diversity and social issues in Japan.
- A: Fairly good performance indicating a good understanding of the concepts and principles of diversity and social issues in Japan.
- B: Performance indicates that concepts and principles of diversity and social issues in Japan are understood and steady improvement is being made.
- C: Performance is the minimum required to achieve improvement. Demonstrates some understanding of the concepts and principles of diversity and social issues in Japan.
- D: Performance is below the standards and failing. Performance indicates that concepts and principles of diversity and social issues in Japan are not understood.

成績の評価方法/Grading

Active Class Participation 10%
Weekly Reflection and Review 10%
Mid-term Paper 20%
Presentation 20%
Final paper 40%
There will be no final exam in Week 8.

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	An introduction to Japanese society
著者名	Yoshio Sugimoto

出版社	Cambridge University Press
出版年	2020
ISBN	978-1108724746
教材費	4500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	<input type="text"/>
--------	-----------------------	-------	----------------------

時間割コード	KB8351	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	福田 智子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

高齢社会と成年後見制度

授業の概要/Course Overview

本講義は、世界で最も高齢社会が進む日本における成年後見制度（精神上の障害により自分に関する事柄を自身で決めることができない人をサポートする制度）の概要について学ぶことを目的とする。成年後見法（民法・任意後見契約に関する法律）は、民法と密接に関係する内容であるが、本講義では法律だけでなく、成年後見制度の全体像（関連する公的機関・民間機関・コミュニティ）、認知症や犯罪など高齢者にかかわる問題、そして世界における成年後見制度の内容や動向など、幅広い範囲にわたり学習する。

キーワード/Keyword(s)

成年後見制度、高齢社会、法定後見、任意後見、意思決定支援

到達目標/Learning Objectives

- (1) 成年後見制度の概要を理解できている
- (2) (1)に対する問題点や改善点等を考察した上で、自分の意見を論理的に説明することができる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) シラバスに関するガイダンスと日本における高齢社会の現状把握
 - ・ガイダンスでは授業内容、予習の仕方、参考図書等に関する説明をする
- (2) 高齢者を取り巻く問題（認知症、犯罪など）
- (3) 成年後見制度概論（成年後見制度にかかわる機関や厚生労働省の取り組みなど）
- (4) 成年後見制度各論①（法定後見制度）
- (5) 成年後見制度各論②（任意後見制度）
- (6) 成年後見人、任意後見人の役割（意思決定支援など）
- (7) ドイツ・イギリス・オーストリアの成年後見制度
- (8) まとめ、試験（45分間）

【授業外学習】

各回で取り扱う内容について、事前に参考図書などでその概要等を確認し、分からない用語等は調べておくこと。
各回の授業外学習に要する時間は90分程度とする。

履修上の注意/Notes

毎回、授業の最後に小テストを行う（manabaで実施）。
最後の講義は、45分間の最終テストを行う（manabaで実施）。

情報端末の活用

オンライン授業のためPC必須

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 成年後見制度の基本的な知識と考え方を十分に修得し、その問題点や改善点を深く洞察し、論理的に自分の考えや提言を説明できている
- A : 成年後見制度の基本的な知識と考え方を修得し、その問題点や改善点を考察した上で自分の考えや提言を説明できている
- B : 成年後見制度の概要を理解し、その問題点や改善点を考察した上で自分の考えを説明できている
- C : 成年後見制度の概要を理解しているが、その問題点や改善点を考察した上での自分の考えを説明できていない
- D : 成年後見制度の概要を理解できていない

成績の評価方法/Grading

小テスト（択一式）合計52点、最終テスト（記述式）合計48点の合計得点で成績評価を行う。

教科書/Textbook(s)

備考	なし
----	----

参考書/Reference Book(s)

参考書2

書名	認知症と民法
著者名	小賀野晶一, 成本迅, 藤田卓仙 編
出版社	勁草書房
出版年	2018
ISBN	9784326449743
教材費	3200

参考書3

書名	認知症と医療
著者名	成本迅, 藤田卓仙, 小賀野晶一 編
出版社	勁草書房
出版年	2018
ISBN	9784326449750
教材費	3200

参考書4

書名	認知症と情報
著者名	藤田卓仙, 小賀野晶一, 成本迅 編
出版社	勁草書房
出版年	2019
ISBN	9784326449767

教材費	3000
-----	------

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8352	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	上田 悠久				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

民主主義の歴史

授業の概要/Course Overview

かつてイギリスの首相を務めたウィンストン・チャーチルは、「民主主義は、これまで試されてきた他のありとあらゆる政治制度を除けば、最悪の政治形態である」と述べ、民主主義がベストではなくとも、人類が長い歴史の中で編み出してきたベターな選択肢であると示しました。この授業では古代ギリシアまで遡って民主主義の歴史を辿り、現代に至るまで民主主義を巡ってどのような議論が展開されてきたのか概観し、民主主義の課題について考えていきます。

キーワード/Keyword(s)

民主主義、政治思想史、古代、近代、ヨーロッパ、日本、議会、大衆社会

到達目標/Learning Objectives

1. 民主主義の歴史や、民主主義についてこれまで展開されてきた議論を理解できるようになる
2. 民主主義の下で生きる市民として、民主主義について自分の問題として考えられるようになる
3. 民主主義について、自分の考えを論理的に組み立て、自分の言葉で表現できるようになる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：オリエンテーション：民主主義とは何か
 第2回：古代ギリシアの民主主義——民主主義の失敗？
 第3回：混合政体——権力のバランスと民主主義
 第4回：議会制民主主義の成立——代表制とは何か？
 第5回：民主主義の変容——大衆社会
 第6回：日本の戦後民主主義
 第7回：民主主義の将来
 第8回：まとめ（45分）、試験（またはレポート）

【授業外学修】

- （1）講義資料はTeamsにアップロードするので、授業前に読んでおくこと。
 - （2）各授業回で取り扱う内容について、授業後に復習し、疑問点をリアクション・ペーパーにまとめ整理すること。
 - （3）授業で紹介したテキストを各自読んで理解を深めること。
- ※各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- （1）毎回の授業後に書いてもらったリアクション・ペーパーに、翌週の授業で応答します。
- （2）理解度の確認のため小テストを、第2回～第7回の間で随時実施し、次の授業でフィードバックを行います。

(3) リアルタイム（同時双方向）授業では担当講師から質問を投げかけて、チャットで応答してもらうことを考えています。

履修上の注意/Notes

- (1) 高校の世界史、政治経済、倫理の知識があると役に立ちますが、未履修でも構いません。必要な前提知識は授業で紹介します。
- (2) 授業計画、評価方法は、受講者数や社会情勢に応じて変更の可能性があります。変更の際は受講生に周知します。

情報端末の活用

同時双方向授業、オンデマンド授業の視聴はTeams、小テストの受験やリアクション・ペーパー提出はFormsを使って実施する予定です。PCやタブレット、通信環境を有していることを前提に授業を進めます。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 3つの到達目標をすべて高いレベルで達成している
- A : 3つの到達目標を達成している
- B : 3つの到達目標のうち2つを達成している
- C : 3つの到達目標のうち1つを達成している
- D : どの到達目標も達成できていない

成績の評価方法/Grading

- 試験（またはレポート）（50点）
- 小テスト（20点）
- 平常点（リアクションペーパー、授業への貢献など）（30点）

教科書/Textbook(s)

備考	特定の教科書は用いません。授業で取り上げる著作の多くは図書館に所蔵されています。授業全体に関わる代表的な参考書を以下に挙げますが、これ以外については授業で紹介します。
----	---

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	民主主義とは何か
著者名	宇野重規
出版社	講談社
出版年	2020
ISBN	9784065212950
教材費	940

参考書2

書名	民主主義の源流：古代アテネの実験
著者名	橋場弦
出版社	講談社
出版年	2016
ISBN	9784062923453

教材費	
-----	--

参考書3

書名	西洋政治思想史
著者名	宇野重規著
出版社	有斐閣
出版年	2013
ISBN	9784641220010
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8353	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	清山 玲				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

社会政策入門：子どもの貧困問題を考える

授業の概要/Course Overview

国家の貧困問題への対応の仕方は、国や時代によって大きく異なります。経済学は貧困問題と長い間格闘してきました。いま、日本の子どもたちに存在する貧困の実態、なぜ先進国である日本に子どもの貧困問題が存在するのか、この問題に対する政策支援の内容とその変遷を講義します。その際、子どもの貧困問題に対して国や自治体に取り組むべき理由や具体的な政策について、経済学的視点から解説します。教員や自治体職員志望者にとっては、将来の仕事に必要な不可欠な内容が多く含まれています。

キーワード/Keyword(s)

子どもの貧困、相対的貧困、貧困の世代間連鎖、生活保護制度、生活困窮者自立支援制度、ナショナル・ミニマム、ワーキングプア、子ども食堂、学習支援、ウェット夫妻、ケインズ、ベヴァリッジ、ピケティ

到達目標/Learning Objectives

1. 子どもの貧困問題とその政策的対応に関する基礎的な用語等を説明できる。
2. 問題解決に向けて国家の政策の内容や必要性や意義を考察し論じることができる。
3. 問題解決に向けて自分には何ができるかを具体的に考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス、経済学と貧困問題
2. 絶対的貧困と相対的貧困から日本の子どもの貧困の実態を考える
3. 子どもの貧困の実態：所得格差と子どもの教育機会：貧困の世代間連鎖（アンケート）
4. 子どもの貧困問題の原因と子ども支援政策の全体像（小テスト）
5. 子どもの貧困問題を解決するための社会的支援：生活保護制度と生活困窮者自立支援制度（ミニレポート）
6. 子どもの貧困問題を解決するための社会的支援：奨学金、制服等学校生活必需品、学習支援と大学生のボランティア活動活動紹介と情報提供（感想文）
7. 小テスト（30分）＋感想文に対するコメント＋
貧困問題を解決するためにいま社会はどう変わるべきか：国・自治体・企業・学校・地域にできること
子どもの貧困問題を解決するためにいま地域に何があるべきか：学習支援、子ども食堂、居場所、キャリア支援
8. 財源、家計、マンパワーについて考える

【授業外学修】

- （1）講義資料は、MS-Teamsにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは調べておいてください。
- （2）キーワードについて、あらかじめ調べておくとスムーズに理解できます。
- （3）子どもの貧困で新聞記事やその他インターネット検索をかけて、情報を収集してみてください。
- （4）授業外学修時間は、各回90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 2-8回目までに、計4回程度、授業の振り返り、感想文、調べ学習等、書く機会を設けます。
これらに対するコメントやリプライを提出後の授業時間に行います。
- (2) 経済的に厳しい子どもたちへの支援になる奨学金その他の情報を集めその結果を整理したミニレポートを課題として致します。

履修上の注意/Notes

1. 毎回すべての配布資料とノートを手元で見られるようにしてください。
2. 質問等は、MS-Teamsのチャットを利用してください。授業時間以外に質問等がある場合には、授業終了時に行うか、チームのチャットで時間予約を申し込んでください。
3. 指示事項は、授業中口頭およびMS-Teamsのチャットを通じて行います。注意してください。
4. オフィスアワー：金曜日の昼休み

情報端末の活用

- ・講義資料は、MS-Teamsの授業チームにアップします。
- ・試験や課題レポートについては、教務情報ポータルシステムかMS-Formsなど指示された方法で提出してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 子どもの貧困問題について十分に基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- A : 子どもの貧困問題について基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- B : 子どもの貧困問題について概ね基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- C : 子どもの貧困問題について最低限の基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- D : 子どもの貧困問題について基本的な知識を修得できておらず、さらに問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

知識に関しては授業中に行う小テスト (30点×2回) / コメント・感想文・調べ学習 (10点×2回) / ミニレポート (20%)
詳細については、初回に説明します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特に指定せず、プリントを配布します。 参考書：できるだけ阿部彩 (2008) 『子どもの貧困：日本の不公平を考える』岩波新書 (820円+税) や貧困統計ホームページ (URL: https://www.hinkonstat.net/) などを参照してください。
----	---

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	子どもの貧困—日本の不公平を考える
著者名	阿部 彩
出版社	岩波書店
出版年	2008

ISBN	9784004311577
教材費	860

参考書2

書名	子どもの貧困II— 解決策を考える
著者名	阿部 彩
出版社	岩波書店
出版年	2014
ISBN	9784004314677
教材費	860

参考書3

書名	子どもの貧困連鎖
著者名	保坂・池谷
出版社	新潮社
出版年	2015
ISBN	4101387125
教材費	594

参考書4

書名	平成25年度 全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した 学力に影響を与える要因分析に関する 調査研究
著者名	お茶の水女子大学
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8354	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	後藤 玲子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

経済学の考え方（旧「現代経済入門」）

授業の概要/Course Overview

本講義では、現代の社会経済におけるさまざまな問題を取り上げながら、問題の実態・課題や、研究上の「問い」（リサーチ・クエスチョン）について経済学的に考える方法を解説します。

キーワード/Keyword(s)

科学的方法論、ポジティブ心理学、世界経済、ジェンダー問題、因果推論、目標設定理論、データエコノミー、ブレインストーミング、グループワーク

到達目標/Learning Objectives

授業で扱った社会経済問題について、社会科学の方法論や経済学の考え方を使って、よりよく考えることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス、シャカイをカガクする方法

ブレインストーミング、ミニッツペーパー／小テスト

第2回：何が人生の成功を決めるのか

振り返り、ワードクラウド、オンライン・アンケート、ミニッツペーパー／小テスト

第3回：世界のリアルは予想どおりか

振り返り、オンライン・クイズ、ミニッツペーパー／小テスト

第4回：なぜ日本では女性管理職が少ないのか

振り返り、オンライン・クイズ、ミニッツペーパー／小テスト

第5回：どうすれば変わるのか

振り返り、ワードクラウド、ミニッツペーパー／小テスト

第6回：政策効果の測り方

振り返り、ミニッツペーパー／小テスト

第7回：データエコノミーの時代

振り返り、オンライン・クイズ、ミニッツペーパー／小テスト

第8回：まとめ、小テスト（45分）、授業アンケート

振り返り

※受講者の人数や反応によって授業の方法や講義の順序を変えますので、シラバス通りには進まないことがあります。

※受講者及び教員の通信環境等によって授業の方法や講義の順序を変えますので、シラバス通りには進まないことがあります。

【授業外学修について】各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とします。

1. 予習を特別に指示した場合を除いて、復習を重視して下さい。復習で大切なのは、授業で学んだ知識を応用する力を身につけることです。そのために、まずは講義資料とノートを読み直し、ポイントを再確認して下さい。

2. 次に、本授業で学んだことを他の授業の課題や時事問題などでどのように活かせるか考えてみてください。関係づけ能力を高めているうちに知識が知恵やスキルに変換されていくことが期待されます。

3. 参考文献を時間をかけて読むことも有意義です。授業では紹介する文献のうち、興味を持った文献を手にとって読んでみて下さい。自分の考え方に良い影響を与える本に出会うことができれば、その出会いは生涯の財産になると思います。

履修上の注意/Notes

1. 「現代経済入門」や「現代経済入門Ⅰ」の単位を取得した学生は、履修できません。注意して下さい。
2. Teamsでのリアルタイム配信によるオンライン授業を行います。教務情報ポータル、Teams、ウェブサイトアクセスできる通信環境を整えてください。
3. 各回の講義資料は、MS Teamsの「ファイル」>「クラスの資料」に事前配布する予定です。
4. 原則として毎回、振り返りと小テストを実施します。
5. 授業中に実施する小テストや授業内アンケートによって出欠を把握します。

情報端末の活用

Teamsでのリアルタイム配信によるオンライン授業を行います。教務情報ポータル、Teams、ウェブサイトアクセスできる通信環境を整えてください。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 授業で扱った内容に関する基本的な知識と考え方を十分に修得している。
- A : 授業で扱った内容に関する基本的な知識と考え方を修得している。
- B : 授業で扱った内容に関する基本的な知識と考え方を概ね修得している。
- C : 授業で扱った内容に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得している。
- D : 授業で扱った内容に関する基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

小テスト：100点。重みづけ方法については、初回の授業で説明します。

教科書/Textbook(s)

備考	MS Teamsを通じて配布予定の講義資料を使用します。
----	------------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	FACTFULNESS (ファクトフルネス) : 10の思い込みを乗り越え、データから真実を読み解く習慣
著者名	ハンス・ロスリング 著・文・その他
出版社	日経BP
出版年	2019
ISBN	9784822289607
教材費	1800

参考書2

書名	マインドセット : 「やればできる!」の研究
著者名	キャロル・S・ドゥエック 著

出版社	草思社
出版年	2016
ISBN	9784794221780
教材費	1700

参考書3

書名	スイッチ! : 「変わらない」を変える方法
著者名	チップ・ハース&ダン・ハース著 ; 千葉敏生訳
出版社	早川書房
出版年	2016
ISBN	978-4150504786
教材費	

参考書4

書名	「原因と結果」の経済学 = Causal Inference in Economics : データから真実を見抜く思考法
著者名	中室牧子, 津川友介 著
出版社	ダイヤモンド社
出版年	2017
ISBN	978-4478039472
教材費	1600

参考書5

書名	ファスト&スロー : あなたの意思はどのように決まるか?
著者名	ダニエル・カーネマン 著
出版社	早川書房
出版年	2014
ISBN	978-4150504106
教材費	840

参考書6

書名	あなたを支配し、社会を破壊する、AI・ビッグデータの罠
著者名	キャシー・オニール著 ; 久保尚子訳
出版社	インターシフト
出版年	2018
ISBN	978-4772695602
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎

コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	「現代経済入門」または「現代経済入門Ⅰ」を受講していないこと。
--------	---	-------	---------------------------------

時間割コード	KB8355	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	寺地 幹人				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

社会学にふれる

授業の概要/Course Overview

社会学未習者が、社会学を知るきっかけを提供する。比較的なじみやすい話題（具体的には、メディア、場所、移動、若者文化）を素材とし、社会学ないし社会的メディア論・社会的若者論の観点からそれらを考察することを通じた、社会学についての理解と社会的視点の獲得が、受講生に期待される。

キーワード/Keyword(s)

社会学、現代社会、メディア、情報、場所、空間、若者

到達目標/Learning Objectives

- (1)メディアや場所に関連する話題から、社会学の基礎的知識を獲得する。
- (2)身近な現象を考察する際の社会的視点を身につける基礎を培う。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

※授業第1回に必ず出席すること。（変更がある場合）授業計画の変更、教科書の購入方法や次回以降の予習方法等、重要事項について説明する。

※必須ではないが、4Qで開講する「社会学にしたしむ」との連続受講が、内容の継続および教科書購入の観点から望ましい。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会学についての基礎的説明
- 第3回 社会学にふれる(1)：ゲーム
- 第4回 社会学にふれる(2)：コンビニ
- 第5回 社会学にふれる(3)：ギャル・ギャル男
- 第6回 社会学にふれる(4)：オタク
- 第7回 まとめむけて
- 第8回 議論・質疑応答

<授業外学修>

- ・事前にアップロードするシートをプリントアウトし、指定箇所を記入済みのうえ、授業時に用意すること（詳細は、ガイダンス時に説明するので、その説明を踏まえること）。
- ・シートを記入するために、テキストの該当箇所を事前に読むことが必要となる。
- ・テキスト内で理解が難しい箇所がある場合には、図書館などで参考となる文献を手にとるなど、工夫をすること。

<アクティブ・ラーニング>

受講生どうしの意見交換

<授業外学修>

各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

履修上の注意/Notes

- 授業第1回に必ず出席すること。第2回以降の履修を認める場合もあるが、毎回の課題の積み重ねで評価する授業なので、その点で不利になることに注意。
- 現代社会および社会学のトレンドは日々刻々と変化している。この授業には最新の社会状況も反映されるため、詳細な授業概要・授業計画については授業第1回にて説明する（上記の授業計画は2021年1月時点のものであり、開講時に修正する可能性がある）。また、受講者の理解・関心等の理由により、授業計画は変更されることがある。

予習：次回までに教科書の指定された範囲を読み、シートを作成してくる。

復習：次回の予習を優先してほしいが、可能であれば復習をするのが望ましい。

遅刻：各回までの課題をもとにして授業を展開するので、遅刻し途中で入室すると、その日の授業への参加が困難となる。やむを得ない事情で遅れる場合には、授業第1回で指示する方法により、連絡を入れること。

情報端末の活用

- ・ Teamsチームおよびmanabaの本授業のページを、1日1回程度以上確認すること。
- ・ 各回授業（第1回を除く）の前に、PDF（授業に持参するシート）をプリントアウトすることが必要となる場合がある。プリンターを用意するなどの準備をしておくことが望ましい。

成績評価基準/Evaluation criteria

「成績の評価方法」に記載の「評価ポイント」の①～③内容を、すべて満たして任意記述欄なども不足なく記載の場合はA+、ほぼ満たして任意記述欄なども不足なく記載の場合はA、不足している部分があるが5分の4程度満たされている場合はB、不足している部分があるが3分の2程度満たされている場合はC、それ以外はD。

成績の評価方法/Grading

第2回以降の各回の授業にかかわる課題（100%）

評価ポイント：①教科書の理解、②予習時の考察、③授業時の考察。①②③を概ね同比率で評価する。①で求めるのは、理解の正確さと要約の精度。②③で求めるのは、①を活かした考察になっているか、「感想」ではなく「考察」となっているか、という点など。

- 期末試験を実施せず、期末レポートも出題しない予定。

- 2回分までは欠席が認められるが（3回以上は単位認定不可）、課題の点数を足し合わせて評価するので、欠席があると大きく不利になる。すなわち、欠席が1～2回だとしても、その影響が大きいので点数が足りずに不合格となる場合もある。よって、極力欠席しないことが重要となる。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	場所から問う若者文化
著者名	木村絵里子 ほか編著
出版社	晃洋書房
出版年	2021
ISBN	9784771033719

教材費	2400
-----	------

教科書2

書名	ポスト情報メディア論 = post information media studies
著者名	岡本健, 松井広志 編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2018
ISBN	9784779512858
教材費	2400

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	社会システム (上)
著者名	
出版社	勁草書房
出版年	2020
ISBN	9784326603244
教材費	

参考書2

書名	社会システム (下)
著者名	
出版社	勁草書房
出版年	2020
ISBN	9784326603251
教材費	

参考書3

書名	趣味の社会学 = Sociology of Taste : 文化・階層・ジェンダー
著者名	片岡栄美
出版社	青弓社
出版年	2019
ISBN	9784787234568
教材費	

参考書4

書名	メディア・コンテンツ・スタディーズ : 分析・考察・創造のための方法論
著者名	岡本健, 田島悠来編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2020
ISBN	9784779512841

教材費	
-----	--

参考書5

書名	友人の社会史：1980-2010年代 私たちにとって「親友」とはどのような存在だったのか
著者名	石田 光規 著・文・その他
出版社	晃洋書房
出版年	2021
ISBN	9784771034327
教材費	

参考書6

書名	社会学する原動力 = TOWARD SOCIOLOGIES
著者名	田中慶子, 中根光敏
出版社	松籟社
出版年	2019
ISBN	9784879843722
教材費	

参考書7

書名	現代日本人の意識構造 第9版
著者名	NHK放送文化研究所編
出版社	NHK出版
出版年	2020
ISBN	9784140912607
教材費	

参考書8

書名	暮らしの視点からの地方再生：地域と生活の社会学
著者名	牧野厚史, 松本貴文編
出版社	九州大学出版会
出版年	2015
ISBN	9784798501581.0
教材費	

参考書9

書名	認識と反省性：ピエール・ブルデューの社会学的思考
著者名	磯直樹著
出版社	法政大学出版局
出版年	2020
ISBN	9784588151057
教材費	

参考書10

書名	ポストアーバン都市・地域論
著者名	Hans Westlund 編
出版社	
出版年	2019
ISBN	9784863102170
教材費	

参考書11

書名	現代アニメ「超」講義
著者名	石岡良治
出版社	Planets/第二次惑星開発委員会
出版年	2019
ISBN	4905325137.0
教材費	

参考書12

書名	社会学で描く現代社会のスケッチ
著者名	友枝敏雄, 山田真茂留, 平野孝典 編著
出版社	みらい
出版年	2019
ISBN	9784860154851.0
教材費	

参考書13

書名	「アイドル」のメディア史：『明星』とヤングの70年代
著者名	田島悠来
出版社	森話社
出版年	2017
ISBN	9784864051149.0
教材費	

参考書14

書名	『平凡』の時代：1950年代の大衆娯楽雑誌と若者たち
著者名	阪本博志
出版社	昭和堂
出版年	2008
ISBN	9784812208229.0
教材費	

参考書15

書名	「コト消費」の嘘
----	----------

著者名	川上徹也
出版社	KADOKAWA
出版年	2017
ISBN	9784040822082.0
教材費	

参考書16

書名	メディア論の地層：1970大阪万博から2020東京五輪まで
著者名	飯田 豊 著・文・その他
出版社	勁草書房
出版年	2020
ISBN	9784326654253.0
教材費	

参考書17

書名	日本メディア史年表
著者名	土屋礼子編
出版社	吉川弘文館
出版年	2018
ISBN	9784642014779.0
教材費	

参考書18

書名	グローバル現代社会論 = Studies on Contemporary Global Society
著者名	山田真茂留 編著
出版社	文真堂
出版年	2018
ISBN	9784830950056.0
教材費	

参考書19

書名	ジェントリフィケーション
著者名	藤塚吉浩著
出版社	古今書院
出版年	2017
ISBN	9784772242011.0
教材費	

参考書20

書名	東京β = TOKYO BETA : 更新され続ける都市の物語
著者名	速水健朗 著
出版社	筑摩書房

出版年	2016
ISBN	9784480864437.0
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	△
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8356	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	篠嶋 妥				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

生命保険を考える（生命保険協会提供講座）

授業の概要/Course Overview

この授業では、まずは、日本の公的保障（社会保障制度）について概観する。

その理解の上に立ち、少子・高齢化社会の一層の進展等により表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性・有効性等について理解し、考察を深めて行く。

また、生活の様々な局面に潜むリスクについて理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組・役割等について学ぶことを通じて、持続可能な社会を営む一員として、また、消費者として、役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

以上の内容について、実務家（後述）が講師となり、経験談や最新情報も随所に織り込み、理論と実践とのバランスに配慮して講義を行う。

この授業を通じて、それぞれの人生について考え、成長する契機として頂きたい。

キーワード/Keyword(s)

社会保障と生命保険、公的保障と私的保障、共助と自助、生活設計とリスク管理

到達目標/Learning Objectives

1. 社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することができる。
2. 現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組等を理解し、説明することができる。
3. 大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿等について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 オリエンテーション・総論（私達を取り巻く環境、公私の生活保障、生命保険の歴史等）

（担当：（一社）生命保険協会 茨城県事務局長 小島浩治）

第2回 生活設計とリスク管理（ライフサイクルの変化、生活設計・リスクとは？等）

（担当：同協会 調査部シニアアドバイザー 瀬戸信之）

第3回 生命保険の種類（死亡・医療・老後・介護それぞれのリスクへの備え）

（担当：小島）

第4回 生命保険契約の仕組（消費者保護の視点も考慮したサービス設計を含む）

（担当：同協会 調査部長 鈴木孝昌）

第5回 生命保険会社の組織と業務・生命保険と税金（生保会社の組織形態・主な業務、生命保険に関する税金の基

礎知識）

（担当：小島）

第6回 生命保険商品の動向（生保の主力商品が、時代・社会構造の変化に応じてどのように対応し、多様化してき

たかの確認）

（担当：小島）

第7回 震災への対応・生命保険に関する調査（東日本震災時等の生命保険協会の対応、加入状況・保険に対する意識等生命保険文化センターの調査内容を解説）

識等生命保険文

（担当：小島、同協会調査部GL天野明治）

第8回 総括(担当:小島) 45分
期末試験(担当:小島) 45分

【授業外学修】

- (1)毎回事前に配信する資料により次時の授業内容の予習と本時の復習を行っておくこと。
- (2)少子・高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況等について、メディア等を通じて情報収集し、自分なりの課題意識・意見を持って授業に臨むこと。
- (3)各回の授業外学修に要する時間は60分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- (1)毎回の授業終了時に、レスポンスシート(A4サイズ1枚程度)を配布し、提出してもらう。
(例:授業内容の理解度確認として的小テスト、設定したテーマに関する意見の論述など)

履修上の注意/Notes

- (1)前述のポータルシステムを通じて、毎回事前に授業資料を配信する。
- (2)前述のレスポンスシートの中で、その回の授業についての感想・気づきも書いてもらうことを予定しているが、直接質問等は、講義後に時間を取り対応する。

情報端末の活用

活用予定なし

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている
- A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている
- B : 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている
- C : 到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている
- D : 到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない

成績の評価方法/Grading

到達目標の3点について、レスポンスシートの内容30%、期末試験の得点70%で成績を評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	

実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

一般社団法人 生命保険協会の提供講座として、同協会役職員（※）によるオムニバス形式である。
 （※）生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業について豊富な知識・経験等を有する
 ただし、授業内容の一貫性を保つため、同協会・茨城県事務局長がメインスピーカーとして、全ての回を担当する。その立会のもとで、第2・4・7回は、同協会・本部（東京）の役職員がゲストスピーカーとして担当予定である。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	×	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8358	ナンバリング	KB-GHS-112-GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	胡 安琪				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

Intercultural Psychology A

授業の概要/Course Overview

This class would include intercultural adaptation lectures. Students would also experience cross-culture while imagining life in the international community. We will make international comparisons to deepen our understanding of cultural differences. Lecture include psychological perspectives on the differences between Japanese society, American society, and Chinese society.

キーワード/Keyword(s)

Psychology, cross-culture, cultural difference, foreign cultures, social psychology

到達目標/Learning Objectives

The purpose of this course is to know how it is like to adapt in a cross-cultural society. Goal of this course is to learn the basic knowledge of psychology and adapt it to real life. Also, we aim to improve English skill by conducting lectures in English.

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction (Explaining the course schedule, the contents of this course, and evaluation methods)
2. What is psychology?
3. Social psychology
4. Cross-cultural psychology and adaptation
5. Japanese concept of Wa, Enryo, and Amae
6. Stereotype and prejudice
7. How to overcome prejudice
8. Summary

Students will be asked to write a short report or take a quiz after each session as a homework.

[Homework]

Review the lecture materials after each class. Students will be asked to write a short report or take a quiz after each session as a homework.

履修上の注意/Notes

Basically, this course will be conducted in English.

※Schedule of syllabus might differ depending on students interest and lecture progress.

情報端末の活用

PC等活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : Students have fully mastered and applied the outline of each specialized field of psychology.
A : Students have mastered and applied the outline of each specialized field of psychology.
B : Students have generally mastered and applied the outline of each specialized field of psychology.
C : Students have minimal acquisition of each specialized field of psychology.
D : Students have not mastered or applied the outline of each specialized field of psychology.

成績の評価方法/Grading

Students will be evaluated comprehensively from the following viewpoints: Short report or quiz 40 %, Final Exam 60 %.

教科書/Textbook(s)

備考	特になし。授業内で関連資料を配付する
----	--------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

English

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8359	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	福田 智子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

税金と法

授業の概要/Course Overview

本講座は、税金の仕組み、税金と法律との関係、そして具体的な税金計算の基礎を学ぶことを目的とする。税金は私たちの生活に身近なものであるにもかかわらず、その内容や課税の仕組みはあまり知られていない。そこで本講座では、具体的な税金計算方法だけでなく、私達がなぜ税金を納めなければならないのか、法学的視点を交えながら学習する。最終回には、税理士の職務内容等についても簡単に紹介する。

キーワード/Keyword(s)

税金、租税法、租税法律主義、所得税、相続税、税理士業務

到達目標/Learning Objectives

- (1)税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を理解できている
- (2)(1)を理解した上で、税金の社会における役割に対する自分の意見を論理的に述べることができる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) シラバスに関するガイダンス、税金とは？
 - ・ガイダンスでは授業内容、予習の仕方、参考図書等に関する説明をする
 - ・税金に関する導入の説明
- (2) 税金と法律
 - ・なぜ税を納める必要があるのか、法学的視点から学習する
- (3) 税金の種類と仕組
- (4) 所得税①
- (5) 所得税②
- (6) 相続税
- (7) 消費税、税理士の業務
- (8) まとめ、最終試験

【授業外学習】

各回で取り扱う内容について、事前に参考図書などでその概要等を確認し、分からない用語等は調べておくこと。
各回の授業外学習に要する時間は90分程度とする。

履修上の注意/Notes

毎回、講義の最後に小テストを行う（manabaにて実施）。

最終回に45分間の最終テストを行う（manabaにて実施）。

情報端末の活用

オンライン授業のためPC必須

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を十分に理解した上で、税金の社会における役割に対する自分の意見や提言を論理的に説明できている
- A : 税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を理解した上で、税金の社会における役割に対する自分の意見や提言を説明できている
- B : 税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を理解した上で、税金の社会における役割に対する自分の意見を説明できている
- C : 税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎は理解しているが、税金の社会における役割に対する自分の意見を説明できていない
- D : 税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を理解できていない

成績の評価方法/Grading

小テスト（択一式）合計52点、最終テスト（記述式）合計48点の合計点数で評価を行う。

教科書/Textbook(s)

備考	なし
----	----

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

税理士として15年以上、税理士業務を行ってきた講師が、その経験を活かして、税金の仕組みや計算方法について講義を行う。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8360	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	上田 悠久				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

共生の政治

授業の概要/Course Overview

西洋の伝統において、「政治」とは共同体（コミュニティ）に関わる「公」の事柄を意味していました。そして「政治」の大きな課題は、バラバラの利害や関心を持つ人々が、同じ共同体の中で共に生きていく術を模索することにあります。特に社会が混乱している状況において、人々は危機を乗り越え、よりよい社会を実現するために、「共生」のあり方を論じてきました。コロナ禍という未曾有の危機を経験した今、危機に直面した人々がどのように「共生」について論じたのかを学び、混沌とした時代に生きる我々が政治や社会とどのように関わっていけば良いのか考えていきます。

キーワード/Keyword(s)

共生、政治、公共哲学、政治理論、政治思想史、社会思想史、倫理、公衆衛生

到達目標/Learning Objectives

1. 共生について、これまでなされた議論を理解する
2. 学問的関心と、自分の身の回りの課題とを結びつけて考えられるようになる
3. 社会的課題について論理的に思考し、自分の考えを文章で表現できるようになる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：オリエンテーション——「共生の政治」とは何か
 第2回：危機と政治（1）——平時の政治と危機の政治
 第3回：危機と政治（2）——イングランド内戦の混乱とホッブズの応答
 第4回：危機と政治（3）——ペストに立ち向かう政治
 第5回：コロナ禍の政治（1）——自由はどこまで制限しても良いのか
 第6回：コロナ禍の政治（2）——苦境にある人々をどのように救えるのか
 第7回：コロナ禍の政治（3）——差別にどう立ち向かうか
 第8回：まとめ（45分）、試験（またはレポート）

【授業外学修】

- （1）講義資料はTeamsにアップロードするので、授業前に読んでおくこと。
 - （2）各授業回で取り扱う内容について、授業後に復習し、疑問点をリアクションペーパーにまとめ整理すること。
 - （3）授業で紹介したテキストを各自読んで理解を深めること。
- ※各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- （1）毎回の授業後に書いてもらったリアクション・ペーパーに、翌週の授業で応答します。

- (2) 理解度の確認のため小テストを、第2回～第7回の間で随時実施し、次の授業でフィードバックを行います。
- (3) リアルタイム（同時双方向）授業では担当講師から質問を投げかけて、チャットで応答してもらうことを考えています。

履修上の注意/Notes

- (1) 高校の世界史、政治経済、倫理の知識があると役に立ちますが、未履修でも構いません。必要な前提知識は授業で紹介します。
- (2) 授業計画、評価方法は、受講者数や社会情勢に応じて変更の可能性があります。変更の際は受講生に周知します。

情報端末の活用

同時双方向授業、オンデマンド授業の視聴はTeams、小テストの受験やリアクションペーパー提出はFormsを使って実施する予定です。PCやタブレット、通信環境を有していることを前提に授業を進めます。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 3つの到達目標をすべて高いレベルで達成している
- A : 3つの到達目標を達成している
- B : 3つの到達目標のうち2つを達成している
- C : 3つの到達目標のうち1つを達成している
- D : どの到達目標も達成できていない

成績の評価方法/Grading

- 試験（またはレポート）（50点）
- 小テスト（20点）
- 平常点（リアクションペーパー、授業への貢献など）（30点）

教科書/Textbook(s)

備考	特定の教科書は用いません。授業で取り上げる著作の多くは図書館に所蔵されています。授業全体に関わる代表的な参考書を以下に挙げますが、これ以外については授業で紹介します。
----	---

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	現代政治理論 新版
著者名	川崎 修 編
出版社	有斐閣
出版年	2012
ISBN	9784641124547
教材費	2000

参考書2

書名	西洋政治思想史
著者名	宇野重規
出版社	有斐閣
出版年	2013

ISBN	9784641220010
教材費	

参考書3

書名	入門・医療倫理III：公衆衛生倫理
著者名	赤林 朗
出版社	勁草書房
出版年	2015
ISBN	9784326102501
教材費	3200

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8361	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	清山 玲				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

キャリア論入門：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス

授業の概要/Course Overview

女性のキャリアについて、とくに労働市場、企業の人事労務管理、公的な政策制度の観点から講義する。将来、自分、配偶者、あるいは職場の同僚や部下がキャリアを継続し活躍できるために、ワーク・ライフ・バランスと女性活躍を推進する人事労務管理やライフ・キャリアデザインの意義と方法について授業します。卒業後に、女性も男性もワーク・ライフ・バランスしながら幸せに社会で活躍するために必要な職業観とスキルの涵養を目的としています。

キーワード/Keyword(s)

ジェンダー、人事労務管理、コース別雇用管理、人事考課、ライフデザイン、キャリアデザイン、ダイバーシティ・マネジメント、ワーク・ライフ・バランス、女性活躍推進法、家計

到達目標/Learning Objectives

1. 女性のキャリアについて、とくに労働市場、企業の人事労務管理、公的な政策制度および勤労者の家計の観点から説明できる。
2. 将来、自分自身、配偶者（パートナー）がキャリアを継続し活躍するためのライフおよびキャリアデザインの意義と方法について理解し考察できる。
3. 将来、職場の同僚や部下のキャリア形成とワーク・ライフ・バランスの両立を理解し支援できることの重要性を理解し、具体的な支援の方法について説明できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：ガイダンス 雇用・家計・福祉国家と女性
将来の働き方、生き方に関するアンケート実施
- 第2回：変貌する企業の雇用戦略と女性－働き方格差と女性労働
アンケート結果に関するコメント
- 第3回：勤労者の家計から考える女性のキャリア
感想文
- 第4回：成長戦略で全員参加型社会へ－ダイバーシティ・マネジメントで変わる職場
感想文へのコメント
- 第5回：女性が活躍できる職場と探し方
調べ学習
- 第6回：ライフデザイン・キャリアデザイン－働き方の選択、生き方の選択と学生時代の課題
- 第7回：わたしのキャリアとワーク・ライフ・バランス（オンライン・パネルシンポジウム）（感想文）
- 第8回：試験（40分）、働きがいのある会社・職場の選び方：茨大生の就職活動紹介
- 【授業外学修】

- (1) キーワードについて、あらかじめ調べておくことスムーズに理解できます。
- (2) 新聞記事検索や内閣府・厚生労働省など政府サイトその他で、本テーマについてインターネット検索をかけ、情報を収集してみてください。
- (3) 授業外学修時間は、各回90分を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 2-8回目までに、計3回程度、授業の振り返り、感想文、調べ学習等、書く機会を設けます。これらに対するコメントやリプライを提出後の授業時間に行います。
- (2) 受講生が作成したミニレポートやアンケート結果などを紹介しながら、ライブおよびキャリアデザインをするうえでのポイントや留意点について、コメントします。
- (3) 授業中に、オンラインで質問等を行います。

履修上の注意/Notes

1. 配布資料は、MS-Teamsの各回の授業チャンネルにファイルをアップします。
2. 第7回のオンラインパネルシンポジウムは、ゲストのご都合により授業回が変更になることがあります。
この場合、教務情報ポータルから案内をメール配信します。
3. 遠隔授業でも、授業中にアンケートや感想・意見等を求めることがあります。
積極的に楽しく参加してください。
4. 質問はチャットを活用してください。時間外面談希望の場合には、授業終了時に口頭または投稿欄を通じて予約申請してくださいと、対応がスムーズです。
5. オフィスアワー：金曜日の昼休み（MS-Teams）
授業終了時もしくは投稿欄を通じて予約申請すると対応がスムーズです。

情報端末の活用

1. 授業の配付資料は、MS-Teamsの授業チームにファイルをアップします。
2. 試験や課題レポートについては、manabaやMS-Formsなど、その都度指示された方法で提出してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、十分に基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- A：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- B：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、概ね基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- C：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、最低限の基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- D：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、基本的な知識を修得できておらず、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できていない。

成績の評価方法/Grading

小テスト：60点（各30点×2回）/感想文：30点（20点×1回、10点×1回）/調べ学習：10点（10点×1回）

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	なぜ女性は仕事を辞めるのか 5155人の軌跡から読み解くライブラリー
著者名	岩田 大沢他
出版社	青弓社
出版年	2015
ISBN	9784787233905
教材費	1728

参考書2

書名	女性はなぜ活躍できないのか
著者名	大沢 真知子
出版社	東洋経済新報社
出版年	2015
ISBN	9784492223536
教材費	2160

参考書3

書名	仕事と家族
著者名	筒井 淳也
出版社	中公新書
出版年	2015
ISBN	4121023226
教材費	842

参考書4

書名	男女共同参画白書 令和元年版
著者名	
出版社	
出版年	2019
ISBN	
教材費	

参考書5

書名	論文「スーパーマーケット業界における働き方改革」
著者名	清山玲
出版社	
出版年	2019
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
----------	-----------------------

専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input checked="" type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8362	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	後藤 玲子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

経済政策論入門

授業の概要/Course Overview

本講義では、世界の貧困問題と戦後の先進国による開発援助政策に焦点を当てて、なぜ世界には豊かな国と貧しい国があるのか、どのような開発援助が望ましいのかについて検討します。

キーワード/Keyword(s)

絶対的貧困、仮説検証、パス図、貧困の罌、福祉の罌、開発援助、経済的自立

到達目標/Learning Objectives

1. 授業で扱う諸問題について、概要を説明できる。
2. 授業で扱う諸問題について、社会科学の方法論や経済学の考え方を使得、よりよく考えることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス、経済学・経済政策論とは何か

オンライン・クイズ、ミニツツペーパー／小テスト

第2回：世界の格差と貧困

振り返り、オンライン・クイズ、ミニツツペーパー／小テスト

第3回：なぜ世界には貧しい国と豊かな国があるのか①～仮説の構造化

振り返り、パス図作成、ミニツツペーパー／小テスト

第4回：なぜ世界には貧しい国と豊かな国があるのか②～資源の罌説等

振り返り、パス図作成、ミニツツペーパー／小テスト

第5回：なぜ世界には貧しい国と豊かな国があるのか③～制度説等

振り返り、パス図作成、ミニツツペーパー／小テスト

第6回：戦後の開発援助史

振り返り、パス図作成、ミニツツペーパー／小テスト

第7回：自立への道

振り返り、ミニツツペーパー／小テスト

第8回：講義のまとめ、小テスト（45分）、授業アンケート

振り返り

※受講者の人数や反応によって授業の方法や講義の順序を変えますので、シラバス通りには進まないことがあります。

【授業外学修について】各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とします。

1. 予習を特別に指示した場合を除いて、復習を重視して下さい。復習で大切なのは、授業で学んだ知識を応用する力を身につけることです。そのために、まずは講義資料とノートを読み直し、ポイントを再確認して下さい。
2. 次に、本授業で学んだことを他の授業の課題や時事問題などでどのように活かせるか考えてみてください。関係づけ能力を高めているう

ちに知識が知恵やスキルに変換されていくことが期待されます。

3. 参考文献を時間をかけて読むことも有意義です。授業では紹介する文献のうち、興味を持った文献を手にとって読んでみてください。自分の考え方に良い影響を与える本に出会うことができれば、その出会いは生涯の財産になると思います。

履修上の注意/Notes

1. 「経済政策論 I」との重複履修はできません。注意して下さい。
2. Teamsでのリアルタイム配信によるオンライン授業を行います。教務情報ポータル、Teams、ウェブサイトアクセスできる通信環境を整えてください。
3. 各回の講義資料は、MS Teamsの「ファイル」>「クラスの資料」に事前配布する予定です。
4. 原則として毎回、振り返りと小テストを実施します。
5. 授業中に実施する小テストや授業内アンケートによって出欠を把握します。

情報端末の活用

MS Teamsでのリアルタイム配信によるオンライン授業を行います。教務情報ポータル、Teams、ウェブサイトアクセスできる通信環境を整えてください。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 授業で扱った内容に関する基本的な知識と考え方を十分に修得している。
- A : 授業で扱った内容に関する基本的な知識と考え方を修得している。
- B : 授業で扱った内容に関する基本的な知識と考え方を概ね修得している。
- C : 授業で扱った内容に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得している。
- D : 授業で扱った内容に関する基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

小テスト：100点。重みづけ方法については、初回の授業で説明します。

教科書/Textbook(s)

備考	MS Teamsを通じて配布予定の講義資料を使用します。
----	------------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	FACTFULNESS（ファクトフルネス）：10の思い込みを乗り越え、データから真実を読み解く習慣
著者名	ハンス・ロスリング 著・文・その他
出版社	日経 B P
出版年	2019
ISBN	9784822289607
教材費	1800

参考書2

書名	銃・病原菌・鉄
著者名	ジャレド・ダイヤモンド 著
出版社	草思社

出版年	2012
ISBN	978-4794218780
教材費	900

参考書3

書名	国家はなぜ衰退するのか：権力・繁栄・貧困の起源
著者名	ダロン・アセモグル, ジェイムズ・A・ロビンソン 著
出版社	早川書房
出版年	2016
ISBN	978-4150504649
教材費	1000

参考書4

書名	ルワンダ中央銀行総裁日記
著者名	服部正也 著
出版社	中央公論新社
出版年	
ISBN	978-4121902900
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8363	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	寺地 幹人				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

社会学にしたしむ

授業の概要/Course Overview

社会学初学者が、社会学によりしたしむきっかけを提供する。比較的なじみやすい話題（具体的には、メディア、場所、移動、若者文化）を素材とし、社会学ないし社会的メディア論・社会的若者論の観点からそれらを考察することを通じた、社会学についての理解と社会的視点の獲得が、受講生に期待される。

キーワード/Keyword(s)

社会学、現代社会、メディア、情報、場所、空間、若者

到達目標/Learning Objectives

- (1)メディアや場所に関連する話題から、社会学の基本的知識を獲得する。
- (2)身近な現象を考察する際の社会的視点を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

※授業第1回に必ず出席すること。（変更がある場合）授業計画の変更、教科書の購入方法や次回以降の予習方法等、重要事項について説明する。

※必須ではないが、3Qで開講する「社会学にふれる」との連続受講が、内容の継続および教科書購入の観点から望ましい。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会学についての基本的説明
- 第3回 社会学にしたしむ(1)：アイドル
- 第4回 社会学にしたしむ(2)：ファッションメディア
- 第5回 社会学にしたしむ(3)：ロックフェス
- 第6回 社会学にしたしむ(4)：若者の地方移住
- 第7回 まとめむけて
- 第8回 議論・質疑応答

<授業外学修>

- ・事前にアップロードするシートをプリントアウトし、指定箇所を記入済みのうえ、授業時に用意すること（詳細は、ガイダンス時に説明するので、その説明を踏まえること）。
- ・シートを記入するために、テキストの該当箇所を事前に読むことが必要となる。
- ・テキスト内で理解が難しい箇所がある場合には、図書館などで参考となる文献を手にとるなど、工夫をすること。

<アクティブ・ラーニング>

受講生どうしの意見交換

<授業外学修>

各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

履修上の注意/Notes

- 授業第1回に必ず出席すること。第2回以降の履修を認める場合もあるが、毎回の課題の積み重ねで評価する授業なので、その点で不利になることに注意。
- 現代社会および社会学のトレンドは日々刻々と変化している。この授業には最新の社会状況も反映されるため、詳細な授業概要・授業計画については授業第1回にて説明する（上記の授業計画は2021年1月時点のものであり、開講時に修正する可能性がある）。また、受講者の理解・関心等の理由により、授業計画は変更されることがある。

予習：次回までに教科書の指定された範囲を読み、シートを作成してくる。

復習：次回の予習を優先してほしいが、可能であれば復習をするのが望ましい。

遅刻：各回までの課題をもとにして授業を展開するので、遅刻し途中で入室すると、その日の授業への参加が困難となる。やむを得ない事情で遅れる場合には、授業第1回で指示する方法により、連絡を入れること。

情報端末の活用

- ・ Teamsチームおよびmanabaの本授業のページを、1日1回程度以上確認すること。
- ・ 各回授業（第1回を除く）の前に、PDF（授業に持参するシート）をプリントアウトすることが必要となる場合がある。プリンターを用意するなどの準備をしておくことが望ましい。

成績評価基準/Evaluation criteria

「成績の評価方法」に記載の「評価ポイント」の①～③内容を、すべて満たして任意記述欄なども不足なく記載の場合はA+、ほぼ満たして任意記述欄なども不足なく記載の場合はA、不足している部分があるが5分の4程度満たされている場合はB、不足している部分があるが3分の2程度満たされている場合はC、それ以外はD。

成績の評価方法/Grading

第2回以降の各回の授業にかかわる課題（100%）

評価ポイント：①教科書の理解、②予習時の考察、③授業時の考察。①②③を概ね同比率で評価する。①で求めるのは、理解の正確さと要約の精度。②③で求めるのは、①を活かした考察になっているか、「感想」ではなく「考察」となっているか、という点など。

- 期末試験を実施せず、期末レポートも出題しない予定。

- 2回分までは欠席が認められるが（3回以上は単位認定不可）、課題の点数を足し合わせて評価するので、欠席があると大きく不利になる。すなわち、欠席が1～2回だとしても、その影響が大きいので点数が足りずに不合格となる場合もある。よって、極力欠席しないことが重要となる。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	場所から問う若者文化
著者名	木村絵里子 ほか編著
出版社	晃洋書房
出版年	2021
ISBN	9784771033719

教材費	2400
-----	------

教科書2

書名	ポスト情報メディア論 = post information media studies
著者名	岡本健, 松井広志 編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2018
ISBN	9784779512858
教材費	2400

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	社会システム (上)
著者名	
出版社	勁草書房
出版年	2020
ISBN	9784326603244
教材費	

参考書2

書名	社会システム (下)
著者名	
出版社	勁草書房
出版年	2020
ISBN	9784326603251
教材費	

参考書3

書名	趣味の社会学 = Sociology of Taste : 文化・階層・ジェンダー
著者名	片岡栄美
出版社	青弓社
出版年	2019
ISBN	9784787234568
教材費	

参考書4

書名	メディア・コンテンツ・スタディーズ : 分析・考察・創造のための方法論
著者名	岡本健, 田島悠来編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2020
ISBN	9784779512841

教材費	
-----	--

参考書5

書名	友人の社会史：1980-2010年代 私たちにとって「親友」とはどのような存在だったのか
著者名	石田 光規 著・文・その他
出版社	晃洋書房
出版年	2021
ISBN	9784771034327
教材費	

参考書6

書名	社会学する原動力 = TOWARD SOCIOLOGIES
著者名	田中慶子, 中根光敏
出版社	松籟社
出版年	2019
ISBN	9784879843722
教材費	

参考書7

書名	現代日本人の意識構造 第9版
著者名	NHK放送文化研究所編
出版社	NHK出版
出版年	2020
ISBN	9784140912607
教材費	

参考書8

書名	暮らしの視点からの地方再生：地域と生活の社会学
著者名	牧野厚史, 松本貴文編
出版社	九州大学出版会
出版年	2015
ISBN	9784798501581.0
教材費	

参考書9

書名	認識と反省性：ピエール・ブルデューの社会学的思考
著者名	磯直樹著
出版社	法政大学出版局
出版年	2020
ISBN	9784588151057
教材費	

参考書10

書名	ポストアーバン都市・地域論
著者名	Hans Westlund 編
出版社	
出版年	2019
ISBN	9784863102170
教材費	

参考書11

書名	現代アニメ「超」講義
著者名	石岡良治
出版社	Planets/第二次惑星開発委員会
出版年	2019
ISBN	4905325137.0
教材費	

参考書12

書名	社会学で描く現代社会のスケッチ
著者名	友枝敏雄, 山田真茂留, 平野孝典 編著
出版社	みらい
出版年	2019
ISBN	9784860154851.0
教材費	

参考書13

書名	「アイドル」のメディア史：『明星』とヤングの70年代
著者名	田島悠来
出版社	森話社
出版年	2017
ISBN	9784864051149.0
教材費	

参考書14

書名	『平凡』の時代：1950年代の大衆娯楽雑誌と若者たち
著者名	阪本博志
出版社	昭和堂
出版年	2008
ISBN	9784812208229.0
教材費	

参考書15

書名	「コト消費」の嘘
----	----------

著者名	川上徹也
出版社	KADOKAWA
出版年	2017
ISBN	9784040822082.0
教材費	

参考書16

書名	メディア論の地層：1970大阪万博から2020東京五輪まで
著者名	飯田 豊 著・文・その他
出版社	勁草書房
出版年	2020
ISBN	9784326654253.0
教材費	

参考書17

書名	日本メディア史年表
著者名	土屋礼子編
出版社	吉川弘文館
出版年	2018
ISBN	9784642014779.0
教材費	

参考書18

書名	グローバル現代社会論 = Studies on Contemporary Global Society
著者名	山田真茂留 編著
出版社	文真堂
出版年	2018
ISBN	9784830950056.0
教材費	

参考書19

書名	ジェントリフィケーション
著者名	藤塚吉浩著
出版社	古今書院
出版年	2017
ISBN	9784772242011.0
教材費	

参考書20

書名	東京β = TOKYO BETA : 更新され続ける都市の物語
著者名	速水健朗 著
出版社	筑摩書房

出版年	2016
ISBN	9784480864437.0
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	△
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8364	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

仕事を考える

授業の概要/Course Overview

社会や職業について視野を広め自分の将来と大学時代の在り方について考える。業界研究や企業研究を通じて雇用社会を知り、自分のやりたい仕事を見つけ、今後の職業選択や大学での勉学の在り方、さらに地方創生について考えていくことをねらいとする。

キーワード/Keyword(s)

職業観, インターンシップ, キャリア形成, 社会人基礎力, 地域協創人材

到達目標/Learning Objectives

授業で取り上げた職業や業界の理解をとおして社会の動向に興味関心を持つとともに、働くイメージを持ってそれに向かって必要なことを理解し、専門科目の学修につなぐことができる。また、地域の課題を知り、働くことの社会的役割を自覚することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入

授業の概要、進め方、スケジュールの説明、大学生がキャリアを考えることの意味

第2回：「働くルール」を知る、雇用の多様化、働く意義、正社員/非正社員

茨城県で働くことの意義を考える、グローバルに活躍する意義を考える

第3回：キャリア理論、自己分析、こだわる労働条件を考える

大学生活での目標や行動計画、学びの動機づけ、キャリアプランニング

第4回：多様な職業について知る①（勤務地限定のない仕事）

業界研究や企業研究を通じて多様な職業について知る

第5回：多様な職業について知る②（地元就職を考える）

業界研究や企業研究を通じて多様な職業について知る

第6回：社会の現状とこれからの就職を考える

自らのキャリア形成を計画する。進学、就職活動を考える

第7回：大学での学びを考える

将来の仕事と大学での学びを考える

第8回：まとめ、総合レポート

【授業外学修】

(1) 事前に職業や地域社会について調べておくことが求められます

(2) 多様な職業について業界や企業を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。

(3) キャリアを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブラーニング】

- (1) 他学生の価値観に触れ、自己分析に役立てます。
- (2) 各回レポートを通じて自分の考えを整理します。

履修上の注意/Notes

※重要：教務情報ポータルシステム「講義資料」から、Web授業Teamsを接続するための「コード」を確認してください。また、授業開始の直前に当日資料を追加します。

※パワーポイント資料及びWeb授業Teamsを利用して双方向の授業を実施します。授業内アンケートやレポートの提示を支持します。

情報端末の活用

「履修上の注意点」を参照してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 仕事と社会の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 仕事と社会の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

成績評価は平常評価（授業への積極的参加及び各回レポート等）70%、期末総合レポート30%を合算して総合評価します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。 適宜資料を配布する。
----	--------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する担当教員が業界研究や企業研究を通じて講義を行います。

実践的教育から構成される授業科目

実践的教育としてキャリアを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB8365	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	野中 美津枝				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

消費者の自立

授業の概要/Course Overview

消費者保護から消費者の自立へと消費者法が転換している今日、消費者問題、契約についての知識と対処法を学び、消費生活における問題解決能力を養う。消費者問題の事例から、消費者行動の問題点を認識し、消費者の自立の必要性と消費者法の現実を学ぶ。そして、消費行動における批判的思考力と課題解決能力を養うため、環境問題や消費者行動に関するテーマでディベートをグループ対抗で実施する。

キーワード/Keyword(s)

消費者問題、消費者法、消費者契約、金銭管理、消費者市民社会、消費者行動

到達目標/Learning Objectives

- 1) 現代の消費者問題から、金銭管理の必要性を自覚し、契約と消費者法を理解して、対処法を考えることができる。
- 2) ディベートでは、グループで消費者問題を分析し、立論に対する資料を作成して理論的に表現できる。
- 3) 「消費者の自立」について自分の考えを持ち、消費者行動を説明できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：ガイダンス、消費者問題

（クイズ形式でグループディスカッション）消費者問題と被害状況について、グループで考える。

第2回：契約の意味、未成年の契約

（ケーススタディ、ライティング・ディスカッション）消費者問題の事例について、どう対処するか考え話し合う。

第3回：クレジット契約、消費者信用

（ケーススタディ、ライティング・ディスカッション）消費者問題の事例について、どう対処するか考え話し合う。

第4回：悪質商法、特定商取引法

（ケーススタディ、ライティング・ディスカッション）消費者問題の事例について、どう対処するか考え話し合う。

第5回：消費者市民社会と消費者行動

（ケーススタディ、ライティング・ディスカッション）消費者問題の事例について、原因と解決策を考え話し合う。

第6回：ディベート準備

（PBL、グループディスカッション）グループのテーマについて、立論を検討し、資料準備をする。

第7回：環境問題、消費者行動に関するディベート

（ディベート）環境問題や消費者行動に関するテーマでディベートをグループ対抗で実施する。

第8回：環境問題、消費者行動に関するディベート

（ディベート）環境問題や消費者行動に関するテーマでディベートをグループ対抗で実施する。

【授業外学修】

- (1) 授業資料とワーク課題をmanabaにアップするので、必ず授業前にダウンロードして授業に備える。
 - (2) 授業後には、授業を復習してワーク課題を記入して、manabaのレポートに提出をする。
 - (3) 第1回～第5回は、消費者問題の事例と消費者法について復習し、問題解決策を確認して次回の授業に生かす。(4) 第6回～第8回のディベートでは、グループの消費者テーマを分析して、立論のための資料を作成する。
 - (5) 「消費者の自立」について、最終の個人課題レポートに取り組む。
- 各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

履修上の注意/Notes

原則として遅刻は認めない。

オンライン授業のため、Formsで出席確認をするが、授業後のワーク課題を未提出の場合は欠席扱いとする。

グループ討論、ワークショップには積極的に参加し、自分の意見を表現するスキルを身につけるようにする。

オフィスアワー：木曜日2限

情報端末の活用

- ・オンライン授業は、Teamsで行う。授業資料の事前配信、ワーク課題の提出はmanabaを通じて行う。
- ・第6～第8回は、グループで担当した消費者テーマの分析、ディベートの立論のための資料をP.P.で作成する。
- ・ディベートは、遠隔授業のため、グループのPCを使って戦う。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B：到達目標の3点についておおむねレベル以上で達成されている。
- C：到達目標の3点について最低限のレベル以上で達成されている。
- D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

授業時に毎回提出するワーク課題の内容およびグループワークへの貢献度40点、グループでのプレゼンテーション20点、最終課題レポート（グループ課題、個人課題）40点で成績を評価する。

期末試験は行わない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いず、資料プリントを配布する。
----	----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	新しい消費者教育－これからの消費生活を考える－
著者名	日本消費者教育学会関東支部監修
出版社	慶應義塾大学出版会
出版年	
ISBN	978-4-7664-2633
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8366	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	井坂 寛				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

大学生と消費生活

授業の概要/Course Overview

大学生活とその後の社会生活において、安全で安心した消費生活を送るための基本的な知識について、ゲストスピーカーをお招きしながら概観します。「自立」した消費者になるために、消費者トラブルと関連する法律、ライフプランと保険、食育と栄養を中心に学習していきます。親元を離れて1人暮らしを始めた学生さんはもちろん、すべての学生さんに必要な消費生活のノウハウを伝授し、「消費者力」を養成していきます。

キーワード/Keyword(s)

消費生活、消費者力、消費者トラブルへ、契約、ライフプラン、お金との付き合い方、セーフティネット、地産地消、食育、消費者の権利と義務

到達目標/Learning Objectives

- (1) 消費者トラブルを回避し解決するための契約についての基礎知識を身につける。
- (2) ライフプランを貯蓄や保険の点から設計するための基礎知識を身につける。
- (3) 安全で安心な食生活のための栄養などの基礎知識を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】消費生活と消費者力、ガイダンス
【授業外学修】授業の内容に基づき、自分の消費生活の課題について考えておく。
- 第2回：【授業内容】消費者トラブルと法律（1）消費者トラブルと対処法（消費生活センター相談員）
【授業外学修】授業内容に基づき、自分が関連した消費者トラブルにつき考えておく。
- 第3回：【授業内容】消費者トラブルと法律（2）契約の基本（消費生活センター相談員）
【授業外学修】小レポートをまとめて提出する。
- 第4回：【授業内容】ライフプランと保険（1）ライフプランと三大資金（ファイナンシャルプランナー）
【授業外学修】授業内容に基づき、自分の金銭面でのライフプランを立ててみる。。
- 第5回：【授業内容】ライフプランと保険（2）貯蓄・保険・セーフティネット（ファイナンシャルプランナー）
【授業外学修】小レポートをまとめて提出する。
- 第6回：【授業内容】食育（1）若者の食生活（管理栄養士）
【授業外学修】授業内容に基づき、自分の食生活診断をしてみる。
- 第7回：【授業内容】食育（2）和食と地産地消（農業協同組合・生活協同組合職員）
【授業外学修】小レポートをまとめて提出する。
- 第8回：【授業内容】消費者の権利と義務、まとめ
【授業外学修】最終レポートをまとめて提出する。

【アクティブ・ラーニング】

第2回～第7回では、グループなどによるディスカッションを行う。

履修上の注意/Notes

- (1) 自分の消費生活を改善するという実践的な目標意識をもって講義に臨んでください。トラブル、金銭管理、食事の問題は他人事ではありません。
- (2) ディスカッションでは積極的に発言してください（オンラインの場合はありません）。他者の考えもきちんと受け止めるようにしてください。
- (3) 遅刻すると、その回の授業全体を理解するのが難しくなります。開始時間は守るようにしてください

情報端末の活用

対面授業・オンライン授業いずれの場合も、オンラインで小レポートなどを提出してもらいます。したがってPCが必要となります。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 小レポートと最終レポートをきわめてすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも積極的に参加している。
- A : 小レポートと最終レポートをすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも積極的に参加している。
- B : 小レポートと最終レポートをすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも参加している。
- C : 小レポートと最終レポートを提出し、授業中のディスカッションなどにも参加している。
- D : 小レポートや最終レポートを提出していない。

成績の評価方法/Grading

最終レポート：60点/小レポート：20点/ディスカッションなどへの参加：20点
ただしオンラインの場合、ディスカッションの配点はなくなるかもしれません。

教科書/Textbook(s)

備考 とくにありません。資料をプリントして配布します。講義期間中はきちんと保管しておいてください。

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

法律、保険、食育など、消費生活に関する専門的知識を有する者が、オムニバス形式により、その経験を活かして、「消費者力」を養成する。
--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB8368	ナンバリング	KB-GHS-112-GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	胡 安琪				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

Intercultural Psychology B

授業の概要/Course Overview

This class would include intercultural adaptation lectures. Students would also experience cross-culture while imagining life in the international community. We will make international comparisons to deepen our understanding of cultural differences. Lecture include psychological perspectives on the differences between Japanese society, American society, and Chinese society.

キーワード/Keyword(s)

Psychology, cross-culture, cultural difference, foreign cultures, social psychology

到達目標/Learning Objectives

The purpose of this course is to know how it is like to adapt in a cross-cultural society. Goal of this course is to learn the basic knowledge of psychology and adapt it to real life. Also, we aim to improve English skill by conducting lectures in English.

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction (Explaining the course schedule, the contents of this course, and evaluation methods) and review from previous quarter
2. Cross-cultural adaptation pattern and process
3. Why culture shock occurs
4. How to overcome culture shock
5. Reverse culture shock
6. Why is it difficult for Japanese to globalize? (with case study)
7. Why is it difficult for Japanese to globalize? (with case study)
8. Summary

[Homework]

Review the lecture materials after each class. Students will be asked to write a short report or take a quiz after each session as a homework.

履修上の注意/Notes

Basically, this course will be conducted in English. This course partially include English version of “心理学でみる異文化適応”.
 ※Schedule of syllabus might differ depending on students interest and lecture progress.

情報端末の活用

PC等活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : Students have fully mastered and applied the outline of each specialized field of psychology.
A : Students have mastered and applied the outline of each specialized field of psychology.
B : Students have generally mastered and applied the outline of each specialized field of psychology.
C : Students have minimal acquisition of each specialized field of psychology.
D : Students have not mastered or applied the outline of each specialized field of psychology.

成績の評価方法/Grading

Students will be evaluated comprehensively from the following viewpoints: Short report or quiz 40 %, Final Exam 60 %.

教科書/Textbook(s)

備考	特になし。授業内で関連資料を配付する
----	--------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

English

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8371	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

キャリアデザイン論

授業の概要/Course Overview

何のために働くのか、職業という働き方を知り、自らのキャリアをデザインして、自分の進路を歩むための方法を学びます。自分の将来への適切な展望と職業意識を持てるように学びます。また社会人になった後のキャリア形成の進め方を学びます。

キーワード/Keyword(s)

キャリア形成、職業観、職業の適性

到達目標/Learning Objectives

自分の将来への展望、キャリア形成を考える方法を身に付けること。
自分の考えをまとめ、示すことができること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：何のために働くのか

シラバスを用いたガイダンスと導入、働く目的と意味、働くことに意義を深く掘り下げる、
生き方と働き方のつながり、学生時代にしなければならないこと

第2回：職業という働き方

労働・仕事・職業の現代的意味、求められる4つの能力

第3回：キャリアデザイン①

多様な働き方、正社員-非正社員、派遣労働、契約社員、ワークライフバランス、職業能力とキャリア形成
キャリアについて考える、スーパー（D.E.Super）の「職業適合性」

第4回：キャリアデザイン②

ホランド（J.L.Holland）の六角形「V P I 職業興味検査」

第5回：キャリアデザイン③

シャイン（E.H.Schein）の「キャリア・アンカー」

第6回：キャリアデザイン④

クランボルツ（J.D.Krumboltz）の「計画された偶発性理論」

第7回：社会人になった後のキャリア形成

入社直後のキャリア危機（リアリティショック）、入社3年以内離職率を考える、自立的職業人に向けて

第8回：まとめ、総合レポート

【授業外学修】

（1）いくつかのキャリア論を理解し、自分の将来への適切な展望を考えて行動することを求めます。

(2) 多様な職業について業界や企業を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。

(3) インターネット等の現状を知り、必要な事を調べ、検討します。

各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブラーニング】

(1) 他学生の価値観に触れ、自己分析に役立てます。

(2) ミニレポートを通じて自分の考えを整理します。

履修上の注意/Notes

※重要：教務情報ポータルシステム「講義資料」から、Web授業Teamsを接続するための「コード」を確認してください。また、授業開始の直前に当日資料を追加します。

※パワーポイント資料及びWeb授業Teamsを利用して双方向の授業を実施します。授業内アンケートやレポートの提示を支持します。

情報端末の活用

「履修上の注意点」を参照してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：キャリアデザインの基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：キャリアデザインの基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：キャリアデザインの基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：キャリアデザインの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：キャリアデザインの基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

平常評価70%（授業への積極的参加及び各回レポート等）、期末総合レポート30%を合算して総合評価します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しません。 適宜資料を配布します。
----	----------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する担当教員が業界研究や企業研究を通じて講義を行います。

実践的教育から構成される授業科目

実践的教育としてキャリアを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等
--------	-------

時間割コード	KB8372	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	Chienwei YEH				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

人文地理学の考え方

授業の概要/Course Overview

私たちが住んでいる場所は、どのように形成され発展してきたのだろうか。人間は、自然や環境と向き合いながらそれぞれの土地で独自の文化を築き、住みやすい場所を作り上げてきた。グローバルに眺めてみると、文化的にも空間的にも多様な地域が形成されていることがわかる。地域の多様性について考えると同時に、いかに多様性が生まれたのか、そして地域の格差がいかに生まれたのかを考える。

キーワード/Keyword(s)

人文地理学、風水、都市、方言、食文化、地域格差、移民

到達目標/Learning Objectives

人文地理学の基本的な考え方を理解できる。
人間がいかに自然や環境と向き合って、住みやすい場所を選び形成したかを理解できる。
人間の移動（移民）によって、いかに地域が形成されたかを認識できる。
地域によって文化や考え方が異なること、またその背景にある人文地理学的事象について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス～人間はどこに住むのか
- 第2回 風水と都市～地理学の歴史と風水・都市形成の関係について学ぶ
- 第3回 地域格差はなぜ生まれたか？～なぜ富める国と貧しい国があるのかを考える
- 第4回 食と方言から地理を考える～ご当地グルメと方言はどのように生まれたのか
- 第5回 境界・国境から地理を考える～境界や国境をめぐる諸問題を解明する
- 第6回 移民から地理を考える～移民や難民は、なぜ現在も増加し続けているのか
- 第7回 多文化社会と都市～中華街にみる多文化共生
- 第8回 まとめ

【授業外学修】

- (1) 講義内容は事前にTeamsにアップロードするので、ダウンロードして授業の準備をし、講義終了後にも地図や配布資料と共に復習すること。
- (2) 授業において出された課題について、次週までに必ず学修し提出すること。
- (3) 授業時間中に見た資料について、授業終了後に内容を復習し、自分の考えをまとめること。
- (4) 各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 授業内でアンケートなどを通じて意見を発表し、意見交換を行う。
- (2) 毎回の授業終了時には、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

- 1)高等地図帳（高校などで使用したもの）を用意してください。
- 2)正当な理由がない限り、遅刻および早退30分以上は欠席とみなします。
- 3)オフィスアワー：火曜日昼休み（メールあるいはTeamsで連絡してください）

情報端末の活用

- ・講義資料はTeamsに事前にアップロードするので、ダウンロードして授業に出席すること
- ・課題レポートについては、Teamsあるいは教務情報ポータルシステムを通じて提出すること

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：人文地理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらに社会との関連を十分に説明できている。
- A：人文地理学の基本的な知識と考え方を修得し、さらに社会との関連を説明できている。
- B：人文地理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらに社会との関連についてある程度説明できている。
- C：人文地理学の基本的な知識と考え方について最低限修得し、さらに社会との関連について最低限説明できている。
- D：人文地理学の基本的な知識と考え方について修得できておらず、さらに社会との関連についての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業中に課す課題／レポートなど（30点）および期末レポート（70点）により評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書はとくに指定しない
----	--------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	地理学概論
著者名	上野和彦, 椿真智子, 中村康子編著
出版社	朝倉書店
出版年	2015
ISBN	9784254168198
教材費	3630

参考書2

書名	はじめて地理学：身近なところから地球の「なぜ」を解き明かす
著者名	富田 啓介 著
出版社	ベレ出版
出版年	2017
ISBN	9784860645298
教材費	1870

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8373	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	高橋 大輔				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

社会と家族法Ⅰ～家族法入門

授業の概要/Course Overview

現代の家族がおかれている状況と家族法について講義する。具体的には、現在の家族問題について基本的にライフサイクルを通して取り上げ、法律がそれらの問題に対してどのように対処しているのかを講義していく。

キーワード/Keyword(s)

家族法、法学、結婚、妊娠出産、子ども虐待、離婚、高齢者介護。

到達目標/Learning Objectives

①法学の基礎的なことがらを理解できる。
 ②家族法の基礎的なことがらを理解できる。
 ③家族に関する問題について、法的に考察できるようになることを目指す。
 ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、②専門分野の学力、③課題解決能力・コミュニケーション力

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】ガイダンス実施。導入「家族法とは」。

【授業外学習】シラバスを確認しておくこと。

第2回：【授業内容】恋愛と結婚「結婚の条件」。

【授業外学習】テキストの該当ページを読んでおくこと（該当ページについては、前の時間に伝える。まだ出版されていないため教員もページ数までは、現段階では把握できていないため。）。

第3回：【授業内容】妊娠出産「誰が父親か?」。小テスト。

【授業外学習】テキストの該当ページを読んでおくこと（該当ページについては、前の時間に伝える。まだ出版されていないため教員もページ数までは、現段階では把握できていないため。）。小テストを行うので、第1回目、第2回目の内容を復習しておくこと。

第4回：【授業内容】子ども虐待。小テストの解説。

【授業外学習】テキストの該当ページを読んでおくこと（該当ページについては、前の時間に伝える。まだ出版されていないため教員もページ数までは、現段階では把握できていないため。）。第3回目に実施する小テストの解説を行うので、各自は小テストについて復習しておくこと。

第5回：【授業内容】離婚①「夫婦喧嘩→別居→離婚?」。小テスト。

【授業外学習】テキストの該当ページを読んでおくこと（該当ページについては、前の時間に伝える。まだ出版されていないため教員もページ数までは、現段階では把握できていないため。）。小テストを行うので第3回目、第4回目の内容を復習しておくこと。

第6回：【授業内容】離婚②「離婚した場合の子どもとお金」。小テストの解説。

【授業外学習】テキストの該当ページを読んでおくこと（該当ページについては、前の時間に伝える。まだ出版されていないため教員もページ数までは、現段階では把握できていないため。）。第5回目を実施する小テストの解説を行うので、各自は小テストの復習しておくこと。

第7回：【授業内容】高齢者介護①「誰が介護するのか？誰がお金を出すのか？」。小テスト。

【授業外学習】テキストの該当ページを読んでおくこと（該当ページについては、前の時間に伝える。まだ出版されていないため教員もページ数までは、現段階では把握できていないため。）。小テストを行うので、第5回目、第6回目の内容を確認しておくこと。

第8回：【授業内容】高齢者介護②「介護と法的責任」（45分）。小テストの解説。定期試験（45分）。

【授業外学習】テキストの該当ページを読んでおくこと（該当ページについては、前の時間に伝える。まだ出版されていないため教員もページ数までは、現段階では把握できていないため。）。第7回目に行う小テストの解説を行うので、各自は小テストについて復習しておくこと。定期試験を行うので、授業の内容を教科書、配布資料、ノート等を利用して復習しておくこと。

* 各回の【授業外学修】については、予習復習を含め、概ね4時間程度を目安とする。

* 第3回目、第5回目、第7回目に小テストを行う。

履修上の注意/Notes

遅刻については、特にマイナス評価の対象とはしないけれども、他の受講生の妨害になり得るため時間が厳守されることを期待する。復習を中心に学習してほしい。その際、単なる法律知識の暗記で終わることなく、法的に考えながら、学んで欲しい。

情報端末の活用

本講義はオンラインで行うため、情報端末があることが前提となる。また、講義資料の配布や小テストなどもオンラインを通じて行う。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標について高いレベル以上で達成されている。
- B：到達目標についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C：到達目標について最低限のレベル以上において達成されている。
- D：到達目標の2点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

8回目の定期試験（100%）による。知識に関して60%（評価の観点には到達目標の①②）、法的思考について40%（評価の観点には到達目標の③）。ただし、定期試験の解答に当たっては、知識を問う問題であっても法的思考が必要になるものもあり、また法的思考を問う問題であっても知識が必要になるものもあるので注意すること。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	よくわかる家族法（仮題）
著者名	
出版社	
出版年	2021
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8374	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	土屋 和子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

福祉と法（子ども、若者）

授業の概要/Course Overview

この授業では、自立への一歩を踏み出したみなさんのこれからの人生が、豊かで幸せなものになるために必要な社会福祉の法制度について学びます。社会福祉は、わたしたちの日常生活を支える大切な法制度ですが、その内容や仕組みは複雑で理解が難しい法制度でもあります。そこで、今後遭遇するかもしれない生活問題にはどのようなものがあるのかを理解してもらい、それらを回避するために必要な知識や適切な行動は何かについて、①青年期のライフイベントと家計管理、②子育てと仕事の両立を支える法制度・サービス、③子どもの貧困・格差の問題をテーマに、社会福祉制度の内容を概観し、基本的な法律知識を身につけます。

キーワード/Keyword(s)

福祉、法、人権、ライフプラン、家計管理、教育費、子育て支援、保育所、子どもの貧困、

到達目標/Learning Objectives

1. 将来の自立生活を豊かなものにするために、ライフプランが果たす役割について理解することができる。
2. 日常生活で遭遇するかもしれない様々な困難（＝生活問題）について認識した上で、それらの生活問題に対応した社会福祉制度について説明することができる。
3. 社会福祉に関する基本的な法律知識を理解することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス、ライフイベントを考えよう
 第2回 自立への一歩を踏み出そう ～ライフプランを作成する～
 第3回 ライフイベントと家計管理
 第4回 35歳のあなたの生活と社会福祉
 第5回 日常生活で遭遇するリスクと社会保障・社会福祉
 第6回 保育所と幼稚園の違いは何だろう
 第7回 子育て支援サービスを利用する
 第8回 子どもの生活を支える社会福祉制度

【授業外学修】

- （1）講義資料はmanabaにアップします。各自で熟読してください。
- （2）授業で取り扱った内容について、わからない用語などは、各自で調べて確認してください。
- （3）日頃から授業で取り上げるテーマについて、新聞や雑誌、テレビ、インターネット等を活用して幅広く情報を収集してください。
- （4）第1回～第4回は、課題レポートを提出してもらいます。
- （5）第5回～第8回は、授業時間内に小テストを行います。レジュメ等の配布資料を用いて予習と復習をしてください。

(6) 各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第1～第4回については、課題レポートに取り組んでもらい、次の授業で発表します。
- (2) 毎回の授業終了時には、ミニッツペーパーによる理解度の確認を行います。

履修上の注意/Notes

情報端末の活用

- ・ 授業内でPCを使用します。
- ・ 講義資料は、manabaで事前配信する予定です。
- ・ 小テストは、Formsで実施する予定です。
- ・ 課題レポートは、manabaを通じて提出してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点について、高いレベルで達成されている。
- A : 到達目標の3点について、十分なレベル以上で達成されている。
- B : 到達目標の3点について、必要なレベル以上で達成されている。
- C : 到達目標の3点のうち2点について必要なレベル以上で達成されているが、1点について必要なレベルに達していない。
- D : 到達目標の3点のうち2点以上について、必要なレベルに達していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト：60点（各15点×4回）／課題レポート：40点（各10点×4回）

教科書/Textbook(s)

備考	特になし。授業内で関連資料を配付します。
----	----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	子ども家庭福祉 第2版
著者名	木村容子・有村大士編
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	医療福祉総合ガイドブック
著者名	NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会編

出版社	医学書院
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	社会保障入門 2021
著者名	社会保障入門編集委員会
出版社	中央法規出版
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8381	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	伊丹 一浩				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

フランスの経済と農業—歴史と現状

授業の概要/Course Overview

1.フランスの経済と農業の歴史的背景に関する基本事項の解説。2.グローバル化の進展の中でのフランス農業に関する基本事項の解説。3.グローバル化の進展の中でのフランスにおける食のあり方に関する基本事項の解説。

キーワード/Keyword(s)

フランス、ヨーロッパ、EU、経済、農業、歴史、現状、食文化

到達目標/Learning Objectives

1.フランスの経済と農業の歴史的背景について理解する。2.グローバル化の進展の関連でフランス農業について理解する。3.グローバル化の進展の関連でフランスの食のあり方について理解する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1.シラバスを用いたガイダンスと導入：フランスの概要と特徴
- 2.フランスの経済と農業の歴史的背景
- 3.ヨーロッパの統合とフランス農業
- 4.グローバル化の進展と地域政策の展開
- 5.グローバル化の進展と有機農業をめぐる動き
- 6.フランスにおける食生活の基層と変化
- 7.グローバル化の進展とフランスの食文化
- 8.フランス経済における農業の位置と今後の展望

【授業外学習】

- 1.概要：授業においてノートを書ける限り詳しくとるようにし、配付資料や参考書とあわせて、丹念に読み返して、十全な復習を行うとともに、その内容の完全な理解をもって次回授業の予習とすること。なお、各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。
- 2.予習のポイント：次回授業の概要を事前に伝えるようにするので、参考書などで、関連しそうな用語や事柄について調べるなどしておくこと。なお、予習においては、内容を完全に理解する必要はない。わからないことがあってもがっかりすることなく、まずは、とりあえず、目を通すようにすることが重要である。
- 3.復習のポイント：授業時に詳しくとったノートの復習が中心となる。授業終了後、できるだけ速やかにノートを見返すことが望ましい。もし、可能であれば、周りの学生さんと内容確認、ディスカッション、説明、質疑応答などをすると、理解が深まるであろう。そして、同時に、うまく消化しきれていない点も明らかとなると思われるので、その場合には、配付資料や参考書を、今一度、読み返したり、メール等を利用して、教員に質問をするのがよい。実際、毎年、授業後に質問をする学生さんやメールで質問をする学生さんが、少なからず存在する。

皆さんの勉強のお手伝いをするべく、教員の方でもできるだけ対応したいと考えている。

履修上の注意/Notes

オフィス・アワー：木曜日11:50～12:40。

情報端末の活用

オンライン授業で実施する場合にはPCは必須である。対面授業であっても、出席やフォームズ機能を利用した質疑応答、ディスカッションにおいてPCを利用する予定である。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

オンライン授業の場合：課題（2回のレポート）で評価する予定である。

対面授業の場合：期末試験で評価する予定である。

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	教養としてのフランス近現代史
著者名	杉本淑彦
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2015
ISBN	9784623072712
教材費	

参考書2

書名	フランス史2 16世紀～19世紀なかば
著者名	柴田三千雄他著
出版社	山川出版社
出版年	1996
ISBN	9784634461000
教材費	

参考書3

書名	フランス史3 19世紀なかば～現在
著者名	柴田三千雄他著
出版社	山川出版社
出版年	1995
ISBN	9784634461109
教材費	

参考書4

書名	よくわかるフランス近現代史
著者名	剣持久木編
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2018
ISBN	9784623082605
教材費	

参考書5

書名	フランス現代史
著者名	小田中直樹
出版社	岩波新書
出版年	2018
ISBN	9784004317517
教材費	

参考書6

書名	グローバリゼーション ―縮小する世界―
著者名	矢ヶ崎典隆他編
出版社	朝倉書店
出版年	2018
ISBN	9784254168815
教材費	

参考書7

書名	ローカリゼーション ―地域へのこだわり―
著者名	矢ヶ崎典隆他編
出版社	朝倉書店
出版年	2018
ISBN	9784254168822
教材費	

参考書8

書名	世界地誌シリーズ 3 EU
著者名	加賀美雅弘編

出版社	朝倉書店
出版年	2011
ISBN	9784254168570.0
教材費	

参考書9

書名	フランス農業構造の展開と特質
著者名	是永東彦著
出版社	日本経済評論社
出版年	1993
ISBN	9784818806634
教材費	

参考書10

書名	フランス山間地農業の新展開：農業政策から農村政策へ
著者名	是永東彦著
出版社	農山漁村文化協会
出版年	1998
ISBN	9784540980114
教材費	

参考書11

書名	フランス農政における地域と環境
著者名	石井圭一著；農林水産省農林水産政策研究所編
出版社	農山漁村文化協会
出版年	2002
ISBN	9784540012549.0
教材費	

参考書12

書名	多機能化する農村のジレンマ：ポスト生産主義後にみるフランス山村変容の地理学
著者名	市川康夫著
出版社	勁草書房
出版年	2020
ISBN	9784326200603.0
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	

コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8382	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	長澤 淳				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

世界農業の展望

授業の概要/Course Overview

農業は人の営みの影響を受け様々に変化してきた。現在では一国だけで農業を語ることはできない。国家間の影響を受けざるを得ない状況にある。本授業では、World Bank や Food and Agriculture Organization(FAO) が収集管理するデータを用い1960年代以降に焦点を当て、農業がどのように変貌してきたかを以下に述べる項目を取り上げることによって理解し、展望を試みる。

キーワード/Keyword(s)

農業、食料、人口、生産、消費、経済

到達目標/Learning Objectives

データを元に農業の現状を理解し、展望を考えることができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. 【授業内容】ガイダンスと農業と食糧生産の概要
2. 【授業内容】人口
3. 【授業内容】経済
4. 【授業内容】生産
5. 【授業内容】取引(輸出入)
6. 【授業内容】消費
7. 【授業内容】食料と経済
8. まとめ（45分で終了）

【授業外学修とアクティブラーニング】授業内容と関連すると思われるニュースなどを2件以上取り上げまとめ、レポートを提出すること。

履修上の注意/Notes

単位を習得している必要はないが、以下の科目の基礎知識を学んでいること。食糧生産、経済、食料流通システム。レポートは、教務ポータルシステムを使って提出すること。電子メールによるレポート提出は不可。

情報端末の活用

講義資料などを電子ファイルで毎回配布する、また授業外の学修で使用するため所持、持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

最終的に獲得した点数を元に以下のような評価基準により評価する。

A+: 90点以上100点

A: 80点以上90点未満

B: 70点以上80点未満

C: 60点以上70点未満

D: 60点未満

成績の評価方法/Grading

レポート：情報源を明記しているか、データに基づいて考えを記しているか、他人の主張と自身の主張を明確にわかるような書き方をしているか。

最終獲得点数

レポート：100%

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	世界食料の展望：21世紀の予測
著者名	D.O.ミッチェル, M.D.インコ, R.C.ダンカン著；高橋五郎訳
出版社	農林統計協会
出版年	1998
ISBN	978-4541024039
教材費	3000

参考書2

書名	飢餓の世紀：食糧不足と人口爆発が世界を襲う
著者名	レスター・R・ブラウン, ハル・ケイン著；小島慶三訳
出版社	ダイヤモンド社
出版年	1995
ISBN	978-4478870426
教材費	2000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	

社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	<p>授業の資料などを電子ファイルで配布するためPCを持参できること。</p> <p>電子メールを利用可能であること。</p> <p>社会人リカレント教育の場合、教務ポータルシステムを使えない可能性があるため、レポートの提出はUSBメモリーなどを使った手渡し、もしくは電子メールで行うことを考えている。</p>
--------	---	-------	---

時間割コード	KB8401	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LS (法経除く)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員(ローマ字表記)	今川 奈緒				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法と人権I

授業の概要/Course Overview

何らかのかたちで「人権」という言葉にふれたことがある人は多いと思う。「人権擁護」、「人権侵害」等、保護されることを前提に「人権」について語られることが多いが、はたしてその根拠はどこにあるのであろうか。本講義では、法的に保護されるべき「人権」の内容、そしてその保護の方法について理解できるようにする。

教育職員免許状取得希望者は、題目「憲法と人権II」(担当：今川奈緒)と合わせて2単位を取得すること。

キーワード/Keyword(s)

日本国憲法、基本的人権

到達目標/Learning Objectives

憲法と人権I(今川担当)では、基本的人権について総論的に学ぶこととする。本講義で憲法と人権についての基本理論を学んだ後、憲法と人権II(今川担当)では、実際の問題への法の適用方法について学んでいく。單元ごとに実際の事件を基にした設題を提示する。講義を聴きながら解答を考えることで、各人権の法的な理論についての理解を深めていく。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 包括的基本権と法の下での平等
- 第3回 精神的自由権(1)—思想・良心の自由・信教の自由と政教分離
- 第4回 精神的自由権(2)—表現の自由・学問の自由
- 第5回 人身の自由・経済的自由
- 第6回 社会権(1)—生存権
- 第7回 社会権(2)—教育権
- 第8回 参政権・国務請求権・国民の義務(45分)、期末試験

【授業外学修】

(1)各單元ごとに、事例と設問を示したうえで、その解答を考えながら日本国憲法の基礎知識について学ぶ予定である。授業の際に、次回の授業で扱う事例と設問を提示するので、該当範囲の参考書等を読んでおくことが望ましい。

(2)授業の際に配布したレジュメを基に、参考書やD1-LAW(法律情報のデータベース)を用いて、学修を進めること。不明な点については、授業中に配布する出席カードに質問を記述してほしい。次回の授業開始時に質問に対する回答の時間を設けるので、わからないことをそのまま

にしないこと。

(3) 各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

理解度の確認を行うために、授業期間内に2～3回、授業内で扱った設例の応用問題を解いてもらう予定である。

履修上の注意/Notes

- ・授業の單元ごとにレジュメを配布するが、参考書等を併用して学習を進めてください。
- ・授業開始後30分を経過してからの入室は遅刻とみなします。遅刻2回=1欠席とします。

情報端末の活用

- ・講義資料は教務情報ポータル、あるいはmanabaで配信します。詳細については、初回授業時に説明をします。
- ・小テストや課題については、教務情報ポータル、あるいはmanabaを通じて提出していただきます。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：基本的人権についての基本的な知識と考え方を十分に修得し、法的な観点に基づき説明できている。
- A：基本的人権の基本的な知識と考え方を修得し、法的な観点に基づき説明できている。
- B：基本的人権の基本的な知識と考え方を概ね修得し、法的な観点に基づき説明できている。
- C：基本的人権の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、法的な観点に基づき説明できている。。
- D：基本的人権の基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

- ・教場での試験が可能な場合は、期末試験100%。
- ・教場での試験が難しい場合は、小テスト・小レポートに基づき評価します（各25点×4回）。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書の指定はありません。授業毎にレジュメを配布します。
----	------------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	いちばんやさしい憲法入門
著者名	初宿正典, 高橋正俊, 米沢広一, 棟居快行 著
出版社	有斐閣
出版年	2017
ISBN	9784641220911
教材費	1600

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	

課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	×	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8402	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LS (法経除く)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員(ローマ字表記)	今川 奈緒				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法と人権Ⅱ

授業の概要/Course Overview

- ・ 基本的人権Ⅰ(担当:今川奈緒)で学んだ人権の基本理論を踏まえ、人権にかかわる紛争解決の方法について学んでいく。基本的人権に関する重要な判例を素材として講義を進める予定である。したがって、本講義では公法上の争訟の仕組みについて学んだうえで、判例の検討を進めることとする。最終的には、憲法の理論を学ぶ上での判例のあり方について理解できるようになる。
- ・ なお、本授業の後半では、統治制度の基礎について学ぶこととする。
- ・ 教育職員免許状取得希望者は、題目「憲法と人権Ⅰ」(担当:今川奈緒)と合わせて2単位を修得すること。

キーワード/Keyword(s)

判例研究、行政事件訴訟、国家賠償、統治制度、基本的人権、自己決定権、新しい人権

到達目標/Learning Objectives

- ・ 本授業の目的は、各人権の法的な救済方法についての理解を深めることである。授業毎に実際の事件を基にした設題を提示するので、講義を聞いたうえで、各自解答を考えてほしい。公法上の争訟の仕組み、保障される権利の性質を理解すること、憲法の役割について自分なりの見解を示せるようになることが、本授業の到達目標である。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 公法上の紛争解決の仕組み
 - 第3回 基本的人権に関する基本判例についての検討
 - 第4回 自己決定権に関する判例についての検討
 - 第5回 新しい人権についての検討
 - 第6回 統治の原理
 - 第7回 統治のシステム①—議会・内閣・裁判所
 - 第8回 統治のシステム②—地方自治・憲法改正
- * 期末試験は行わず、レポートを課します。

【授業外学修】

(1)各単元ごとに、事例と設問を示したうえで、その解答を考えながら日本国憲法の基礎知識について学ぶ予定である。授業の際に、次回の授業で扱う事例と設問を提示するので、該当範囲の参考書等を読んでくることが望ましい。

(2)授業の際に配布したレジュメを基に、参考書やD1-LAW(法律情報のデータベース)を用いて、学修を進めること。不明な点については、授業中に配布する出席カードに質問を記述してほしい。次回の授業開始時に質問に対する回答の時間を設けるので、わからないことをそのままにしないこと。

(3) 各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

理解度の確認を行うために、授業期間内に2～3回、授業内で扱った設例の応用問題を解いてもらう予定である。

履修上の注意/Notes

- ・ 授業期間内に課すレポート(70%)、および授業時間中に課す応用問題への解答(30%)により評価します。
- ・ 授業開始後30分以上の遅刻が2回あった場合は、欠席1回に該当します。

情報端末の活用

- ・ 講義資料は教務情報ポータル、あるいはmanabaで配信します。詳細については初回授業時に説明します。
- ・ 課題レポート等については、教務情報ポータル、あるいはmanabaを通じて提出していただきます。これについても、詳細は初回授業時に説明します。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 各人権の法的な救済方法および統治制度についての基本的な知識と考え方を十分に修得し、その仕組みについて説明できている。
- A : 各人権の法的な救済方法および統治制度についての基本的な知識と考え方を修得し、その仕組みについて説明できている。
- B : 各人権の法的な救済方法および統治制度についての基本的な知識と考え方を概ね修得し、その仕組みについて説明できている。
- C : 各人権の法的な救済方法および統治制度の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、その仕組みについて説明できている。
- D : 各人権の法的な救済方法および統治制度の基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

- ・ レポート評価 70% / 授業内課題 30%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は特定しません。授業毎にレジュメを配布します。
----	----------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	基本的人権の事件簿：憲法の世界へ
著者名	棟居快行, 松井茂記, 赤坂正浩, 笹田栄司, 常本照樹, 市川正人 著
出版社	有斐閣
出版年	2015
ISBN	9784641281356
教材費	1900

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	×	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8403	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	飛田 綾子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法と人権

授業の概要/Course Overview

社会に生きる限り、人は法と無関係ではられません。よって法に関する正しい知識を学ぶことは結局、自分自身のためになります。同時に自分と様々な面で異なる人々と共存していく現代に必要な知識でもあります。この授業では憲法が保障する「基本的人権」を説明します。具体的には、刑事手続き上の権利、生存権や法の下での平等、表現の自由など、聞いたことはあってもイメージはしにくい権利や自由を、法学の初心者にも分かりやすく、様々な裁判例を挙げながら説明していきます。

キーワード/Keyword(s)

法、憲法、政治、人権、権利、自由、裁判、立憲主義、違憲審査制度

到達目標/Learning Objectives

- ①日本国憲法が保障している人権の内容や裁判例についての基本的知識を説明できる。
- ②日本の人権に関する各国との相違を把握し、あるべき姿を自分で考察できるようになる。
- ③憲法による人権保障の意義、ひいては憲法の存在意義を自分で考察できるようになる。
- ④脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本授業はすべてTeams を利用した同時双方向のオンライン授業で実施します。

第1回：シラバスを用いたガイダンス／人身の自由（刑事手続きなど）／
参政权(選挙権、一票の較差について)／国務請求権（国家賠償請求権、請願権、裁判を受ける権利）

【授業内容】

ガイダンスの後、早速憲法が保障する権利を具体的に学んでいく。まずは比較的、イメージしやすい権利である刑事手続き上の権利や参政权について判例を挙げながら説明する。国務請求権の具体例を見ていく。

【授業外学修】

授業内容の復習・確認。普段ニュースで目にする刑事事件と授業で学んだ内容を比較して、刑事手続きのあるべき姿を考察する。一票の較差を厳格に是正することの是非について考えてみる。国家賠償請求の意義と限界について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

（ミニツッパーパー）憲法のイメージや問題点として考えているものを自由に書いてもらう。

第2回：社会権（社会権を保障する意味、生存権・教育を受ける権利・労働基本権）

【授業内容】

社会権をめぐる著名な裁判である朝日訴訟や旭川学カテスト事件などを取り上げ、国民に一定の生活環境や教育を保障するために必要なことや、その限界について学ぶ。

【授業外学修】

授業内容の復習・確認。社会保障の存在意義を各自で考えてみる。裁判の時代背景を考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

（復習テスト）朝日訴訟や堀木訴訟、全通東京東京中郵事件などの有名な裁判の内容を確認する。

第3回：経済的自由権（経済的自由の歴史と意義、職業選択の自由、財産権の保障）

【授業内容】

薬局距離制限事件や森林法事件など、違憲判決が数多く下されている分野である。その理由づけを理解する。

経済活動をめぐる政治の介入のあり方について司法が下してきた判断について説明する。

【授業外学修】

日本の労働環境で問題視されている点を調べてみる。新型コロナウイルスの流行に伴う飲食店等への営業時短要請の憲法上の問題点について各自考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

（授業前レポート）一票の格差の厳密な是正の是非。（150字以上）

（復習テスト）著名な判決の内容や、違憲審査基準についての知識を確認する。

第4回：思想・良心の自由／信教の自由（個人の信教の自由と政教分離の原則など）

【授業内容】

謝罪広告や、君が代のピアノ伴奏や起立斉唱拒否をめぐる裁判や、靖国神社への玉串料奉納をめぐる判決などを取り上げ、裁判所の判断を見ていく。

【授業外学修】

授業内容の復習・確認。思想・良心の自由や信教の自由の日本の現状について考える。成立にあたって議論を呼んだ共謀罪について調べてみる。企業の契約の自由と労働者の思想・良心が対立した場合を自分に置き換えて考えてみる。信教の自由と表現の自由が衝突した例とされる世界的なニュースを調べる。

【アクティブ・ラーニング】

（復習テスト）判決の趣旨や、判例で提示された違憲か合憲かの判断基準などを確認する。

第5回：表現の自由

【授業内容】

表現の自由の原理、検閲・事前抑制の禁止、性表現、名誉毀損的表現、犯罪のせん動などについての裁判所の判断を見ていく。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。性表現や名誉毀損的表現といった価値の低い表現が保障される理由を考えてみる。マスメディアの報道の改善点について考えてみる。ヘイトスピーチの規制について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 表現の自由が保障される理由や、憲法で禁止されている検閲の具体的内容、さまざまな表現をめぐる裁判の内容について確認する。

第6回：学問の自由／包括的基本権／法のもとの平等①（平等の内容、司法審査の基準、判例①尊属殺重罰規定など）

【授業内容】

先端技術の規制や、教育・研究機関としての大学の自治のあり方についての裁判所の判断、またプライバシーの権利や自己決定権をめぐる裁判について見ていく。また「法の下での平等」の意味や、裁判所の判断の基準、判例を見ていく。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。クローン技術の具体的内容、その成果、また規制法による先端技術の規制の是非について考えてみる。また「プライバシー」とSNSの関係について考えてみる。自己決定権を認めることの利益・不利益について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 学問の自由に関する裁判（劇団ポポロ事件）や輸血拒否事件などの自己決定をめぐる裁判の趣旨についての知識、また違憲審査基準についての知識を確認する。

第7回：法のもとの平等②（夫婦同姓規定・再婚禁止期間裁判）／基本的人権総論①人権の享有主体・外国人の人権・私人間適用

【授業内容】

夫婦同姓規定や再婚禁止期間をめぐる最高裁の判断や、基本的人権が保障される主体とは誰か、外国人と日本人で人権の保障に違いについて説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。日本の外国人をめぐる法的問題について具体的に調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 法の下での平等や著名な判例の趣旨の確認。

(授業前レポート) ヘイトスピーチ規制法についての考えを論じたもの。(150字以上)

第8回：まとめ(45分)

【授業内容】

基本的人権のまとめとして、「公共の福祉」とは何かについて説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。授業で触れた裁判について総ざらいしてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 公共の福祉をめぐる学説や、違憲審査基準についての知識を確認する。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

2回目以降の授業では毎回、復習テストをFormsを使用して実施します。また授業内容を踏まえた上で、時事ニュースにかかわる問題も出題するので、各自ネット等で調べた上で答えてもらおうと考えています。時間的余裕は十分取ります。

授業前レポートを2回ほど予定しています。150字以上で憲法問題への各自の意見を問うものを考えています。

履修上の注意/Notes

- ①授業での疑問点は、教員に質問したり、参考書の該当箇所を読んだりして早めに解決してください。
 - ②授業前レポートとして、憲法上の論点に関する自分の考えや法律の是非について調べてもらうことがあるので、各自積極的に調べてください。
 - ③遅刻は授業開始後15分まで認めます。遅刻3回で欠席1回とカウントします。出席はFormsまたはTeams内のアンケート機能でとります。
 - ④参考書購入費以外に係る金額はありません。
- 教育職員免許状取得希望者は、題目「憲法と政治制度」（担当：飛田綾子）と合わせて2単位を修得してください。

情報端末の活用

- ①オンライン授業で使用可能なPCを準備しておいてください。
- ②講義資料は Teams で事前配信します。ダウンロードして目を通しておいてください。印刷するか否かは各自で判断してください。
- ③出席確認クイズ、復習テスト、授業前レポート、期末レポートについては、Formsに提出してください。（状況の変化でmanabaに変更することもあります。）

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点を十分に把握した上で、憲法の実存意義について説得力のある議論を展開できる。さらに脚注などに十分に体裁の整ったレポートを作成できる。
- A：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の実存意義を考察できる。一定程度体裁の整ったレポートを作成できる。
- B：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の実存意義を概ね考察し、レポートで考えを伝えることが出来る。
- C：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の実存意義を最低限、説明できる。
- D：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点を修得できておらず、憲法の実存意義を説明できない。

成績の評価方法/Grading

8回目後半の期末試験は実施しません。

毎回授業後に行う復習テスト(初回は除く)、授業前レポート(2回予定)、コメント(適宜)：40点/期末レポート60点。

授業中の積極的発言や質問は成績評価に加味します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特にありません。教員が作成した資料を配布します。
----	------------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法学読本 第3版
著者名	安西文雄 [ほか] 著
出版社	有斐閣
出版年	2018
ISBN	4641227616
教材費	2970

参考書2

書名	論点日本国憲法：憲法を学ぶための基礎知識
著者名	安念潤司 [ほか] 編著
出版社	東京法令出版
出版年	2014
ISBN	4809063070
教材費	2860

参考書3

書名	憲法判例集 第11版
著者名	野中俊彦・江橋崇編著
出版社	有斐閣
出版年	2016
ISBN	4641091609
教材費	1100

参考書4

書名	憲法講話—24の入門講義
著者名	長谷部恭男
出版社	有斐閣
出版年	2020
ISBN	4641227829
教材費	2750

参考書5

書名	ブリッジブック憲法
著者名	横田耕一・高見勝利編
出版社	信山社出版
出版年	2002
ISBN	4797223014
教材費	2200

参考書6

書名	基本的人権の事件簿 第6版
著者名	棟居快行ら
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	4641281475
教材費	2090

参考書7

書名	国家と社会の基本法 第4版
著者名	上野幸彦・古屋等

出版社	成文堂
出版年	2018
ISBN	4792306337
教材費	2750

参考書8

書名	新・判例ハンドブック憲法 第2版
著者名	高橋和之
出版社	日本評論社
出版年	2018
ISBN	4535008302.0
教材費	1540

参考書9

書名	教養としての憲法入門
著者名	神野潔編著
出版社	弘文堂
出版年	2016
ISBN	4335356633
教材費	2750

参考書10

書名	比較憲法 第3版
著者名	辻村みよ子
出版社	岩波書店
出版年	2018
ISBN	4000289195
教材費	3410

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	△
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8404	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	飛田 綾子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法と政治制度

授業の概要/Course Overview

近年憲法改正の必要が叫ばれています。改正の必要性を考えるためには、議論の高揚している背景を理解し、憲法に関する基礎知識が必要です。憲法は人権保障と並んで国会、内閣、裁判所といった統治機構について規定しています。こうした機関が持つ権限や、日本国憲法の成立経緯や天皇制、平和主義や地方自治などを、憲法学の従来の議論や有名な裁判、また他国との比較的观点を盛り込みながら説明します。

キーワード/Keyword(s)

憲法、政治、政治制度、デモクラシー、国会、裁判所、地方自治、平和主義、憲法改正

到達目標/Learning Objectives

- ①日本国憲法に規定された国会、内閣、裁判所の各々の権限、役割分担や、日本国憲法の成立経緯や安全保障や国際貢献などの憲法9条をめぐる問題、地方自治や財政の規定について説明できる。
- ②現在議論されている憲法改正について、憲法学の基本的知識を踏まえた上で自ら考察できる。
- ③各国の政治制度と日本国憲法を比較し、共通点や相違点を把握できる。
- ④脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本授業はすべてTeams を使用した同時双方向のオンライン授業で実施する。

第1回：シラバスを用いたガイダンス／憲法とは何か／立憲主義とは何か／デモクラシーとは何か

【授業内容】

ガイダンスの後、憲法の種類や区分、思想的基盤である立憲主義や、デモクラシーとの関係について説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。憲法の必要性について考えてみる。デモクラシーの多様な意味、またそのメリットとデメリットについて考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

（ミニツツペーパー）憲法のイメージや、日本国憲法の問題点として考えているものについて各自自由に書いてもらう。

第2回：日本憲法史／天皇制(天皇の地位や天皇の人権享有主体性など)

【授業内容】

大日本帝国憲法と日本国憲法の制定過程、両者の相違点を説明する。また天皇の地位の変化について国事行為などに言及しながら、説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。明治憲法の改正がなぜ必要だったのか考えてみる。天皇の国事行為と公的行為の違いについて考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 戦前と戦後の日本の政治体制の変更点等についての知識を確認する。

第3回：平和主義①（憲法9条の解釈、自衛隊の合憲性など）

【授業内容】

平和主義（憲法9条の解釈・自衛隊の合憲性、平和安全法制の内容について説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。砂川事件など、憲法9条に関係する著名な裁判の時代背景を調べてみる。日本の戦後史について、沖縄返還など大きな政治的出来事を調べてみる。日本の安全保障と国際貢献の在り方について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 9条に関する政府解釈や学説についての理解の確認。

第4回：平和主義②（各国の平和安全法制）／主権の意味／国会①（国会の地位と組織、衆参両院の関係など）

【授業内容】

国家が持つ主権の意味や、国民の代表の意味、国会の地位と組織、衆参両院の関係などについて説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。国会議員を国民が罷免出来ない理由を考えてみる。また、国会議員の選挙の不正をめぐる裁判などのニュースについて調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 国民の「代表」の意味や国会の権限、国会議員の特権などについての知識を確認する。

(授業前レポート) 「正義のための戦争」と日本の関わり方について自由に論じる。(150字以降)

第5回：国会②（国政調査権など）／内閣

【授業内容】

内閣や総理の資格や権限、衆議院の解散の根拠、各国の政治制度との比較などについて説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。世界各国の政治ニュース、特に立法府と行政府をめぐるニュースを調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 日本の議院内閣制と各国の政治制度の相違点の理解を確認する。

第6回：裁判所

【授業内容】

裁判所が担う司法権の範囲と限界、立法・行政との関わり方、裁判員制度の是非、各国の違憲審査制度との相違など)

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。実際の裁判への不満等と授業内容を照合してみる。裁判官という選挙によって選ばれたわけではない存在が、選挙によって選ばれた国会議員が作成した法律に違憲判決を下すことの意味を考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 司法権の意味や最高裁の権限等についての知識を確認する。

第7回：地方自治／財政（公金支出の禁止の原則などについて）／憲法改正（各国の要件・経緯）

【授業内容】

地方自治の下で地方自治外に保障される権限や、リコールなどの住民の権利を説明する。また私学助成の問題について説明する。憲法改正の各国の要件について説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。財政収支均衡の重視策や道州制導入の是非を考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 予算や地方自治における基本知識の確認。

(授業前レポート) 国会審議の活性化について各自の意見を自由に書いてもらう。(150字以上)

第8回：まとめ(45分)

【授業内容】

授業の総ざらいをする。安全保障体制や、政治制度、国会、内閣、裁判所、憲法改正を各国と比較する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。憲法改正の必要性について考察。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 違憲審査制度に関する基本知識や各国の憲法改正の概要の確認。

【授業外学修】

各回の授業外学修に関する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

2回目以降の授業では毎回、復習テストをFormsを使用して実施します。また授業内容を踏まえた上で、時事ニュースにかかわる問題も出題するので、各自ネット等で調べた上で答えてもらおうと考えています。時間的余裕は十分取ります。

授業前レポートを2回ほど予定しています。150字以上で憲法問題への各自の意見を問うものと考えています。

履修上の注意/Notes

- ①疑問点は教員に質問したり、参考書の該当箇所を読んだりして早めに解決してください。
- ②授業前レポートとして、最近のニュースと授業内容を関連付けて各自の意見を150字程度で説明してもらうことがあるので、各自積極的に調べてください。
- ③遅刻は授業開始後15分まで認めます。遅刻3回で欠席1回とカウントします。出席はFormsまたはTeams内のアンケート機能でとります。
- ④参考書購入費以外に係る金額はありません。

教育職員免許状取得希望者は、題目「憲法と人権」（担当：飛田綾子）と合わせて2単位を修得してください。

情報端末の活用

- ①オンライン授業で使用可能なPCを準備しておいてください。
- ②講義資料は Teams で事前配信します。ダウンロードして目を通しておいてください。印刷するか否かは各自で判断してください。
- ③出席確認クイズ、復習テスト、授業前レポート、期末レポートについては、Formsに提出してください。（状況の変化でmanabaに変更することもあります。）

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を十分に修得し、各国との比較的观点を持ちながら、憲法改正について説得力のある議論を、体裁の整ったレポートで十分に展開できる。
- A：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を修得し、憲法改正について一定程度の議論ができる。
- B：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を概ね修得し、憲法改正について説明できる。
- C：日本国憲法の統治機構に関する基本知識について最低限の修得をしており、憲法改正について最低限の説明ができる。
- D：日本国憲法の統治機構に関する基本知識について修得できておらず、憲法改正について説明できない。

成績の評価方法/Grading

8回目後半の期末試験は実施しません。

毎回授業後に行う復習テスト(初回は除く)、授業前レポート(2回予定)、コメント(適宜)：40点/期末レポート60点。

授業中の積極的発言や質問は成績評価に加味します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特にありません。教員が作成した資料を配布します。
----	------------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法学読本 第3版
著者名	安西文雄 [ほか] 著
出版社	有斐閣
出版年	2018
ISBN	4641227616
教材費	2970

参考書2

書名	憲法講話—24の入門講座
著者名	長谷部恭男
出版社	有斐閣
出版年	2020
ISBN	4641227616
教材費	2750

参考書3

書名	比較憲法 第3版
----	----------

著者名	辻村みよ子
出版社	岩波書店
出版年	2018
ISBN	4000289195
教材費	3410

参考書4

書名	論点日本国憲法：憲法を学ぶための基礎知識
著者名	安念潤司 [(ほか) 編著
出版社	東京法令出版
出版年	2014
ISBN	4809063070
教材費	2860

参考書5

書名	世界史の中の日本国憲法
著者名	佐藤幸治
出版社	左右社
出版年	2015
ISBN	4865281274
教材費	1100

参考書6

書名	トピックからはじめる統治制度 第2版
著者名	笹田栄司 [(ほか) 著
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	4641227802
教材費	2090

参考書7

書名	憲法判例集 第11版
著者名	野中俊彦・江原崇編著
出版社	有斐閣
出版年	2016
ISBN	4641091609
教材費	1100

参考書8

書名	リベラル・デモクラシーの現在
著者名	樋口陽一
出版社	岩波書店

出版年	2019
ISBN	4004318173.0
教材費	924

参考書9

書名	国家と社会の基本法 第4版
著者名	上野幸彦・古屋等
出版社	成文堂
出版年	2018
ISBN	4792306337
教材費	2750

参考書10

書名	教養としての憲法入門
著者名	神野潔編著
出版社	弘文堂
出版年	2016
ISBN	4335356633
教材費	2750

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8451	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	古屋 等				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

憲法と統治機構

授業の概要/Course Overview

憲法とは何か、また国家権力はどのように行使されなければならないかを、憲法の基本原理をもとに理解することにより、統治機構のあり方やその機能について考えていきます。憲法の立憲主義や法の支配、国民主権や民主主義といった諸原理が、基本的人権の保障にとっていかなる役割や機能を果たすのかを関連づけて分かるようにします。

キーワード/Keyword(s)

近代立憲主義憲法、日本国憲法の基本原理(国民主権・民主主義・権力分立・法の支配)、憲法9条と平和主義・国際協調主義

到達目標/Learning Objectives

近代立憲主義憲法の意義、国民主権と国家権力の相互関係、国民の人権保障を目的とした憲法定と国家成立、憲法による人権保障のシステム(権力分立・民主主義・法の支配)について理解し、日常生活において生じるさまざまな法的問題を、基本的人権の観点から捉えて分析し、適切に評価し判断することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入【講義レジュメNo.1】
- 第2回：憲法の意義と立憲主義【講義レジュメNo.2】
- 第3回：日本国憲法の基本原理①(国民主権)【講義レジュメNo.2】
- 第4回：日本国憲法の基本原理②(民主主義・権力分立)【講義レジュメNo.2】
- 第5回：日本国憲法の基本原理③(法の支配・平和主義)【講義レジュメNo.3】
- 第6回：憲法9条と平和主義、小テスト【講義レジュメNo.1～3】
- 第7回：憲法9条と国際協調主義【講義レジュメNo.3】
- 第8回：まとめ(45分)、試験(45分)

【授業外学修】

- (1)第1回から第8回まで、穴埋め式のレジュメを使用して、重要な用語を空欄に記入しながら、授業のポイントについて理解してもらいます。レジュメは事前にTeamsのファイルに掲載しておきますので、事前に印刷して、空欄に当てはまる用語について検討してみてください。
- (2)授業で使用したパワーポイントも、レジュメと同様にTeamsのファイルに掲載しておきます。小テストや期末試験に向けた復習にご利用ください。
- (3)小テストや期末試験は、各レジュメの空欄に記入してもらって用語のうち、マーカーでチェックしてもらったものを中心に出题していきます。各試験にあたり、レジュメや授業で使用したパワーポイントなどを再確認し、小テストは間違った部分を再確認したうえで、期末テストに臨むようにしてください。
- (4)各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とします。

【アクティブ・ラーニング】

・授業で説明したポイントについて、授業終了時にレスポンスシートにより確認いただきます。当日使用したレジюмеやパワーポイントを再確認して入力してください。

履修上の注意/Notes

1.授業の進度にあわせて、レジюмеや教科書の該当箇所をよく読み、レジюмеの空欄を穴埋めするなどして、事前に授業のポイントについて理解しておいてください。2.授業で使用するパワーポイントも含め、使用する資料はTeamsのファイルに掲載しておきます。3.オフィス・アワー：火曜日昼休み。4.授業中の小テストも成績評価の対象になりますので、欠席しないようにしてください。5.その他、やむを得ない理由で欠席する場合には、メール等で連絡をお願いします。

情報端末の活用

・授業で使用するレジюмеやパワーポイントは、事前にTeamsのファイルに掲載しておきます。レジюмеはPDFファイルですので、事前に印刷して、パワーポイントによる説明を聞きながら、空欄を埋めてください。
・出欠確認を兼ねて、レスポンスシートを提出いただきます。教務情報ポータル「授業支援」→「レポート」からダウンロードして、記入後提出いただきますので、パソコンを用意してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+： 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A： 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B： 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C： 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D： 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

1.授業中（第6回）に行う小テストを20%、期末テストを80%の割合で合算して評価します(すべて参照不可)。2.期末テストは第8回に実施します。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	国家と社会の基本法（第4版）
著者名	上野幸彦, 古屋等 著
出版社	成文堂
出版年	2018
ISBN	9784792306335
教材費	2750

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法（第7版）
著者名	芦部信喜 著, 高橋和之 補訂
出版社	岩波書店

出版年	2019
ISBN	9784000227995
教材費	3520

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8452	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	古屋 等				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

憲法と人権保障

授業の概要/Course Overview

基本的人権とは何か、どのような人権が含まれるのか、人権の中核とされる自由権は、その種類に応じていかなる保障と制約を受けなければならないのかを、公共の福祉の原理をもとに、具体的な事例を交えて考察していきます。また、社会権の自由権との関係と限界、法の支配の原理の発現としての違憲審査制度について学びます。

キーワード/Keyword(s)

基本的人権、公共の福祉、精神的自由権・経済的自由権、社会権、司法審査、法の支配、違憲審査

到達目標/Learning Objectives

基本的人権は、個人の尊重と平等を理念とし、特に自由権は、社会的影響の有無や大きさにより、公共の福祉の原理により一定の制約を受けること。その程度は、精神的自由権と経済的自由権により異なり、自由権に対する具体的な制約は、国民代表機関である国会の法律により行われること。その合憲性の審査は、最終的に裁判所によって行われなければならないことを、法の支配の原則をもとに理解することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入
 第2回：基本的人権の観念と種類【講義レジュメ No.4】
 第3回：基本的人権の保障と限界(公共の福祉)【講義レジュメ No.4】
 第4回：精神的自由権(内心の自由・表現の自由)【講義レジュメ No.5】
 第5回：経済的自由権(職業選択の自由・財産権)【講義レジュメ No.5】
 第6回：社会権の保障(生存権・教育の機会均等)、小テスト【講義レジュメ No.4～5】
 第7回：法の支配と違憲審査【講義レジュメ No.6】
 第8回：まとめ(45分)、試験(45分)

【授業外学修】

- (1)第1回から第8回まで、穴埋め式のレジュメを使用して、重要な用語を空欄に記入しながら、授業のポイントについて理解してもらいます。レジュメは事前にTeamsのファイルに掲載しておきますので、事前に印刷して、空欄に当てはまる用語について検討してみてください。
 (2)授業で使用したパワーポイントも、レジュメと同様にTeamsのファイルに掲載しておきます。小テストや期末試験に向けた復習にご利用ください。
 (3)小テストや期末試験は、各レジュメの空欄に記入してもらって用語のうち、マーカーでチェックしてもらったものを中心に出题していきます。各試験にあたり、レジュメや授業で使用したパワーポイントなどを再確認し、小テストは間違った部分を再確認したうえで、期末テストに臨むようにしてください。

(4)各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とします。

【アクティブ・ラーニング】

・授業で説明したポイントについて、授業終了時にレスポンスシートにより確認いただきます。当日使用したレジюмеやパワーポイントを再確認して入力してください。

履修上の注意/Notes

1.授業の進度にあわせて、レジюмеや教科書の該当箇所をよく読み、レジюмеの空欄を穴埋めするなどして、事前に授業のポイントについて理解しておいてください。2.授業で使用するパワーポイントも含め、使用する資料はTeamsのファイルに掲載しておきます。3.オフィス・アワー：火曜日昼休み。4.授業中の小テストも成績評価の対象になりますので、欠席しないようにしてください。5.その他、やむを得ない理由で欠席する場合には、メール等で連絡をお願いします。

情報端末の活用

・授業で使用するレジюмеやパワーポイントは、事前にTeamsのファイルに掲載しておきます。レジюмеはPDFファイルですので、事前に印刷して、パワーポイントによる説明を聞きながら、空欄を埋めてください。

・出欠確認を兼ねて、レスポンスシートを提出いただきます。教務情報ポータル「授業支援」→「レポート」からダウンロードして、記入後提出いただきますので、パソコンを用意してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である

成績の評価方法/Grading

1.授業中（第6回）に行う小テストを20%、期末テストを80%の割合で合算して評価します(すべて参照不可)。2.期末テストは第8回に実施します。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	国家と社会の基本法
著者名	上野幸彦, 古屋等 著
出版社	成文堂
出版年	2018
ISBN	9784792306335
教材費	2750

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法（第7版）
著者名	芦部信喜 著, 高橋和之 補訂

出版社	岩波書店
出版年	2019
ISBN	9784000227995
教材費	3520

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8453	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LS (法経除く)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員(ローマ字表記)	伊藤 純子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

人権

授業の概要/Course Overview

この講義では、身近な問題や時事問題、歴史などの話も適宜交えながら、日本国憲法に定める人権についての意義と目的を学びます。

キーワード/Keyword(s)

国民主権、立憲主義、法の下での平等、表現の自由、思想・良心の自由、信教の自由、社会権、人身の自由、経済的自由権

到達目標/Learning Objectives

憲法の基本的な考え方と解釈を習得し、日本国憲法に定める人権についての基礎的な知識と理解を身につけることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

授業計画

- 第1回：国民主権と立憲主義
- 第2回：参政権と国務請求権
- 第3回：精神的自由（1）表現の自由
- 第4回：精神的自由（2）思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由、教育を受ける権利
- 第5回：人身の自由、法の適正手続
- 第6回：経済的自由権
- 第7回：社会権（1）
- 第8回：社会権（2）（45分）、試験

【授業外学修】

- (1) 講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読み、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。
- (2) 各授業回で取り扱う内容について、事前にテキストを読んで予習するだけでなく、第2回以降については、参考書「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ」により関連判例について調べておくことが望ましい。
- (3) 各回の授業外学修に要する時間は60分程度目安とする。

履修上の注意/Notes

教育職員免許上取得希望者は、題目「統治機構」（担当：伊藤）と合わせて2単位を習得すること。

情報端末の活用

なし

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 人権の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 人権の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 人権の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 人権の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 人権の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験の成績で評価します。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	〈合格水準〉教職のための憲法
著者名	志田陽子 編著
出版社	法律文化社
出版年	2017
ISBN	458903865X
教材費	2500

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法 第7版
著者名	芦部信喜
出版社	岩波書店
出版年	
ISBN	4000613227
教材費	

参考書2

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部恭男ほか
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	4641115451
教材費	2300

参考書3

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部恭男ほか
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	464111546X
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8454	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L S (法経除く)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員(ローマ字表記)	伊藤 純子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

統治機構

授業の概要/Course Overview

この講義では、身近な問題や時事問題、歴史などの話も適宜交えながら、日本国憲法に定める統治機構の意義と目的、また、第3クォーターで学んだ人権との関係について学んでいきます。

キーワード/Keyword(s)

国民主権、立憲主義、平和主義、立法権、国会、行政権、内閣、司法権、裁判所、違憲審査制、地方自治

到達目標/Learning Objectives

憲法の基本的な考え方と解釈を習得し、日本国憲法に定める統治機構のについての基礎的な知識と理解を身につけることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：社会権
 第2回：教育を受ける権利と児童の権利
 第3回：幸福追求権と新しい人権
 第4回：人権の共有主体
 第5回：法の下での平等
 第6回：統治（1）行政と内閣、財政、地方自治
 第7回：統治（2）司法権と裁判所、憲法保障
 第8回「平和のうちに生存する権利」と安全保障
 期末試験

【授業外学修】

- 講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読み、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。
- 各授業回で取り扱う内容について、事前にテキストを読んで予習するだけでなく、第2回以降については、参考書「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ」により関連判例について調べておくことが望ましい。
- 各回の授業外学修に要する時間は60分程度目安とする。

履修上の注意/Notes

教育職員免許状取得希望者は、題目「人権」（担当：伊藤）と合わせて2単位を修得すること。

情報端末の活用

なし

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 統治機構の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 統治機構の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 統治機構の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 統治機構の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 統治機構の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験の成績で評価します。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	〈合格水準〉教職のための憲法
著者名	志田陽子 編著
出版社	法律文化社
出版年	2017
ISBN	458903865X
教材費	2500

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法 第7版
著者名	芦部信喜
出版社	岩波書店
出版年	
ISBN	4000613227
教材費	

参考書2

書名	憲法判例百選 I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部恭男ほか
出版社	
出版年	2019
ISBN	4641115451
教材費	2300

参考書3

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部恭男ほか
出版社	
出版年	2019
ISBN	464111546X
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8455	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	水1	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	中野 雅紀				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代人権論 I

授業の概要/Course Overview

日本国憲法の基礎知識と、日本国憲法が成立した歴史的背景および思想・理論を習得することを目的とする。同時に、板書をただ書き写すだけでなく、それを自分のオリジナルなノートとして作成できる、という極めて大学生として基礎的な技術を身に付けてもらう。

キーワード/Keyword(s)

日本国憲法の三大原則、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正の限界、社会契約論、国家からの自由、国家による自由、国家への自由

到達目標/Learning Objectives

まず、すべての講義に出席して、その講義内容をノートとして纏められるようにすること(ICプレーヤー等による講義の録音を認める)。また、毎回、講義後に提出してもらおうリアクションペーパーがきちんと書けるようになること。最後に、地方1種試験レベルの試験をパスできる程度の知識を取得すること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1講 ガイダンス

- 第2講 今年の重要な最高裁判所判例を取り上げ、裁判のプロセス、判決の種類、三審制度などの基本的知識を解説する。
- 第3講 日本国憲法の三大原則の序列を考えてみよう(パート1)
- 第4講 日本国憲法の三大原則の序列を考えてみよう(パート2)
- 第5講 国民主権と権力分立(パート1)
- 第6講 国民主権と権力分立(パート2)
- 第7講 平和主義と具体的違憲審査制度(パート1)
- 第8講 平和主義と具体的違憲審査制度(パート2)、期末試験(論述)

【授業外学修】

予習はいらない。しかし、復習は毎日、最低でも5時間はしてもらいたい。と言うより、ノートを作製し、それに基づいて復習するのだから、最低限、それぐらいの時間は作業を含めて、当然かかるはずである。楽をして単位が来るものではない。また、限られた時間での講義であるから、丁寧な解説を試みるが、当然のことながら舌足らずの解説については講義後の調べ学習をするのは大学生としての義務であり、それなりの自己学習と自己マネジメントは不可欠である。最後に、わたしの見解に従う必要はまったくないが、反対あるいは批判するためには、それなりの根拠が必要である。すなわち、批判的な態度で講義を受けつつ、一生懸命に勉強していただきたい。新聞を読んだり、ニュースを視聴するのも勉強になる。書籍は中央図書館にあり、判例は最高裁判所のHPで観ることができるのだから、それらを駆使してもらいたい。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業で、リアクションペーパーの提出を求める

履修上の注意/Notes

おそらくは抽選によって履修が認められるのだから、途中で止めることは非常識である。オフィス・アワーは月曜日2-3。試験前には、質問コーナーを設けるので積極的に活用すること。教育実習には、配慮するがそれが免罪符になるわけではない。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

まず、出欠とリアクションペーパーで、ノート提出の採点の許可・不許可を決める。したがって、形式審査として100%。

上記要件を満たしている場合、内容審査としての論述式期末試験を受験してもらう。そこでは、出題内容への適切な解答がなされていることが大切であるが、併せて解答用紙の表面を全部埋めているか、起承転結のしっかりした論文構成がなされているかが評価される。これが、100%である。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115453
教材費	2300

教科書2

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115460
教材費	2300

備考 時宜に応じて、レジユメを配布する。受講者数しか印刷しないので、配布された資料は一人一部を守ってください。

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	18歳から考える人権
著者名	穴戸常寿 編
出版社	法律文化社
出版年	2015
ISBN	9784589037121
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input checked="" type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8456	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	水1	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	中野 雅紀				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代人権論Ⅱ

授業の概要/Course Overview

日本国憲法の基礎知識と、日本国憲法が成立した歴史的背景および思想・理論を習得することを目的とする。同時に、板書をただ書き写すだけでなく、それを自分のオリジナルなノートとして作成できる、という極めて大学生として基礎的な技術を身に付けてもらう。

キーワード/Keyword(s)

日本国憲法の三大原則、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正の限界、社会契約論、国家からの自由、国家による自由、国家への自由

到達目標/Learning Objectives

まず、すべての講義に出席して、その講義内容をノートとして纏められるようにすること(ICプレーヤー等による講義の録音を認める)。また、毎回、講義後に提出してもらおうリアクションペーパーがきちんと書けるようになること。最後に、地方1種試験レベルの試験をパスできる程度の知識を取得すること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1講 基本的人権の基礎付けと分類(パート1)
- 第2講 基本的人権の基礎付けと分類(パート2)
- 第3講 公法と私法の分離と人権の享有主体性(パート1)
- 第4講 公法と私法の分離と人権の享有主体性(パート2)
- 第5講 平等原則と新しい人権(パート1)
- 第6講 平等原則と新しい人権(パート2)
- 第7講 精神的自由(表現の自由)の優越的地位と、その他の人権の司法審査基準について
- 第8講 まとめと期末試験(論述)、授業アンケート

【授業外学修】

予習はいらない。しかし、復習は毎日、最低でも5時間はしてもらいたい。と言うより、ノートを作製し、それに基づいて復習するのだから、最低限、それぐらいの時間は作業を含めて、当然かかるはずである。楽をして単位が来るものではない。また、限られた時間での講義であるから、丁寧な解説を試みるが、当然のことながら舌足らずの解説については講義後の調べ学習をするのは大学生としての義務であり、それなりの自己学習と自己マネジメントは不可欠である。最後に、わたしの見解に従う必要はまったくないが、反対あるいは批判するためには、それなりの根拠が必要である。すなわち、批判的な態度で講義を受けつつ、一生懸命に勉強していただきたい。新聞を読んだり、ニュースを視聴するのも勉強になる。書籍は中央図書館にあり、判例は最高裁判所のHPで観ることができるのだから、それらを駆使してもらいたい。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求める

履修上の注意/Notes

おそらくは抽選によって履修が認められるのだから、途中で止めることは非常識である。オフィス・アワーは月曜日2-3。試験前には、質問コーナーを設けるので積極的に活用すること。教育実習には、配慮するがそれが免罪符になるわけではない。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

まず、出欠とリアクションペーパーで、ノート提出の採点の許可・不許可を決める。したがって、形式審査として100%。

上記要件を満たしている場合、内容審査としての論述式期末試験を受験してもらう。そこでは、出題内容への適切な解答がなされていることが大切であるが、併せて解答用紙の表面を全部埋めているか、起承転結のしっかりした論文構成がなされているかが評価される。これが、100%である。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115453
教材費	2300

教科書2

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115460
教材費	2300

備考 時宜に応じて、レジユメを配布する。受講者数しか印刷しないので、配布された資料は一人一部を守ってください。

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	18歳から考える人権
著者名	穴戸常寿 編
出版社	法律文化社
出版年	2015
ISBN	9784589037121
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input checked="" type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB0821	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員(ローマ字表記)	飛田 綾子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法と人権

授業の概要/Course Overview

社会に生きる限り、人は法と無関係ではられません。よって法に関する正しい知識を学ぶことは結局、自分自身のためになります。同時に自分と様々な面で異なる人々と共存していく現代に必要な知識でもあります。この授業では憲法が保障する「基本的人権」を説明します。具体的には、刑事手続き上の権利、生存権や法の下での平等、表現の自由など、聞いたことはあってもイメージはしにくい権利や自由を、法学の初心者にも分かりやすく、様々な裁判例を挙げながら説明していきます。

キーワード/Keyword(s)

法、憲法、政治、人権、権利、自由、裁判、立憲主義、違憲審査制度

到達目標/Learning Objectives

- ①日本国憲法が保障している人権の内容や裁判例についての基本的知識を説明できる。
- ②日本の人権に関する各国との相違を把握し、あるべき姿を自分で考察できるようになる。
- ③憲法による人権保障の意義、ひいては憲法の存在意義を自分で考察できるようになる。
- ④脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本授業はすべてTeams を利用した同時双方向のオンライン授業で実施します。

第1回：シラバスを用いたガイダンス／人身の自由（刑事手続きなど）／
参政权(選挙権、一票の較差について)／国務請求権（国家賠償請求権、請願権、裁判を受ける権利）

【授業内容】

ガイダンスの後、早速憲法が保障する権利を具体的に学んでいく。まずは比較的、イメージしやすい権利である刑事手続き上の権利や参政权について判例を挙げながら説明する。国務請求権の具体例を見ていく。

【授業外学修】

授業内容の復習・確認。普段ニュースで目にする刑事事件と授業で学んだ内容を比較して、刑事手続きのあるべき姿を考察する。一票の較差を厳格に是正することは是非について考えてみる。国家賠償請求の意義と限界について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(ミニツッパーパー) 憲法のイメージや問題点として考えているものを自由に書いてもらう。

第2回：社会権（社会権を保障する意味、生存権・教育を受ける権利・労働基本権）

【授業内容】

社会権をめぐる著名な裁判である朝日訴訟や旭川学カテスト事件などを取り上げ、国民に一定の生活環境や教育を保障するために必要なことや、その限界について学ぶ。

【授業外学修】

授業内容の復習・確認。社会保障の存在意義を各自で考えてみる。裁判の時代背景を考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

（復習テスト）朝日訴訟や堀木訴訟、全通東京東京中郵事件などの有名な裁判の内容を確認する。

第3回：経済的自由権（経済的自由の歴史と意義、職業選択の自由、財産権の保障）

【授業内容】

薬局距離制限事件や森林法事件など、違憲判決が数多く下されている分野である。その理由づけを理解する。

経済活動をめぐる政治の介入のあり方について司法が下してきた判断について説明する。

【授業外学修】

日本の労働環境で問題視されている点を調べてみる。新型コロナウイルスの流行に伴う飲食店等への営業時短要請の憲法上の問題点について各自考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

（授業前レポート）一票の格差の厳密な是正の是非。（150字以上）

（復習テスト）著名な判決の内容や、違憲審査基準についての知識を確認する。

第4回：思想・良心の自由／信教の自由（個人の信教の自由と政教分離の原則など）

【授業内容】

謝罪広告や、君が代のピアノ伴奏や起立斉唱拒否をめぐる裁判や、靖国神社への玉串料奉納をめぐる判決などを取り上げ、裁判所の判断を見ていく。

【授業外学修】

授業内容の復習・確認。思想・良心の自由や信教の自由の日本の現状について考える。成立にあたって議論を呼んだ共謀罪について調べてみる。企業の契約の自由と労働者の思想・良心が対立した場合を自分に置き換えて考えてみる。信教の自由と表現の自由が衝突した例とされる世界的なニュースを調べる。

【アクティブ・ラーニング】

（復習テスト）判決の趣旨や、判例で提示された違憲か合憲かの判断基準などを確認する。

第5回：表現の自由

【授業内容】

表現の自由の原理、検閲・事前抑制の禁止、性表現、名誉毀損的表現、犯罪のせん動などについての裁判所の判断を見ていく。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。性表現や名誉毀損的表現といった価値の低い表現が保障される理由を考えてみる。マスメディアの報道の改善点について考えてみる。ヘイトスピーチの規制について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 表現の自由が保障される理由や、憲法で禁止されている検閲の具体的内容、さまざまな表現をめぐる裁判の内容について確認する。

第6回：学問の自由／包括的基本権／法のもとの平等①（平等の内容、司法審査の基準、判例①尊属殺重罰規定など）

【授業内容】

先端技術の規制や、教育・研究機関としての大学の自治のあり方についての裁判所の判断、またプライバシーの権利や自己決定権をめぐる裁判について見ていく。また「法の下での平等」の意味や、裁判所の判断の基準、判例を見ていく。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。クローン技術の具体的内容、その成果、また規制法による先端技術の規制の是非について考えてみる。また「プライバシー」とSNSの関係について考えてみる。自己決定権を認めることの利益・不利益について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 学問の自由に関する裁判（劇団ポポロ事件）や輸血拒否事件などの自己決定をめぐる裁判の趣旨についての知識、また違憲審査基準についての知識を確認する。

第7回：法のもとの平等②（夫婦同姓規定・再婚禁止期間裁判）／基本的人権総論①人権の享有主体・外国人の人権・私人間適用

【授業内容】

夫婦同姓規定や再婚禁止期間をめぐる最高裁の判断や、基本的人権が保障される主体とは誰か、外国人と日本人で人権の保障に違いについて説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。日本の外国人をめぐる法的問題について具体的に調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 法の下での平等や著名な判例の趣旨の確認。

(授業前レポート) ヘイトスピーチ規制法についての考えを論じたもの。(150字以上)

第8回：まとめ(45分)

【授業内容】

基本的人権のまとめとして、「公共の福祉」とは何かについて説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。授業で触れた裁判について総ざらいしてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 公共の福祉をめぐる学説や、違憲審査基準についての知識を確認する。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

2回目以降の授業では毎回、復習テストをFormsを使用して実施します。また授業内容を踏まえた上で、時事ニュースにかかわる問題も出題するので、各自ネット等で調べた上で答えてもらおうと考えています。時間的余裕は十分取ります。

授業前レポートを2回ほど予定しています。150字以上で憲法問題への各自の意見を問うものを考えています。

履修上の注意/Notes

- ①授業での疑問点は、教員に質問したり、参考書の該当箇所を読んだりして早めに解決してください。
 - ②授業前レポートとして、憲法上の論点に関する自分の考えや法律の是非について調べてもらうことがあるので、各自積極的に調べてください。
 - ③遅刻は授業開始後15分まで認めます。遅刻3回で欠席1回とカウントします。出席はFormsまたはTeams内のアンケート機能でとります。
 - ④参考書購入費以外に係る金額はありません。
- 教育職員免許状取得希望者は、題目「憲法と政治制度」（担当：飛田綾子）と合わせて2単位を修得してください。

情報端末の活用

- ①オンライン授業で使用可能なPCを準備しておいてください。
- ②講義資料は Teams で事前配信します。ダウンロードして目を通しておいてください。印刷するか否かは各自で判断してください。
- ③出席確認クイズ、復習テスト、授業前レポート、期末レポートについては、Formsに提出してください。（状況の変化でmanabaに変更することもあります。）

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点を十分に把握した上で、憲法の実在意義について説得力のある議論を展開できる。さらに脚注などに十分に体裁の整ったレポートを作成できる。
- A：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の実在意義を考察できる。一定程度体裁の整ったレポートを作成できる。
- B：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の実在意義を概ね考察し、レポートで考えを伝えることが出来る。
- C：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の実在意義を最低限、説明できる。
- D：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点を修得できておらず、憲法の実在意義を説明できない。

成績の評価方法/Grading

8回目後半の期末試験は実施しません。

毎回授業後に行う復習テスト(初回は除く)、授業前レポート(2回予定)、コメント(適宜)：40点/期末レポート60点。

授業中の積極的発言や質問は成績評価に加味します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特にありません。教員が作成した資料を配布します。
----	------------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法学読本 第3版
著者名	安西文雄 [ほか] 著
出版社	有斐閣
出版年	2018
ISBN	4641227616
教材費	2970

参考書2

書名	論点日本国憲法：憲法を学ぶための基礎知識
著者名	安念潤司 [ほか] 編著
出版社	東京法令出版
出版年	2014
ISBN	4809063070
教材費	2860

参考書3

書名	憲法判例集 第11版
著者名	野中俊彦・江橋崇編著
出版社	有斐閣
出版年	2016
ISBN	4641091609
教材費	1100

参考書4

書名	憲法講話—24の入門講義
著者名	長谷部恭男
出版社	有斐閣
出版年	2020
ISBN	4641227829
教材費	2750

参考書5

書名	ブリッジブック憲法
著者名	横田耕一・高見勝利編
出版社	信山社出版
出版年	2002
ISBN	4797223014
教材費	2200

参考書6

書名	基本的人権の事件簿 第6版
著者名	棟居快行ら
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	4641281475
教材費	2090

参考書7

書名	国家と社会の基本法 第4版
著者名	上野幸彦・古屋等

出版社	成文堂
出版年	2018
ISBN	4792306337
教材費	2750

参考書8

書名	新・判例ハンドブック憲法 第2版
著者名	高橋和之
出版社	日本評論社
出版年	2018
ISBN	4535008302.0
教材費	1540

参考書9

書名	教養としての憲法入門
著者名	神野潔編著
出版社	弘文堂
出版年	2016
ISBN	4335356633
教材費	2750

参考書10

書名	比較憲法 第3版
著者名	辻村みよ子
出版社	岩波書店
出版年	2018
ISBN	4000289195
教材費	3410

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	△
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB0822	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員(ローマ字表記)	飛田 綾子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法と政治制度

授業の概要/Course Overview

近年憲法改正の必要が叫ばれています。改正の必要性を考えるためには、議論の高揚している背景を理解し、憲法に関する基礎知識が必要です。憲法は人権保障と並んで国会、内閣、裁判所といった統治機構について規定しています。こうした機関が持つ権限や、日本国憲法の成立経緯や天皇制、平和主義や地方自治などを、憲法学の従来の議論や有名な裁判、また他国との比較的观点を盛り込みながら説明します。

キーワード/Keyword(s)

憲法、政治、政治制度、デモクラシー、国会、裁判所、地方自治、平和主義、憲法改正

到達目標/Learning Objectives

- ①日本国憲法に規定された国会、内閣、裁判所の各々の権限、役割分担や、日本国憲法の成立経緯や安全保障や国際貢献などの憲法9条をめぐる問題、地方自治や財政の規定について説明できる。
- ②現在議論されている憲法改正について、憲法学の基本的知識を踏まえた上で自ら考察できる。
- ③各国の政治制度と日本国憲法を比較し、共通点や相違点を把握できる。
- ④脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本授業はすべてTeams を使用した同時双方向のオンライン授業で実施する。

第1回：シラバスを用いたガイダンス／憲法とは何か／立憲主義とは何か／デモクラシーとは何か

【授業内容】

ガイダンスの後、憲法の種類や区分、思想的基盤である立憲主義や、デモクラシーとの関係を説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。憲法の必要性について考えてみる。デモクラシーの意味するところ、またメリットとデメリットについて考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(ミニツツペーパー) 憲法のイメージや、日本国憲法の問題点として考えているものについて各自自由に書いてもらう。

第2回：日本憲法史／天皇制(天皇の地位や天皇の人権享有主体性など)

【授業内容】

大日本帝国憲法と日本国憲法の制定過程、両者の相違点を説明する。また天皇の地位の変化について国事行為などに言及しながら、説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。明治憲法の改正がなぜ必要だったのか考えてみる。天皇の国事行為と公的行為の違いについて考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 戦前と戦後の日本の政治体制の変更点等についての知識を確認する。

第3回：平和主義①（憲法9条の解釈、自衛隊の合憲性など）

【授業内容】

平和主義（憲法9条の解釈・自衛隊の合憲性、平和安全法制の内容について説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。砂川事件など、憲法9条に関係する著名な裁判の時代背景を調べてみる。日本の戦後史について、沖縄返還など大きな政治的出来事を調べてみる。日本の安全保障と国際貢献の在り方について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 9条に関する政府解釈や学説についての理解の確認。

第4回：平和主義②（各国の平和安全法制）／主権の意味／国会①（国会の地位と組織、衆参両院の関係など）

【授業内容】

国家が持つ主権の意味や、国民の代表の意味、国会の地位と組織、衆参両院の関係などについて説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。国会議員を国民が罷免出来ない理由を考えてみる。また、国会議員の選挙の不正をめぐる裁判などのニュースについて調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 国民の「代表」の意味や国会の権限、国会議員の特権などについての知識を確認する。

(授業前レポート) 「正義のための戦争」と日本の関わり方について自由に論じる。(150字以降)

第5回：国会②（国政調査権など）／内閣

【授業内容】

内閣や総理の資格や権限、衆議院の解散の根拠、各国の政治制度との比較などについて説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。世界各国の政治ニュース、特に立法府と行政府をめぐるニュースを調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 日本の議院内閣制と各国の政治制度の相違点の理解を確認する。

第6回：裁判所

【授業内容】

裁判所が担う司法権の範囲と限界、立法・行政との関わり方、裁判員制度の是非、各国の違憲審査制度との相違など)

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。実際の裁判への不満等と授業内容を照合してみる。裁判官という選挙によって選ばれたわけではない存在が、選挙によって選ばれた国会議員が作成した法律に違憲判決を下すことの意味を考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 司法権の意味や最高裁の権限等についての知識を確認する。

第7回：地方自治／財政（公金支出の禁止の原則などについて）／憲法改正（各国の要件・経緯）

【授業内容】

地方自治の下で地方自治外に保障される権限や、リコールなどの住民の権利を説明する。また私学助成の問題について説明する。憲法改正の各国の要件について説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。財政収支均衡の重視策や道州制導入の是非を考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 予算や地方自治における基本知識の確認。

(授業前レポート) 国会審議の活性化について各自の意見を自由に書いてもらう。(150字以上)

第8回：まとめ(45分)

【授業内容】

授業の総ざらいをする。安全保障体制や、政治制度、国会、内閣、裁判所、憲法改正を各国と比較する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。憲法改正の必要性について考察。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 違憲審査制度に関する基本知識や各国の憲法改正の概要の確認。

【授業外学修】

各回の授業外学修に関する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

2回目以降の授業では毎回、復習テストをFormsを使用して実施します。また授業内容を踏まえた上で、時事ニュースにかかわる問題も出題するので、各自ネット等で調べた上で答えてもらおうと考えています。時間的余裕は十分取ります。

授業前レポートを2回ほど予定しています。150字以上で憲法問題への各自の意見を問うものと考えています。

履修上の注意/Notes

- ①疑問点は教員に質問したり、参考書の該当箇所を読んだりして早めに解決してください。
- ②授業前レポートとして、最近のニュースと授業内容を関連付けて各自の意見を150字程度で説明してもらうことがあるので、各自積極的に調べてください。
- ③遅刻は授業開始後15分まで認めます。遅刻3回で欠席1回とカウントします。出席はFormsまたはTeams内のアンケート機能でとります。
- ④参考書購入費以外に係る金額はありません。

教育職員免許状取得希望者は、題目「憲法と人権」（担当：飛田綾子）と合わせて2単位を修得してください。

情報端末の活用

- ①オンライン授業で使用可能なPCを準備しておいてください。
- ②講義資料は Teams で事前配信します。ダウンロードして目を通しておいてください。印刷するか否かは各自で判断してください。
- ③出席確認クイズ、復習テスト、授業前レポート、期末レポートについては、Formsに提出してください。（状況の変化でmanabaに変更することもあります。）

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を十分に修得し、各国との比較的观点を持ちながら、憲法改正について説得力のある議論を、体裁の整ったレポートで十分に展開できる。
- A：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を修得し、憲法改正について一定程度の議論ができる。
- B：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を概ね修得し、憲法改正について説明できる。
- C：日本国憲法の統治機構に関する基本知識について最低限の修得をしており、憲法改正について最低限の説明ができる。
- D：日本国憲法の統治機構に関する基本知識について修得できておらず、憲法改正について説明できない。

成績の評価方法/Grading

8回目後半の期末試験は実施しません。

毎回授業後に行う復習テスト(初回は除く)、授業前レポート(2回予定)、コメント(適宜)：40点/期末レポート60点。

授業中の積極的発言や質問は成績評価に加味します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特にありません。教員が作成した資料を配布します。
----	------------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法学読本 第3版
著者名	安西文雄 [ほか] 著
出版社	有斐閣
出版年	2018
ISBN	4641227616
教材費	2970

参考書2

書名	憲法講話—24の入門講座
著者名	長谷部恭男
出版社	有斐閣
出版年	2020
ISBN	4641227616
教材費	2750

参考書3

書名	比較憲法 第3版
----	----------

著者名	辻村みよ子
出版社	岩波書店
出版年	2018
ISBN	4000289195
教材費	3410

参考書4

書名	論点日本国憲法：憲法を学ぶための基礎知識
著者名	安念潤司 [(ほか) 編著
出版社	東京法令出版
出版年	2014
ISBN	4809063070
教材費	2860

参考書5

書名	世界史の中の日本国憲法
著者名	佐藤幸治
出版社	左右社
出版年	2015
ISBN	4865281274
教材費	1100

参考書6

書名	トピックからはじめる統治制度 第2版
著者名	笹田栄司 [(ほか) 著
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	4641227802
教材費	2090

参考書7

書名	憲法判例集 第11版
著者名	野中俊彦・江原崇編著
出版社	有斐閣
出版年	2016
ISBN	4641091609
教材費	1100

参考書8

書名	リベラル・デモクラシーの現在
著者名	樋口陽一
出版社	岩波書店

出版年	2019
ISBN	4004318173.0
教材費	924

参考書9

書名	国家と社会の基本法 第4版
著者名	上野幸彦・古屋等
出版社	成文堂
出版年	2018
ISBN	4792306337
教材費	2750

参考書10

書名	教養としての憲法入門
著者名	神野潔編著
出版社	弘文堂
出版年	2016
ISBN	4335356633
教材費	2750

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB0871	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員(ローマ字表記)	Chienwei YEH				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

人文地理学の考え方

授業の概要/Course Overview

私たちが住んでいる場所は、どのように形成され発展してきたのだろうか。人間は、自然や環境と向き合いながらそれぞれの土地で独自の文化を築き、住みやすい場所を作り上げてきた。グローバルに眺めてみると、文化的にも空間的にも多様な地域が形成されていることがわかる。地域の多様性について考えると同時に、いかに多様性が生まれたのか、そして地域の格差がいかに生まれたのかを考える。

キーワード/Keyword(s)

人文地理学、風水、都市、方言、食文化、地域格差、移民

到達目標/Learning Objectives

人文地理学の基本的な考え方を理解できる。
人間がいかに自然や環境と向き合って、住みやすい場所を選び形成したかを理解できる。
人間の移動(移民)によって、いかに地域が形成されたかを認識できる。
地域によって文化や考え方が異なること、またその背景にある人文地理学的事象について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス～人間はどこに住むのか
- 第2回 風水と都市～地理学の歴史と風水・都市形成の関係について学ぶ
- 第3回 地域格差はなぜ生まれたか?～なぜ富める国と貧しい国があるのかを考える
- 第4回 食と方言から地理を考える～ご当地グルメと方言はどのように生まれたのか
- 第5回 境界・国境から地理を考える～境界や国境をめぐる諸問題を解明する
- 第6回 移民から地理を考える～移民や難民は、なぜ現在も増加し続けているのか
- 第7回 多文化社会と都市～中華街にみる多文化共生
- 第8回 まとめ

【授業外学修】

- (1) 講義内容は事前にTeamsにアップロードするので、ダウンロードして授業の準備をし、講義終了後にも地図や配布資料と共に復習すること。
- (2) 授業において出された課題について、次週までに必ず学修し提出すること。
- (3) 授業時間中に見た資料について、授業終了後に内容を復習し、自分の考えをまとめること。
- (4) 各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 授業内でアンケートなどを通じて意見を発表し、意見交換を行う。
- (2) 毎回の授業終了時には、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

- 1)高等地図帳（高校などで使用したもの）を用意してください。
- 2)正当な理由がない限り、遅刻および早退30分以上は欠席とみなします。
- 3)オフィスアワー：火曜日昼休み（メールあるいはTeamsで連絡してください）

情報端末の活用

- ・講義資料はTeamsに事前にアップロードするので、ダウンロードして授業に出席すること
- ・課題レポートについては、Teamsあるいは教務情報ポータルシステムを通じて提出すること

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：人文地理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらに社会との関連を十分に説明できている。
- A：人文地理学の基本的な知識と考え方を修得し、さらに社会との関連を説明できている。
- B：人文地理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらに社会との関連についてある程度説明できている。
- C：人文地理学の基本的な知識と考え方について最低限修得し、さらに社会との関連について最低限説明できている。
- D：人文地理学の基本的な知識と考え方について修得できておらず、さらに社会との関連についての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業中に課す課題／レポートなど（30点）および期末レポート（70点）により評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書はとくに指定しない
----	--------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	地理学概論
著者名	上野和彦, 椿真智子, 中村康子編著
出版社	朝倉書店
出版年	2015
ISBN	9784254168198
教材費	3630

参考書2

書名	はじめて地理学：身近なところから地球の「なぜ」を解き明かす
著者名	富田 啓介 著
出版社	ベレ出版
出版年	2017
ISBN	9784860645298
教材費	1870

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB0872	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	法律・政治				
担当教員(ローマ字表記)	高橋 大輔				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

社会と家族法Ⅰ～家族法入門

授業の概要/Course Overview

現代の家族がおかれている状況と家族法について講義する。具体的には、現在の家族問題について基本的にライフサイクルを通して取り上げ、法律がそれらの問題に対してどのように対処しているのかを講義していく。

キーワード/Keyword(s)

家族法、法学、結婚、妊娠出産、子ども虐待、離婚、高齢者介護。

到達目標/Learning Objectives

- ①法学の基礎的なことがらを理解できる。
 ②家族法の基礎的なことがらを理解できる。
 ③家族に関する問題について、法的に考察できるようになることを目指す。
 ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、②専門分野の学力、③課題解決能力・コミュニケーション力

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】ガイダンス実施。導入「家族法とは」。

【授業外学習】シラバスを確認しておくこと。

第2回：【授業内容】恋愛と結婚「結婚の条件」。

【授業外学習】テキストの該当ページを読んでおくこと（該当ページについては、前の時間に伝える。まだ出版されていないため教員もページ数までは、現段階では把握できていないため。）。

第3回：【授業内容】妊娠出産「誰が父親か?」。小テスト。

【授業外学習】テキストの該当ページを読んでおくこと（該当ページについては、前の時間に伝える。まだ出版されていないため教員もページ数までは、現段階では把握できていないため。）。小テストを行うので、第1回目、第2回目の内容を復習しておくこと。

第4回：【授業内容】子ども虐待。小テストの解説。

【授業外学習】テキストの該当ページを読んでおくこと（該当ページについては、前の時間に伝える。まだ出版されていないため教員もページ数までは、現段階では把握できていないため。）。第3回目に実施する小テストの解説を行うので、各自は小テストについて復習しておくこと。

第5回：【授業内容】離婚①「夫婦喧嘩→別居→離婚?」。小テスト。

【授業外学習】テキストの該当ページを読んでおくこと（該当ページについては、前の時間に伝える。まだ出版されていないため教員もページ数までは、現段階では把握できていないため。）。小テストを行うので第3回目、第4回目の内容を復習しておくこと。

第6回：【授業内容】離婚②「離婚した場合の子どもとお金」。小テストの解説。

【授業外学習】テキストの該当ページを読んでおくこと（該当ページについては、前の時間に伝える。まだ出版されていないため教員もページ数までは、現段階では把握できていないため。）。第5回目を実施する小テストの解説を行うので、各自は小テストの復習しておくこと。

第7回：【授業内容】高齢者介護①「誰が介護するのか？誰がお金を出すのか？」。小テスト。

【授業外学習】テキストの該当ページを読んでおくこと（該当ページについては、前の時間に伝える。まだ出版されていないため教員もページ数までは、現段階では把握できていないため。）。小テストを行うので、第5回目、第6回目の内容を確認しておくこと。

第8回：【授業内容】高齢者介護②「介護と法的責任」（45分）。小テストの解説。期末試験（45分）。

【授業外学習】テキストの該当ページを読んでおくこと（該当ページについては、前の時間に伝える。まだ出版されていないため教員もページ数までは、現段階では把握できていないため。）。第7回目に行う小テストの解説を行うので、各自は小テストについて復習しておくこと。定期試験を行うので、授業の内容を教科書、配布資料、ノート等を利用して復習しておくこと。

* 各回の【授業外学修】については、予習復習を含め、概ね4時間程度を目安とする。

* 第3回目、第5回目、第7回目に小テストを行う。

履修上の注意/Notes

遅刻については、特にマイナス評価の対象とはしないけれども、他の受講生の妨害になり得るため時間が厳守されることを期待する。復習を中心に学習してほしい。その際、単なる法律知識の暗記で終わることなく、法的に考えながら、学んで欲しい。

情報端末の活用

本講義はオンラインで行うため、情報端末があることが前提となる。また、講義資料の配布や小テストなどもオンラインを通じて行う。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標について高いレベル以上で達成されている。
- B：到達目標についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C：到達目標について最低限のレベル以上において達成されている。
- D：到達目標の2点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

8回目の定期試験（100%）による。知識に関して60%（評価の観点には到達目標の①②）、法的思考について40%（評価の観点には到達目標の③）。ただし、定期試験の解答に当たっては、知識を問う問題であっても法的思考が必要になるものもあり、また法的思考を問う問題であっても知識が必要になるものもあるので注意すること。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	よくわかる家族法（仮題）
著者名	
出版社	
出版年	2021
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8501	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	富塚 祥夫				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法の歴史と統治の基本原則

授業の概要/Course Overview

この授業では、国の最高法規とされる憲法が、通常法律とは異なり、国民を名宛人とするのではなく、国家権力ないしは権力行使担当者を名宛人とし、その権力行使を統制するためのルールであること（これを立憲主義という）、また憲法が採用する権力統制の手段としては、国民の権利保障と権力分立制が基本であり、さらには国民主権原理や平和主義原理も採用される場合があることについて、その意味や具体的内容の理解を主眼とする（ただし、国民の権利保障の具体的内容については第2クォーターの授業に譲る）。立憲主義を理解するためには、憲法というものがどのような意図と歴史を背景にして成立してきたのかを知ることが重要であるため、まずはその問題からはじめて、次に日本における憲法の歴史、そして日本国憲法が定める統治の基本原則の具体的内容を順次検討していく。

キーワード/Keyword(s)

立憲主義、法の支配、自然法思想、国体、国民主権、象徴天皇制、権力分立制、議院内閣制、司法権の独立、違憲審査制、平和主義

到達目標/Learning Objectives

憲法が国家権力による権限行使を統制するためのルールであること（立憲主義）、そしてまたその統制手段である国民主権原理、平和主義、権力分立制などの意義と内容を説明できること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本授業はすべてTeamsとmanabaを利用した双方向型のオンライン授業で実施する。

- 第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス、憲法の本質と役割（教科書2～3頁）
- 第2回：【授業内容】立憲主義の成立と展開（教科書2～5、8頁）
- 第3回：【授業内容】大日本帝国憲法の成立とその内容（教科書6～7頁）
- 第4回：【授業内容】敗戦と日本国憲法の成立（教科書12～17頁）
- 第5回：【授業内容】国民主権と象徴天皇制（教科書104～105頁）
- 第6回：【授業内容】権力分立制（教科書84～87、90～95頁）
- 第7回：【授業内容】平和主義（教科書9、26～39頁）
- 第8回：【授業内容】憲法における過去と未来—再び立憲主義について（教科書2～3頁、8頁）（前半45分）、期末試験（後半45分）

【授業外学習】

（1）各授業回で取り扱う内容について、主として教科書内容に即した予習用課題を事前（二週間前くらいを予定）に配布するので、それに取り組むこと。

（2）憲法の理念が実社会の中でどこまで実現されているのかいないのかを知るために、毎日、新聞を読むこと。

（3）法律関係の月刊誌としては、法学セミナー、法律時報、ジュリストなどがあり、図書館へ行けば

- 手に取ることができるので、時間を見つけてそれらの記事にも目を通すこと。
- (4) 授業の中で紹介する参考文献にも積極的に目を通すこと。
 - (5) 各回の授業外学習に要する時間は2時間程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

各回（第8回は除く）の終盤で実施する授業内課題（または小テスト）により、授業内容の振り返りを行う。また、その答えについては、次回授業の冒頭で解説を行う。

履修上の注意/Notes

- ・教科書は予習学習及び授業に必須であり、早めに入手すること。
- ・予習用課題並びに授業内課題（または小テスト）、両方の提出をもって出席とみなす。片方だけの提出では出席とはしない。
- ・オンライン授業では、他人の作成ファイルを簡単にコピーできるので、不正行為がおきやすいのであるが、もし不正行為が発覚した場合には厳正に対処するので、不正行為は絶対に行わないこと。

情報端末の活用

- ・オンライン授業のため、PC、スマートフォン等の使用は必須。
- ・受講者は、あらかじめ（二週間前くらいを予定）manabaを通じて配布する予習用課題に解答し、授業回ごとに分けて、授業開始前後15分以内（開始10分前から開始5分後まで）に、manabaのレポート機能により提出すること。
- ・授業は主としてTeamsを使用して行う。チームのコードはmanabaの「コースニュース」を通じて配布する。
- ・授業で使用する資料（レジュメ）等はmanabaの「コンテンツ」にアップロードしておくので、適宜ダウンロードして使用すること。
- ・授業の終盤で、manabaを使用して授業内課題（または小テスト）を実施する（第8回は除く）。
- ・第8回の授業は、前半45分を授業、後半45分を期末試験とする。期末試験もmanabaのレポート機能を使って行う。
- ・授業中に質問等がある場合は、Teamsの挙手機能を使用して挙手すること。教員から指名されたら、音声による会話が可能な場合は音声で、それが難しい場合はチャットにより発言すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
- A：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方を修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
- B：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
- C：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにそのしくみについて説明できている。
- D：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにそのしくみについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

予習用課題：32%、授業内課題または小テスト：28%、期末試験：40%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	新・どうなっている!?日本国憲法：憲法と社会を考える
著者名	播磨信義 [ほか] 編著
出版社	法律文化社

出版年	2016
ISBN	9784589037510
教材費	2300

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法の時間
著者名	井上典之編
出版社	有斐閣
出版年	2016
ISBN	9784641227118
教材費	1900

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8502	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	富塚 祥夫				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法による権利保障

授業の概要/Course Overview

日本国憲法が保障する権利について、人身の自由、精神的自由、経済的自由、平等権、社会権の順序で、それぞれの権利が保障されていることの意味と現状の問題点についての授業を行う。憲法による権利保障を見ていく際に重要なのは、誰による権利侵害から権利を保障するのかという視点である。というのは、国民の権利は他の国民によって侵害されることも多々あるからである。しかし、国民による他者の権利侵害は、法律によって統制されるべきものであって、憲法ではない。憲法による権利保障は、国家権力による権利侵害から国民の権利を保障するものであることをしっかり銘記しておくことが重要である。

キーワード/Keyword(s)

人権の私人間効力、公共の福祉、罪刑法定主義、適正手続主義、内心の自由、「思想の自由市場」論、検閲の禁止、国家神道、政教分離原則、不合理な区別の禁止、人間たるに値する生活の保障

到達目標/Learning Objectives

憲法が国家権力による権限行使を統制するためのルールであることを理解したうえで、日本国憲法が国家権力に対し保障を求めた権利について、その意義および内容と現状の問題点を説明できること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本授業はすべてTeamsとmanabaを利用した双方向型のオンライン授業で実施する。

- 第1回：ガイダンス、憲法による権利保障の意味（教科書48～49、42～43頁）
- 第2回：人身の自由（教科書64～65頁）
- 第3回：精神的自由（1）思想良心の自由（教科書54～55頁）
- 第4回：精神的自由（2）表現の自由（教科書58～59頁）
- 第5回：精神的自由（3）信教の自由（教科書56～57頁）
- 第6回：経済的自由（教科書66～67頁）
- 第7回：平等権（教科書52～53頁）
- 第8回：社会権（教科書68～69、72～75頁）（前半45分）、期末試験（後半45分）

【授業外学習】

- （1）各授業回で取り扱う内容について、主として教科書内容に即した予習用課題を事前（二週間前くらいを予定）に配布するので、それに取り組むこと。
- （2）憲法の理念が実社会の中でどこまで実現されているのかいないのかを知るために、毎日、新聞を読むこと。
- （3）法律関係の月刊誌としては、法学セミナー、法律時報、ジュリストなどがあり、図書館へ行けば

- 手に取ることができるので、時間を見つけてそれらの記事にも目を通すこと。
- (4) 授業の中で紹介する参考文献にも積極的に目を通すこと。
 - (5) 各回の授業外学習に要する時間は2時間程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

各回（第8回は除く）の終盤で実施する授業内課題（または小テスト）により、授業内容の振り返りを行う。また、その答えについては、次回授業の冒頭で解説を行う。

履修上の注意/Notes

- ・教科書は予習学習及び授業に必須であり、早めに入手すること。
- ・予習用課題並びに授業内課題（または小テスト）、両方の提出をもって出席とみなす。片方だけの提出では出席とはしない。
- ・オンライン授業では、他人の作成ファイルを簡単にコピーできるので、不正行為がおきやすいのであるが、もし不正行為が発覚した場合には厳正に対処するので、不正行為は絶対に行わないこと。

情報端末の活用

- ・オンライン授業のため、PC、スマートフォン等の使用は必須。
- ・受講者は、あらかじめ（二週間前くらいを予定）manabaを通じて配布する予習用課題に解答し、授業回ごとに分けて、授業開始前後15分以内（開始10分前から開始5分後まで）に、manabaのレポート機能により提出すること。
- ・授業は主としてTeamsを使用して行う。チームのコードはmanabaの「コースニュース」を通じて配布する。
- ・授業で使用する資料（レジュメ）等はmanabaの「コンテンツ」にアップロードしておくので、適宜ダウンロードして使用すること。
- ・授業の終盤で、manabaを使用して授業内課題（または小テスト）を実施する（第8回は除く）。
- ・第8回の授業は、前半45分を授業、後半45分を期末試験とする。期末試験もmanabaのレポート機能を使って行う。
- ・授業中に質問等がある場合は、Teamsの挙手機能を使用して挙手すること。教員から指名されたら、音声による会話が可能な場合は音声で、それが難しい場合はチャットにより発言すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
- A：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方を修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
- B：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
- C：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにそのしくみについて説明できている。
- D：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにそのしくみについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

予習用課題：32%、授業内課題または小テスト：28%、期末試験：40%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	新・どうなっている!?日本国憲法：憲法と社会を考える
著者名	播磨信義 [ほか] 編著
出版社	法律文化社

出版年	2016
ISBN	9784589037510
教材費	2300

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法の時間
著者名	井上典之編
出版社	有斐閣
出版年	2016
ISBN	9784641227118
教材費	1900

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8551	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	中野 雅紀				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代人権論 I

授業の概要/Course Overview

日本国憲法の基礎知識と、日本国憲法が成立した歴史的背景および思想・理論を習得することを目的とする。同時に、板書をただ書き写すだけでなく、それを自分のオリジナルなノートとして作成できる、という極めて大学生として基礎的な技術を身に付けてもらう。

キーワード/Keyword(s)

日本国憲法の三大原則、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正の限界、社会契約論、国家からの自由、国家による自由、国家への自由

到達目標/Learning Objectives

まず、すべての講義に出席して、その講義内容をノートとして纏められるようにすること(ICプレーヤー等による講義の録音を認める)。また、毎回、講義後に提出してもらおうリアクションペーパーがきちんと書けるようになること。最後に、地方1種試験レベルの試験をパスできる程度の知識を取得すること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1講 ガイダンス

第2講 今年の重要な最高裁判所判例を取り上げ、裁判のプロセス、判決の種類、三審制度などの基本的知識を解説する。

第3講 日本国憲法の三大原則の序列を考えてみよう(パート1)

第4講 日本国憲法の三大原則の序列を考えてみよう(パート2)

第5講 国民主権と権力分立(パート1)

第6講 国民主権と権力分立(パート2)

第7講 平和主義と具体的違憲審査制度(パート1)

第8講 平和主義と具体的違憲審査制度(パート2) 、期末試験(論述)

【授業外学修】

予習はいらない。しかし、復習は毎日、最低でも5時間はしてもらいたい。と言うより、ノートを作製し、それに基づいて復習するのだから、最低限、それぐらいの時間は作業を含めて、当然かかるはずである。楽をして単位が来るものではない。また、限られた時間での講義であるから、丁寧な解説を試みるが、当然のことながら舌足らずの解説については講義後の調べ学習をするのは大学生としての義務であり、それなりの自己学習と自己マネジメントは不可欠である。最後に、わたしの見解に従う必要はまったくないが、反対あるいは批判するためには、それなりの根拠が必要である。すなわち、批判的な態度で講義を受けつつ、一生懸命に勉強していただきたい。新聞を読んだり、ニュースを視聴するのも勉強になる。書籍は中央図書館にあり、判例は最高裁判所のHPで観ることができるのだから、それらを駆使してもらいたい。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業で、リアクションペーパーの提出を求める

履修上の注意/Notes

おそらくは抽選によって履修が認められるのだから、途中で止めることは非常識である。オフィス・アワーは月曜日2-3。試験前には、質問コーナーを設けるので積極的に活用すること。教育実習には、配慮するがそれが免罪符になるわけではない。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

まず、出欠とリアクションペーパーで、ノート提出の採点の許可・不許可を決める。したがって、形式審査として100%。

上記要件を満たしている場合、内容審査としての論述式期末試験を受験してもらう。そこでは、出題内容への適切な解答がなされていることが大切であるが、併せて解答用紙の表面を全部埋めているか、起承転結のしっかりした論文構成がなされているかが評価される。これが、100%である。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115453
教材費	2300

教科書2

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115460
教材費	2300

備考 時宜に応じて、レジユメを配布する。受講者数しか印刷しないので、配布された資料は一人一部を守ってください。

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	18歳から考える人権
著者名	穴戸常寿 編
出版社	法律文化社
出版年	2015
ISBN	9784589037121
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="checkbox"/>
コミュニケーション力	<input type="checkbox"/>
実践的英語力	<input type="checkbox"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="checkbox"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8552	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	中野 雅紀				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代人権論Ⅱ

授業の概要/Course Overview

日本国憲法の基礎知識と、日本国憲法が成立した歴史的背景および思想・理論を習得することを目的とする。同時に、板書をただ書き写すだけでなく、それを自分のオリジナルなノートとして作成できる、という極めて大学生として基礎的な技術を身に付けてもらう。

キーワード/Keyword(s)

日本国憲法の三大原則、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正の限界、社会契約論、国家からの自由、国家による自由、国家への自由

到達目標/Learning Objectives

まず、すべての講義に出席して、その講義内容をノートとして纏められるようにすること(ICプレーヤー等による講義の録音を認める)。また、毎回、講義後に提出してもらおうリアクションペーパーがきちんと書けるようになること。最後に、地方1種試験レベルの試験をパスできる程度の知識を取得すること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1講 基本的人権の基礎付けと分類(パート1)
- 第2講 基本的人権の基礎付けと分類(パート2)
- 第3講 公法と私法の分離と人権の享有主体性(パート1)
- 第4講 公法と私法の分離と人権の享有主体性(パート2)
- 第5講 平等原則と新しい人権(パート1)
- 第6講 平等原則と新しい人権(パート2)
- 第7講 精神的自由(表現の自由)の優越的地位と、その他の人権の司法審査基準について
- 第8講 まとめと期末試験(論述)、授業アンケート

【授業外学修】

予習はいらない。しかし、復習は毎日、最低でも5時間はしてもらいたい。と言うより、ノートを作製し、それに基づいて復習するのだから、最低限、それぐらいの時間は作業を含めて、当然かかるはずである。楽をして単位が来るものではない。また、限られた時間での講義であるから、丁寧な解説を試みるが、当然のことながら舌足らずの解説については講義後の調べ学習をするのは大学生としての義務であり、それなりの自己学習と自己マネジメントは不可欠である。最後に、わたしの見解に従う必要はまったくないが、反対あるいは批判するためには、それなりの根拠が必要である。すなわち、批判的な態度で講義を受けつつ、一生懸命に勉強していただきたい。新聞を読んだり、ニュースを視聴するのも勉強になる。書籍は中央図書館にあり、判例は最高裁判所のHPで観ることができるのだから、それらを駆使してもらいたい。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求める

履修上の注意/Notes

おそらくは抽選によって履修が認められるのだから、途中で止めることは非常識である。オフィス・アワーは月曜日2-3。試験前には、質問コーナーを設けるので積極的に活用すること。教育実習には、配慮するがそれが免罪符になるわけではない。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

まず、出欠とリアクションペーパーで、ノート提出の採点の許可・不許可を決める。したがって、形式審査として100%。

上記要件を満たしている場合、内容審査としての論述式期末試験を受験してもらう。そこでは、出題内容への適切な解答がなされていることが大切であるが、併せて解答用紙の表面を全部埋めているか、起承転結のしっかりした論文構成がなされているかが評価される。これが、100%である。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115453
教材費	2300

教科書2

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115460
教材費	2300

備考 時宜に応じて、レジユメを配布する。受講者数しか印刷しないので、配布された資料は一人一部を守ってください。

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	18歳から考える人権
著者名	穴戸常寿 編
出版社	法律文化社
出版年	2015
ISBN	9784589037121
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input checked="" type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8553	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	篠嶋 妥				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

ボランティア活動

授業の概要/Course Overview

ボランティア活動を通じて様々な人々と交流することや地域社会に貢献することは、教室の中で授業を受けて得られる知識とは違った新たな知見や価値観の発見につながることでしょう。この授業では、学生が自ら探した受入先でボランティア活動に従事することが主たる内容となります。そして、ボランティア活動中の様子及びボランティア活動の報告内容が評価に値すると判断された学生に対して単位を付与します。

キーワード/Keyword(s)

ボランティア、NPO、非営利、地域貢献、社会貢献

到達目標/Learning Objectives

- 1) ボランティア活動の社会的意義を理解できる。
- 2) ボランティア活動を通じて主体性・社会性・積極性・協調性およびコミュニケーション力を身につける。
- 3) ボランティア活動を通じて社会や地域に関心をもち、新たな課題を発見できる。
- 4) 社会や地域における自分の役割について意識できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1) 事前ガイダンス

ボランティア活動に対する単位の付与を希望する学生は、学期初めに開催する事前ガイダンスに参加すること。事前ガイダンスでは、単位付与までの手続き、ボランティア活動に参加に当たっての心構え、保険加入等について説明を行う。この事前ガイダンスに出席していない学生には授業としてのボランティア活動への参加を認めない。

2) ボランティア活動

自分で探したボランティア活動に合計30時間（1,800分）以上参加する。複数のボランティア活動の合計時間数が30時間（1,800分）以上であってもよい。

3) ボランティア活動実施報告書の提出

ボランティア活動終了後、ボランティア活動実施報告書（レポート）を作成し提出する。

【授業外学修】

ボランティア活動参加前

- 1) ボランティア先を自分で探す(自発的)。このため自分で受入先の活動内容について十分に調べる。
- 2) ボランティア活動に参加する動機やボランティア活動中に意識的に取り組みたいことを明確にしておく。

ボランティア活動中

- 3) ボランティア先のスタッフの一員であることを常に意識する。
- 4) その日のボランティア活動終了後に毎回活動記録をつけることを勧める。
- 5) ボランティア活動中に失敗したことや注意されたことを内省し次の活動に生かす。

履修上の注意/Notes

- 1) ボランティア先での不適切な服装・態度・言動、無断欠席、遅刻は厳に慎むこと。
- 2) 必ずボランティア活動に関する保険に加入すること。
- 3) 書類の提出期限を厳守すること。
- 4) 基盤教育科目においてボランティア活動によって付与する単位の上限は1単位までとする。
- 5) ボランティア活動中の他の授業や期末試験は欠席扱いとし補講・追試験等の特別措置はない。授業のない休業期間中に実施することを推奨する。

情報端末の活用

活用なし

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の4点について極めて高いレベルで達成されている
- A : 到達目標の4点について高いレベル以上で達成されている
- B : 到達目標の4点についておおむね以上のレベルで達成されている
- C : 到達目標の4点について最低限のレベル以上において達成されている
- D : 到達目標の4点のうち1点以上について全く達成されていない

成績の評価方法/Grading

ボランティア活動証明書・評価報告書「40%」とボランティア活動実施報告書（レポート）「60%」で評価する。評価の観点は到達目標に記載した4点である。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：なし
----	--------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	×	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8554	ナンバリング	KB-GHS-121-COP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

インターンシップ実習 I

授業の概要/Course Overview

インターンシップ（就業体験）受入企業や官公庁を探し、手続きし、実施することを通じて、将来への展望や職業意識を持てるように学びます。実習日誌及び報告書を提出していただきます（詳細内容は受入企業等ごとに異なります）。

キーワード/Keyword(s)

職業観, インターンシップ, キャリア形成, 社会人基礎力, 地域協創人材

到達目標/Learning Objectives

自分の将来への展望を考える基礎を身に付けること。
 インターンシップ（就業体験）を通じて職業意識を持つこと。
 何をやりたいのか考え、調べ、手続きし、報告できる力を付けること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. インターンシップの準備

各自でインターンシップ受入先企業や官公庁を探し、手続きしてください。
 キャリアセンターでインターンシップ参加登録をしてください。
 （キャリアセンターでもインターンシップ先企業等を紹介しています。）

2. 計画書の提出

キャリアセンターホームページに掲載されている「インターンシップ届出書兼誓約書」を各キャンパスのキャリアセンター等に提出し、その写し（コピー）を授業担当（小磯）までメール添付して送信してください。
 「事前研修（Web）」の内容を、授業担当（小磯）から返信いたします。
 キャリアセンターホームページ：<http://career.admb.ibaraki.ac.jp/>
 メール送信先（小磯）：shigetaka.koiso.usagi@vc.ibaraki.ac.jp
 ※計画が決まっていない場合は、受入れ企業や日程等は未記入のまま、キャリアセンター提出前にメール添付して提出してください。

3. インターンシップ実施

実習30時間（6時間×5日以上）を基本とします。複数企業への実習を合算できます。
 （1日単位のインターンシップは除外となります。）

4. 報告

インターンシップ実施後、「実習日誌」「報告書」を提出していただきます。

【授業外学修】

(1) 全体を通じて学外学修となります。自分のやりたい事を考え、受入先企業等を調べ、受入れ手続きを行い、準備し、実施し、振り返る学修を求めます。

(2) 職業について業界や企業等を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。

(3) インターンシップを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

【アクティブラーニング】

(1) 受入れ先企業等の指示に従い、仕事体験型、課題解決型、ジョブシャドウ型など主体的に就業体験を行います。

(2) 自らの目的を立て、その課題を実習日誌、報告書で振り返ります。

履修上の注意/Notes

重要：新型コロナ感染防止のため「Web等インターンシップ」のみ履修受付とします（予定）。

（対面型インターンシップ等については担当教員まで問い合わせください）

実習30時間（6時間×5日以上）を基本に1単位となります。

受入先企業や官公庁を自ら探して手続きする必要があります。

インターンシップ活動中の他の授業・試験は欠席扱いとなり補講・追試験等の特別措置はありません。授業のない休日、休業期間中に実施することを推奨します。履修登録の他にキャリアセンターにてインターンシップ参加登録をしてください。

「履修登録期間」が過ぎてしまった場合、履修を取り止める場合は、クォーター期間内に共通教育センターにご連絡ください。メール (kyoyo@ml.ibaraki.ac.jp) または電話 (029-228-8415/8416)

情報端末の活用

事前研修及び事後報告はteamを利用する予定です。

「Web等インターンシップ」は実習先企業等の指示に従ってください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：インターンシップの基本的な知識と考え方を十分に修得し、目的を到達する学外学修が経験できている。

A：インターンシップの基本的な知識と考え方を修得し、目的を到達する学外学修が経験できている。

B：インターンシップの基本的な知識と考え方を概ね修得し、目的に沿う学外学修が経験できている。

C：インターンシップの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、目的に沿う学外学修が経験できている。

D：インターンシップの基本的な知識と考え方が修得できておらず、目的に沿う学外学修が経験できていない。

成績の評価方法/Grading

インターンシップ先を「探し・手続きし・実施する」状況（30%）、「実習日誌」及び「報告書」（70%）をもとに成績評価が行われます。特に、報告書にて、参加する本人が設定するインターンシップの目的に沿った実習の成果を評価します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しません。 適宜資料を配布します。
----	----------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ、その他

実務経験のある教員による授業科目

インターンシップ先の受け入れ企業、官公庁等により異なりますが、就業体験を通じて学びます。

実践的教育から構成される授業科目

学外でのインターンシップ（就業体験）を通じて職業意識を持つこと、自分の将来への展望を考える基礎を身に付けることの実践的教育です。

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8555	ナンバリング	KB-GHS-121-COP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

インターンシップ実習Ⅱ

授業の概要/Course Overview

インターンシップ（就業体験）受入企業や官公庁を探し、手続きし、実施することを通じて、将来への展望や職業意識を持てるように学びます。実習日誌及び報告書を提出していただきます（詳細内容は受入企業等ごとに異なります）。

キーワード/Keyword(s)

職業観, インターンシップ, キャリア形成, 社会人基礎力, 地域協創人材

到達目標/Learning Objectives

自分の将来への展望を考える基礎を身に付けること。
 インターンシップ（就業体験）を通じて職業意識を持つこと。
 何をやりたいのか考え、調べ、手続きし、報告できる力を付けること。
 複数企業、官公庁等又は長期インターンシップを経験し、深く職業意識を持つこと。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

「インターンシップ実習Ⅰ」を履修した方、又は実習60時間（6時間×10日）以上を計画している方が対象となります（実習60時間以上を計画する場合は「インターンシップ実習Ⅰ」と合わせて履修してください）。

1. インターンシップの準備

各自でインターンシップ受入先企業や官公庁を探し、手続きしてください。
 キャリアセンターでインターンシップ参加登録をしてください。
 （キャリアセンターでもインターンシップ先企業等を紹介しています。）

2. 計画書の提出

キャリアセンターホームページに掲載されている「インターンシップ届出書兼誓約書」を各キャンパスのキャリアセンター等に提出し、その写し（コピー）を授業担当（小磯）までメール添付して送信してください。

「事前研修（Web）」の内容を、授業担当（小磯）から返信いたします。

キャリアセンターホームページ：<http://career.admb.ibaraki.ac.jp/>
 メール送信先（小磯）：shigetaka.koiso.usagi@vc.ibaraki.ac.jp

※計画が決まっていない場合は、受入れ企業や日程等は未記入のまま、キャリアセンター提出前にメール添付して提出してください。

3. インターンシップ実施

実習30時間（6時間×5日以上）を基本とします。複数企業への実習を合算できます。

(1日単位のインターンシップは除外となります。)

4. 報告

インターンシップ実施後、「実習日誌」「報告書」を提出していただきます。

【授業外学修】

(1) 全体を通じて学外学修となります。自分のやりたい事を考え、受入先企業等を調べ、受入れ手続きを行い、準備し、実施し、振り返る学修を求めます。

(2) 職業について業界や企業等を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。

(3) インターンシップを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

【アクティブラーニング】

(1) 受入れ先企業等の指示に従い、仕事体験型、課題解決型、ジョブシャドウ型など主体的に就業体験を行います。

(2) 自らの目的を立て、その課題を実習日誌、報告書で振り返ります。

履修上の注意/Notes

重要：新型コロナ感染防止のため「Web等インターンシップ」のみ履修受付とします（予定）。

(対面型のインターンシップ等については担当教員まで問い合わせください)

「インターンシップ実習Ⅰ」を履修した方、又は実習60時間（6時間×10日）以上を計画している方が対象となります（実習60時間以上を計画する場合は「インターンシップ実習Ⅰ」と合わせて履修してください）。

実習30時間（6時間×5日以上）を基本に1単位となります。

受入先企業や官公庁を自ら探して手続きする必要があります。

インターンシップ活動中の他の授業・試験は欠席扱いとなり補講・追試験等の特別措置はありません。授業のない休日、休業期間中に実施することを推奨します。履修登録の他にキャリアセンターにてインターンシップ参加登録をしてください。

「履修登録期間」が過ぎてしまった場合、履修を取り止める場合は、クォーター期間内に共通教育センターにご連絡ください。メール (kyoyo@ml.ibaraki.ac.jp)または電話 (029-228-8415/8416)

情報端末の活用

事前研修及び事後報告はteamsを利用する予定です。

「Web等インターンシップ」は実習先企業等の指示に従ってください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：インターンシップの基本的な知識と考え方を十分に修得し、目的を到達する学外学修が経験できている。

A：インターンシップの基本的な知識と考え方を修得し、目的を到達する学外学修が経験できている。

B：インターンシップの基本的な知識と考え方を概ね修得し、目的に沿う学外学修が経験できている。

C：インターンシップの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、目的に沿う学外学修が経験できている。

D：インターンシップの基本的な知識と考え方が修得できておらず、目的に沿う学外学修が経験できていない。

成績の評価方法/Grading

インターンシップ先を「探し・手続きし・実施する」状況（30%）、「実習日誌」及び「報告書」（70%）をもとに成績評価が行われます。特に、報告書にて、参加する本人が設定するインターンシップの目的に沿った実習の成果を評価します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しません。 適宜資料を配布します。
----	----------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8556	ナンバリング	KB-GHS-121-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	青柳 直子, 矢嶋 敬紘				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

多様性社会に関わるボランティア活動

授業の概要/Course Overview

ボランティア活動を通じて様々な人々と交流することや地域社会に貢献することは、教室の中で授業を受けて得られる知識とは違った新たな知見や価値観の発見につながります。この授業は、障害者支援に関わるボランティア活動について、学生が自ら探し活動に従事することが主たる内容になります。そして、ボランティア活動中の様子及びボランティア活動の報告内容が評価に値すると判断された場合に単位を付与します。

キーワード/Keyword(s)

障害者支援、ボランティア、NPO、非営利、地域貢献、社会貢献、

到達目標/Learning Objectives

- 1) ボランティア活動の社会的意義について理解できる。
- 2) ボランティア活動を通じて主体性・社会性・積極性・協調性およびコミュニケーション力を身につける。
- 3) 社会や地域における自分の役割や多様な人との共生について意識できる。
- 4) ボランティア活動を通じて社会や地域における障害者支援について関心をもち、より広い視野で多様な人を理解することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

本授業の構成（必須事項）は以下の3つから成る。

（1）事前ガイダンス

ボランティア活動に対する単位の付与を希望する学生は、学期初めに開催する事前ガイダンスに必ず参加すること。事前ガイダンスでは、単位付与までの手続き、ボランティア活動に参加に当たっての心構え、保険加入等について説明を行う。この事前ガイダンスに出席していない学生には授業としてのボランティア活動への参加を認めない。

（2）ボランティア活動

自分で探した障害支援に関わるボランティア活動に合計30時間（1,800分）以上参加する。複数の障害支援に関わるボランティア活動に参加し、その合計時間数が30時間以上であってもよい。新型コロナウイルス感染症流行状況等に応じて、オンラインでのボランティア活動を認める場合がある。これらについては事前に担当教員まで問い合わせること。

（3）ボランティア活動実施報告書の提出と事後指導

ボランティア活動終了後、ボランティア活動実施報告書（レポート）を作成し提出する。提出後、報告書に基づき活動の振り返りや体験による成果の確認など、今後のステップアップを視野に入れた事後指導を行う。

【授業外学修】

上記授業内容における(2)のボランティア先の選択から実際のボランティア活動の全てと、(3)の実施報告書の作成が授業外学修になる。授業外学修に際しての留意点等は以下の通りである。

◎ ボランティア活動参加前

- 1) ボランティア先を自分で探す際には、自分で受入先の活動内容について十分調べること。ボランティア先の選択に困った場合は、支援先の情報提供など必要に応じて支援するので相談すること。
- 2) ボランティア活動に参加する動機やボランティア活動中に意識的に取り組みたいことを明確しておく。
- 3) 必ずボランティア活動に関する保険に加入すること。

◎ ボランティア活動中

- 4) ボランティア先のスタッフの一員であることを常に意識し、ボランティア先での不適切な服装・態度・言動、無断欠席、遅刻は厳に慎むこと。
- 5) その日のボランティア活動終了後に毎回活動記録をつけることを勧める。
- 6) ボランティア活動中に失敗したことや注意されたことを内省し次の活動に生かす。

【アクティブラーニング】

ボランティア先の選択から実際のボランティア活動に至るまでの全てが授業外学修であると同時にアクティブラーニングに相当する。アクティブラーニングの学修効果を得るために、上記【授業外学修】における留意点として挙げた内容の実行を心がけること。

履修上の注意/Notes

- 1) 書類の提出期限を厳守すること。
- 2) 基盤教育科目においてボランティア活動によって付与する単位の上限は1単位までとする。
- 3) ボランティア活動中の他の授業や定期試験は欠席扱いとし補講・追試験等の特別措置はない。授業のない休業期間中に実施することを推奨する。
- 4) 活動に要する交通費などの費用については、全て自己負担となる。
- 5) 活動前に「基盤教育科目・人間とコミュニケーション【1Q】バリアフリー・アクセシビリティ支援入門」(担当教員：矢嶋 敬紘)の授業を履修することを推奨する。
- 6) 新型コロナウイルス感染症対策に留意した活動計画のもと、ボランティア活動を行うこと。

情報端末の活用

- ・事前ガイダンス及び事後指導はMicrosoft Teamsを利用する予定である。
- ・オンラインボランティア活動を行う場合は、受入先施設等の指示に従い情報端末等を活用すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらに到達目標1)-4)について十分に説明できている。
- A：ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方を修得し、さらに到達目標1)-4)について適切に説明できている。
- B：ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらに到達目標1)-4)について概ね説明できている。
- C：ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらに到達目標1)-4)について最低限説明できている。
- D：ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらに到達目標1)-4)について説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

ボランティア活動実施報告書に基づき評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	なし
----	----

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

臨床心理士の資格を持ち、ボランティアに関わる経験を有する教員等の指導のもと、ボランティアについての実習を行う。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8557	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2021年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	加藤 敏弘, 未定				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

アスリートの世界～鹿島アントラーズとの提携を通して～

授業の概要/Course Overview

スポーツの魅力に迫り、それを支えるアスリートたちの世界を紹介する。

アスリートがおかれている現状を把握し、その栄光の陰でさまざまな努力と苦労を重ねている様子を実際のアスリートたちの証言を元にとらえる。

その上で、アスリートの自覚と責任について考察し、サポーターとしての在り方についても議論する。

キーワード/Keyword(s)

スポーツ報道、サポーター、スポーツマネジメント、コーチング

到達目標/Learning Objectives

新聞やテレビで毎日取り上げられるスポーツについて、その実態をアスリートの立場から考察することができる。

その上で、日本のスポーツがおかれている現状を正しく理解し、各自のスポーツとの関わりについて主体的に考察することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. スポーツとは何か？（シラバスを用いたガイダンス）（加藤敏弘）
 - スポーツの語源から明治期に日本にスポーツが流入してきた経緯を辿り、現在の日本のスポーツに対する誤解を探る
2. 世界のスポーツ観と日本のスポーツの現状（加藤敏弘）
 - 各国の育成年代のスポーツ指導の調査結果を踏まえ、日本のスポーツが抱えている諸問題を理解する。
3. アスリートをとりまく環境（加藤敏弘）
4. アスリートの光と陰（土倉幸司）
5. アスリートの役割とその後（土倉幸司）
6. サポーターの役割とスポーツマネジメント（土倉幸司）
 - 鹿島サッカースタジアムにて、マーケティングの観点から実際のゲーム運営を探り、アスリートがおかれている環境やサポーターの役割について現地調査を踏まえて理解する。
7. コーチングの世界（加藤敏弘）
 - アスリートを支える最新のコーチングの基本を学び、過去に受けてきたスポーツ指導との差異を学ぶ。
8. 日本のスポーツのこれから（加藤敏弘）
 - 授業全体を踏まえて、日本のスポーツのこれからのについて議論し、自分の考えをまとめる。

【授業外学修】

- (1) 鹿島アントラーズの戦績を調査し、試合観戦に向けて事前に情報を収集する
- (2) 現地調査の結果を小レポートにまとめる。
- (3) 日本のスポーツのこれからのについて、授業や議論を踏まえて、スポーツニュースやインターネットを通じて情報を収集し、総合レポー

トにまとめる。

(4) 各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

(1) 第1・2・7・8回は、学内講師による講義。

(2) 第3～6回は、学外施設にて、実地調査を行うフィールドワークである。

履修上の注意/Notes

(1) 鹿島アントラーズと本学の提携を通して、他種多様なケースを把握するために、学外での授業がある。

(2) 現地での弁当代が必要となる。

(3) バスでの移動中、DVDの視聴と解説を伴う授業があるので遅刻は厳禁。

(4) 研究室：人文社会科学部A棟502、オフィスアワー：前期火5、後期金3

情報端末の活用

なし。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

- ・議論への取り組み：30点／小レポート：30点／総合レポート：40点
- ・8回目に期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

・株式会社鹿島アントラーズFCスタジアム事業部の土倉幸司氏が、その経歴・経験を活かして、アスリートをめぐるさまざまな今日的な課題について講義し、鹿島アントラーズFCのホームゲームを観戦することによって、コーチングスタッフや運営スタッフの動きやサポーターの役割など、ゲームを支える人々への理解を深める。

実践的教育から構成される授業科目

・茨城県立鹿島サッカースタジアムに向いて、指定管理者制度に基づいて管理・運営を委託されている株式会社鹿島アントラーズFCの担当者から、アスリートをめぐるさまざまな今日的な課題について講義を受け、実際にスタジアム内を見学し、質疑応答を通して、実践的な教育を行う。

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--